大倉流鼓手附　全

6
325

緒言

能楽ノ隆盛ニ伴ヒ素人ノ四拍子ヲ研究スル者尠ナカラズ、而シテソノ選ムヤ就中小鼓ニ多シ、サレド未タ是カ研究者ニ対シテ満足ヲ與フベキホドノ手附等ヲ見ズ、余藝事浅ナレドモ惟ヘリ、今日ノ時代ニシテ昔時ノ如ク日夜朝暮鼓ヲ肩ニシテ練習懈ラザルベシトハ到底不可能ノ要求ナリ、如カズ獨リ自ラ眼ニ教ヘヲ受ケテ心ニ支配セシメ手コレニ導ヒテ打チ、手コレヲ過リタル時ハ心コレヲ責メ心之ヲ誤リタル時ハ眼之ヲ正サシムベク則チ獨習ノ便

ヲ講ゼンニハト、依テ傳来ノ書ヲ繙キテ枝トナシ予ノ
習得シタルトコロヲ合シテ修飾ヲナシ、爰ニ作リ上ゲ
テレタルモノ即チ『大倉流小鼓手附』ナリ然レドモ予
素ヨリ是ヲ以テ完全無缺ノモノナリトハ誇ラズ
勿論修正ニ修正ヲ加ヘタレドモ尚誤アラバ後日訂
正ヲ施シ益指導ノ任ヲ全フスベキコトヲ誓フ
聊カ愚意ノアルトコロヲ述ベテ自序トス

明治四十一戊申年十一月

著者識

凡例

一本書ハ小鼓ヲ習得セントスル人ノ便ニ供センタメ
著ハシタルモノニシテ内外謡曲中凡ソ一順舞囃子
合方ニ應用シ得ル様ニ編纂シタリ
一鼓ハ大倉流ニシテ謡曲ハ嗜好家多キ観世流ヲ
用ヒ、笛譜ハ森田流、太鼓ハ金春流ニ習ヘリ
一手付ハ最モ平易ニ初心ノ人ト雖モ直チニ獲得シ
得ベキ様書顯ハシタルモノナレハソノ手ニ依テ項ヲ別
チ行ヲ改メ謡ノ文章等ハ是ヲ割當テタリ
一行ノ頭ニ朱書シタルハソノ手ノ名稱ナリ、同シク墨

書ハ謡ノ間ト知ルベシ

一手付ノ内黒●黒▲其他ノ黒點、掛聲等ハスベテ他ノ合方ナリ、即チ朱書ヲ以テ小鼓ノ手付及掛聲トナス

一小鼓手付ノ内●ハ「チ」ノ音ニシテ△ハ「タ」ノ音共ニ甲ニト云ヒ○ハ「ポー」ノ音フハ「プ」ノ音ニテトモニ乙ト云ヒ小鼓打方之ニ別ト知ラルベシ

一書中載スル處小鼓専用ナレバ謡節廻シ笛譜大鼓、太鼓等ハ悉シク記サス之レヲ諒セラルベシ

大倉流小鼓手附目次

○獨鼓

東北　一

羽衣　三

蟬丸　五

小督　七

玉葛　八

芦苅　十

松風　十二

○出端合方

次第　十四

一セイ　十六

イロヘ　ヨリクリ之事　二十

○舞囃子

櫻川　二十二

弱法師　二十六

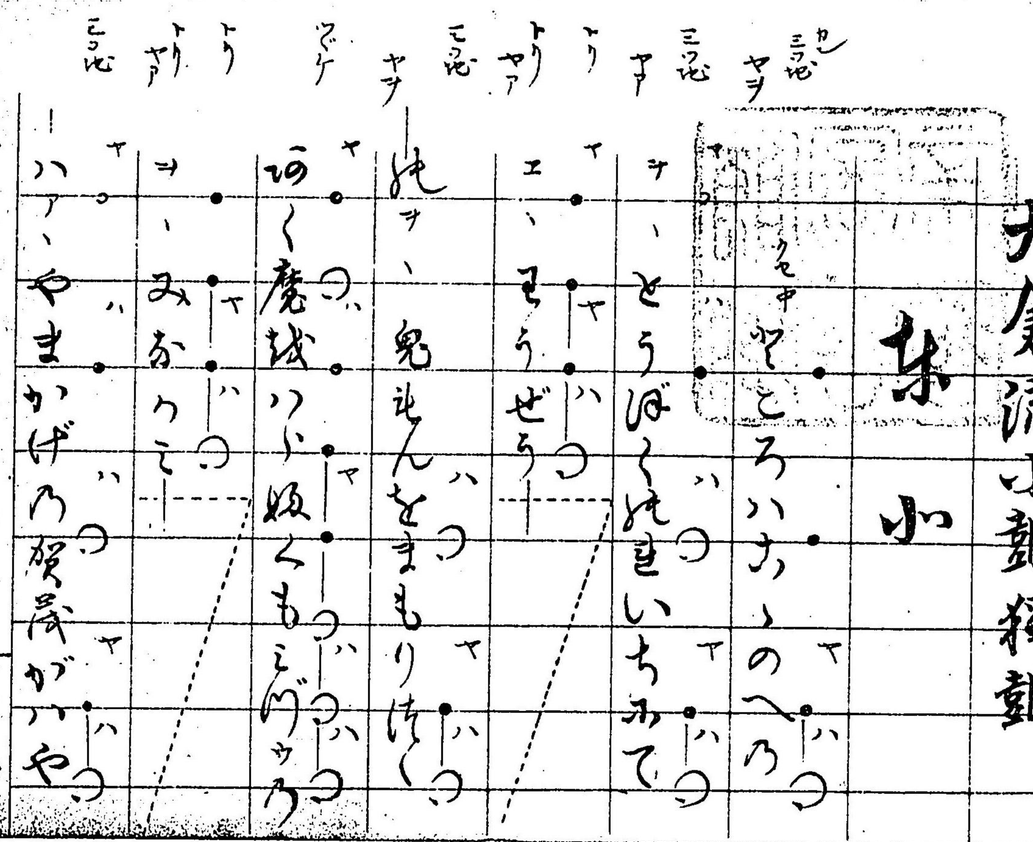
源氏供養　二十九

八島　カケリ　三十三
女郎花　カケリ　三十六
山姥　カケリ　三十七
○中之舞
斑女　破掛リ中之舞　三十八
雲雀山　同　囃子留合方　四十三
熊野　イロ(掛リ中之舞　四十四
○男舞
盛久　四十七
芦苅　五十二
安宅　山伏掛リ男舞　五十二
黄鐘　早舞　松虫。錦木。事　五十四
○序之舞
東北　五十六
夕顔　六十一
羽衣　太鼓序之舞　六十二
杜若　序之舞留メ　六十七
葛城　序之舞留メ　六十八
○盤渉早舞
融　越出端ヨリ早舞　六十九
絃上　早舞掛リ及留メ　七十六
○鞨鼓
花月　破掛リカツコ　七十八
放家僧　同　留メ　八十
自然居士　カツコ　八十一
東岸居士　破掛リカツコ留メ　八十二
破之舞　松風。羽衣　八十三
葵上　アヅサ井ミノヅト打出シ　八十八
葵上　祈リ三段カケリトモ云　八十九
猩々　サガリハヨリ舞囃子　九十一
西王母　其外太鼓中之舞之事　九十九
○神舞
高砂　百
養老　百八
竹生島　舞囃子　百九
出端越ヌ。天女舞。早笛。舞働キ

船辨慶　早笛之掛り　百二十
鉢木　後ワキ一セイヨリ後シテ早笛之事　百廿一
鞍馬天狗　大べシ　百廿二
邯鄲　真之ライジョ　百廿四
○樂
天鼓　ガク　百廿五
冨士太鼓　樂之掛り　百三十
邯鄲　同　百卅一
唐船　樂之留メ　百卅三
○神樂
三輪　百卅四
巻絹　序無シ神樂　百四十
終

大倉流小鼓獨鼓

朱　小



ゆきをくるまのわかれなごりぜも
いきをばよきそびばかりはぎや
らくれえんをかけやりや
ふいよ
ちするばたらへつ
とりかをくれたちうれ本
そうるたくぐつのれん
いていい
ばんせきかばうばろ

ろで城つら福地はそをうめ
いろをくありさはいば
ふがるをかろみやこかり
げんぶ
岡北んばらばうばかばをを
んぎやくのいんをいやすに
ふちい
夜ばてうばよおこういば九
夏さんぬくろうあつたけてあ

あき来よりやうたどろかア

いウ、かんていうまアつもらぜいえ

いせいうあきをうそよはしイて

エ、、、ぎやう

ウ求うこばゝいせウ様をえイせ地

イ多ーうたるつきかげハ

下地エ高きうたそうぜ得ーアエ

ウ、、やうぼくゝんやうの

イ今ハ今イ今ハ

おせいもうゝゆやうれたアり

羽衣

たるがけみ

たおゝきコろりしさうの

つき地のたらりをかやちく

ウ、、ゝゞエはなうゞらい

ろゝくいたる地きうしらや

ア、おもしろやあめあゝで

きいもたへなりの地はゝ皆

くゝ地のかよひちふ地とぢよ

をとめのそらア、

たア、、ちばしやぐはりく

ュ、、、とゥろまりばらぬ

ヤちるのいろゥ城ゥえはゲちアき

イ、、、ゥ

きィ城よえゲゥ姉ゲのゆゥき

いげきやえアるのあけぼのヲ

ヲたぐひかみもヲまつかぜもの

ゲゥかれうらぬありさほア

ア、、そのうへあをゥちい

かる城をゥてュんたまゲきゥの

うちとろかゥぬきをろまて

つきもくもらぬ日ぬもやや

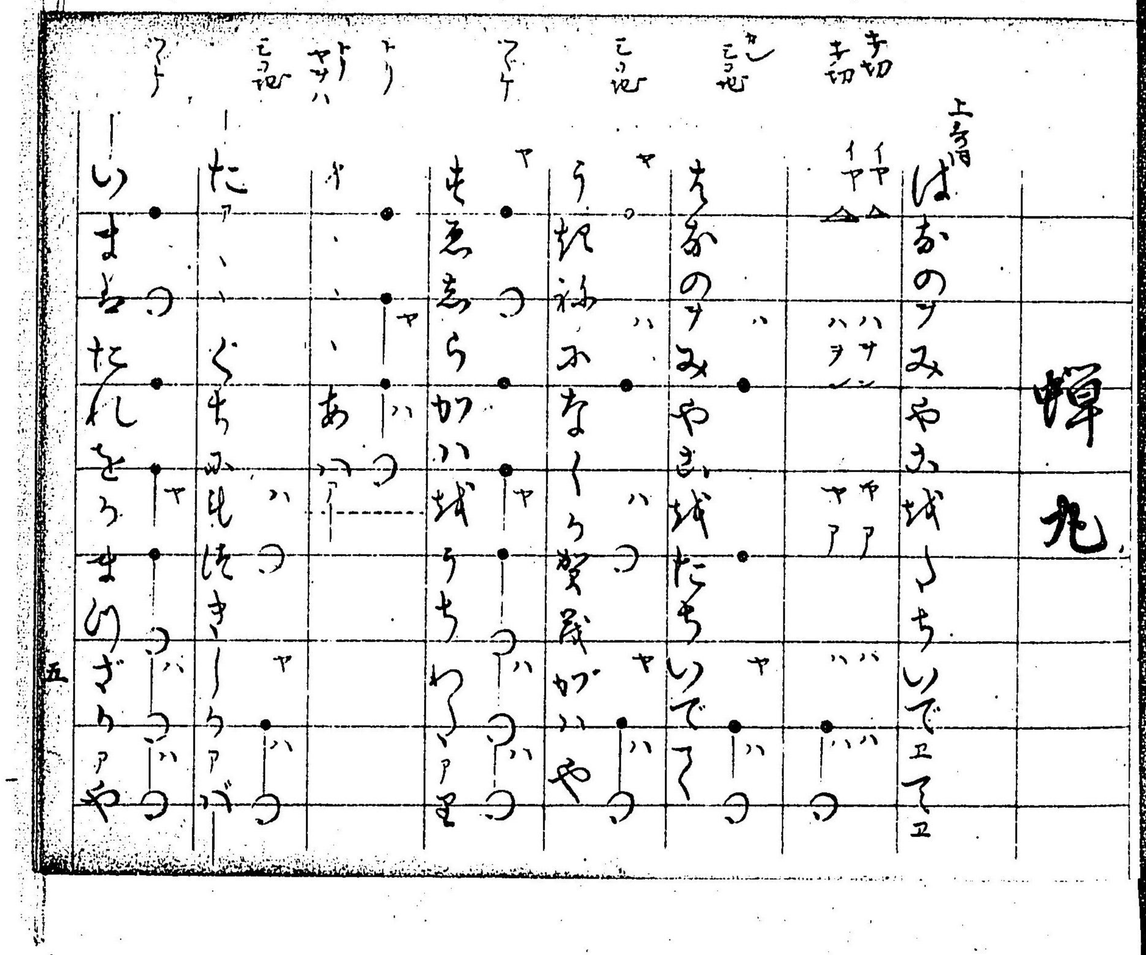
ュ、、ゥきィみゲア、代ナハ

あまぬ羽ぜろもまれまきく

なゲともはきぬいをはそや

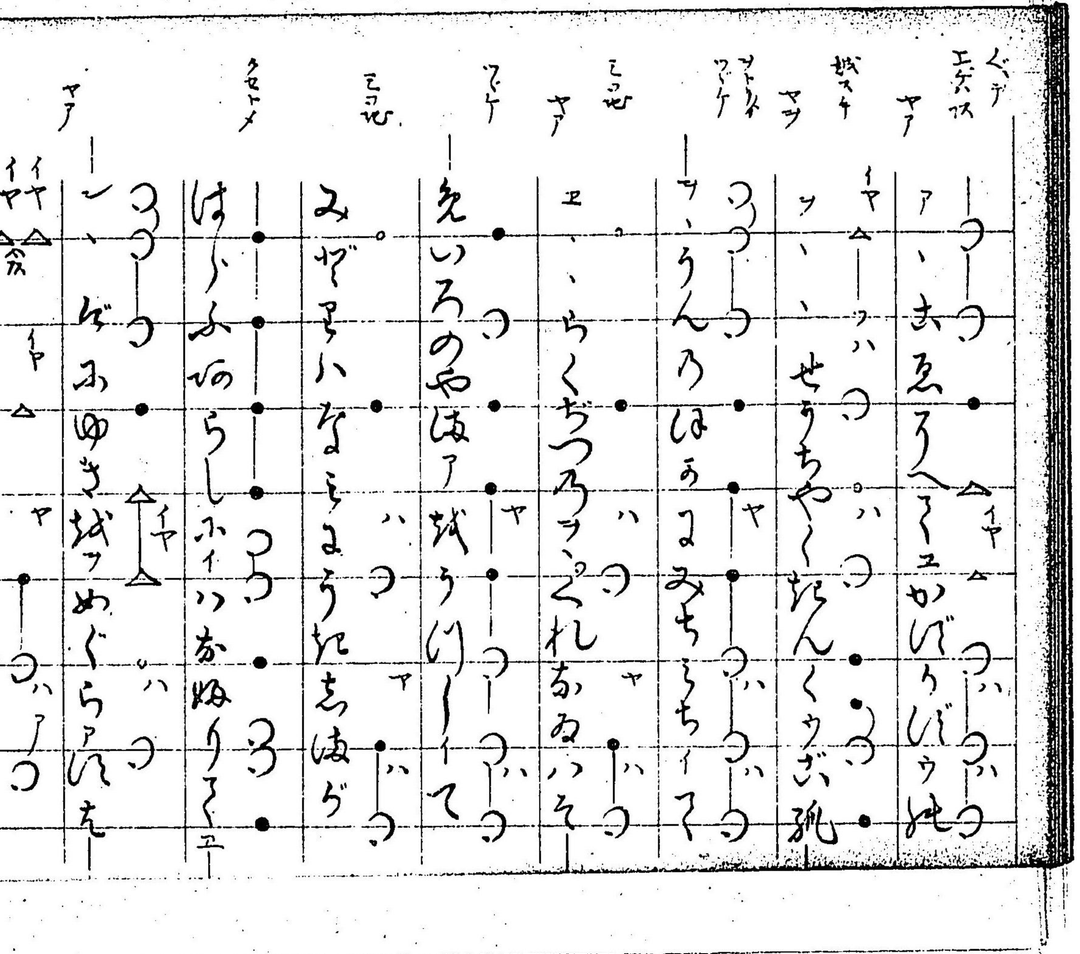
ィ、、ゥいきく

ゥもゥ、たゥへゥりィあゲまゥた

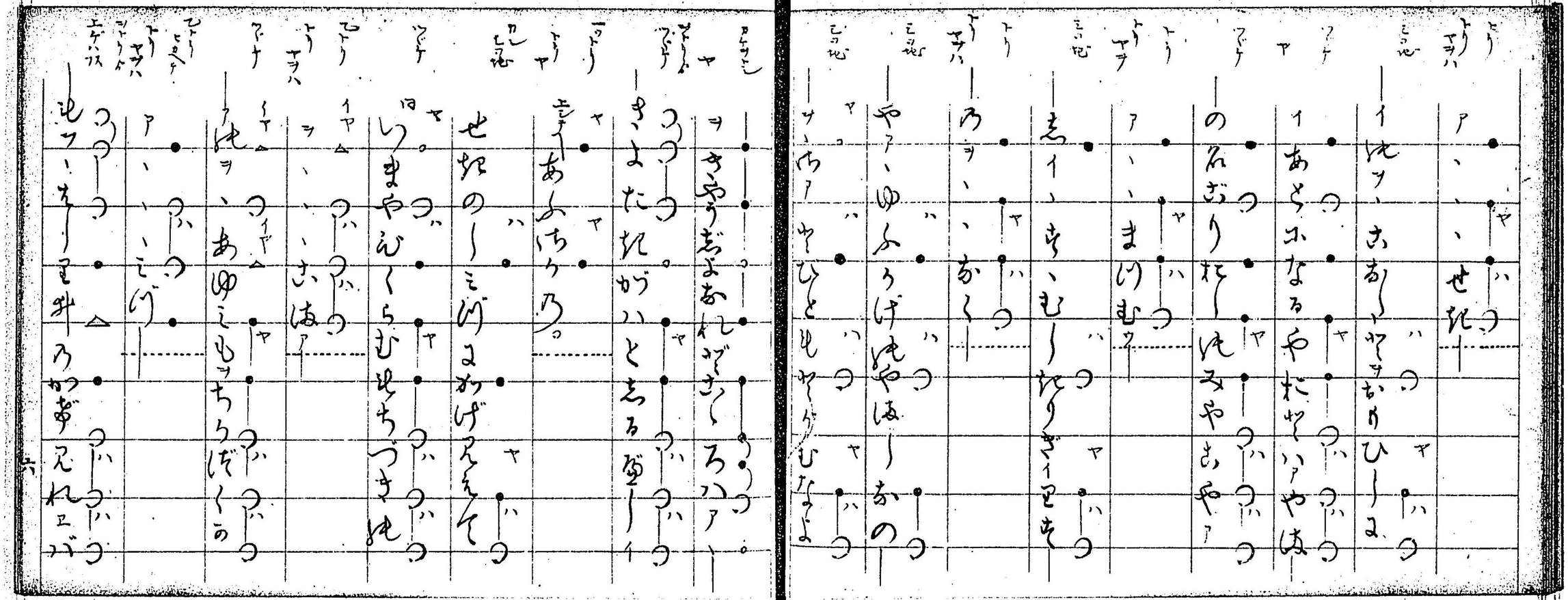


輝九

ばかのつみやふかしちいでて
そのつみやまぶかしたちいでて
ちゝはゝかいかしちわるまで
ちゝはゝなくらゝ賛成かいや
たゝいぐちふれはきしらばゝ
いまもたれをうまのざりや



まろろへるかびりびウ地
せうちやくしんくうぶ孤
うんろはるゆみちちいて
ゝらくちつろゝぐれあゐハそ
えいろのやはア城うけしいて
みゞアハなるゝるうたちはゞ
はゝふのらしふいハあぬりてエ
ゝゞふゆきしかつめぐらアはた
しうんろうでぞたへあるウ



小猪

をゝかけよせかけよせて
むうへひうへ支けぞうも六
ひくむとをかりをけり
いゝつきいふ
やあくがれいでたりし
とゝはうまいんまいをバこ
ゝさきさん東をれ
ゝゝゝ神のあらしいかま
りなのりをうあのらぬうり

たづぬるゑとりをゝそれ者ユウ
ヨクリ
カヅく
ヨロシカ
名トメ
なかぶとゝ支きたをバア
トリ
ゝゝをりと
をヲかヲもひてユさふる名のは
イヤ
うぶをんなりそうをしきイ
蟬九月月見
上日
ぐふもうさうもくもきりの
まよひもよりやううをきれ

む葛

ウ　ヤ　ハ　ウ　ヤ　ハ　ヤ　ハ　ヤ　ハ

さくらかたまのづら

さくらかたまのたまづら

かがきゆめぢにちるふるり

芦刈

名ふきかふかにそぼし

ふるさとかにそぼし

うしろもかはらやの

うちまくぬさ

あひきもふくす

あごやのふ

ウ、海士

よびかろとよとおんエまく

ウ、古平城も記くいのそ

ヲ目ェのまへ

にゝえいろありさ海

まごらん船よやひとびそ

ヲ、おにしろやさろあらん

はおもしろやさろあらん

十

ン、、、、、記ヤヲ

ヲヨイ、天せぐや陣のくふ井ぬ

ヲ、、、、なに

ハ、、、わ〳〵りぬもるのん

ヌイ、ねぼろぶ紙こぐ巡くれ

ウ、ねきぬ、かも免いそちやヲそ

イ、つ引で〳〵ちく〳〵ど免よしや

ア、あまのふぶ紙なるらん

上ヨテ、あいめエ、ヨーきーイ、るウ

ウ、日あアめエヨイ、きイ、れウ

ア、たるものゝ志ぬもゆるか逆バア

ク、入退ス、、、、ぬ井ぬまアれぎエ乃

ヨロシ、ウケテ、ヤハ、

ジトリ、ワハト、

ア、かきるなやるおからんン

ヤ、ア、エヨヤ、かにも潜のはるかれや

ヤ、ア、ヤ、ふまふう免乃きながうさ

ヤ、ア、ヤ、ぬふてふとりぬ佐ぶさにハ

ヤ、ア、ヤ、ヨロシ、トシテ、かアさけぎぬりあんぬ

ヤ、ア、ヤ、上ヨテ、ぬきれうきるようでけきる

あまけをとめ長きぬがさ
それはをとめさはす
かおよめ紅ハ
かづくそでのはち
ひぢげはれ
うをみるをとこ
ゆあしべ光
ゆかれへぎ
らりイ
ぢぶざりと
かぶれあざふる
ゆるやだアさ
えいづれもあさ
こちおもしろや

松風

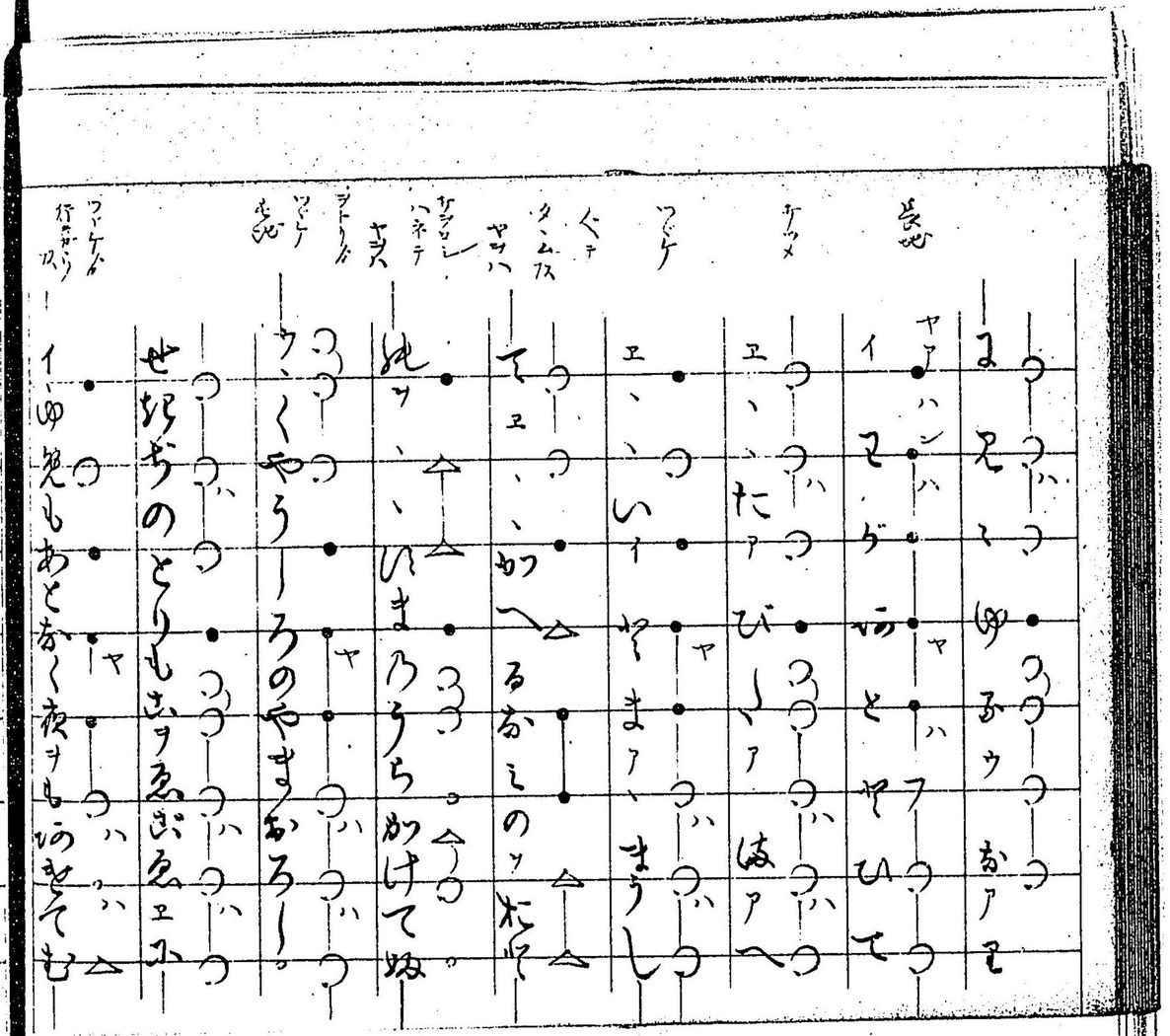
そさ主ちいかだ

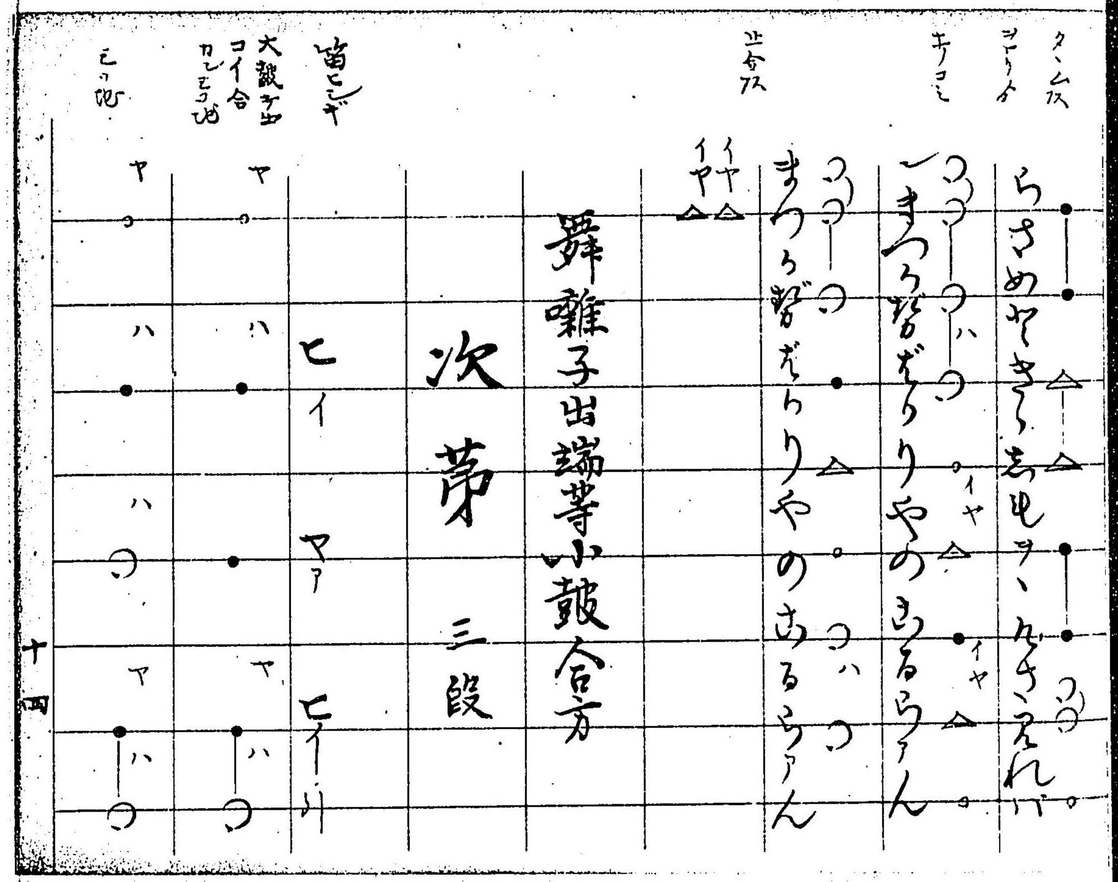
地やゆやゆやゆまり

しきみさかこそうらはに

ばわせしゆきびまりのゆきびらたちかへてこいばたちよりていそかれまつ地

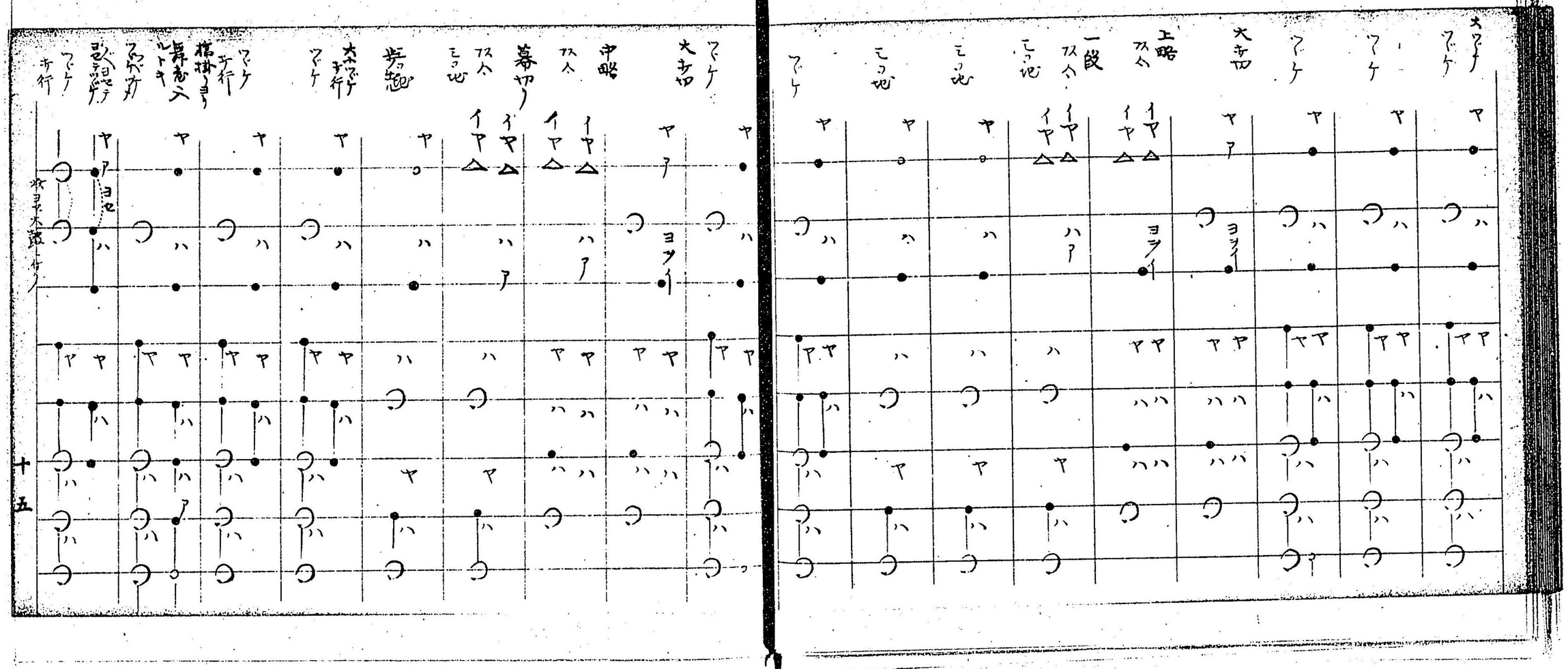
なつらしもぎきぬがらしもぎきぬがらしもぎきぬが





舞囃子出端等小鼓合方

次第　三段


大アラ
アラ
アラ
アラ
大キロ
上略
一段
こっち
こっち
こっち
アラ
大キロ
アラ
中略
幕切
こっち
こっち
アラ
大アラ
アラ
舞台
アラ
舞台入
アラ
歌テヨセ
アラ
十五

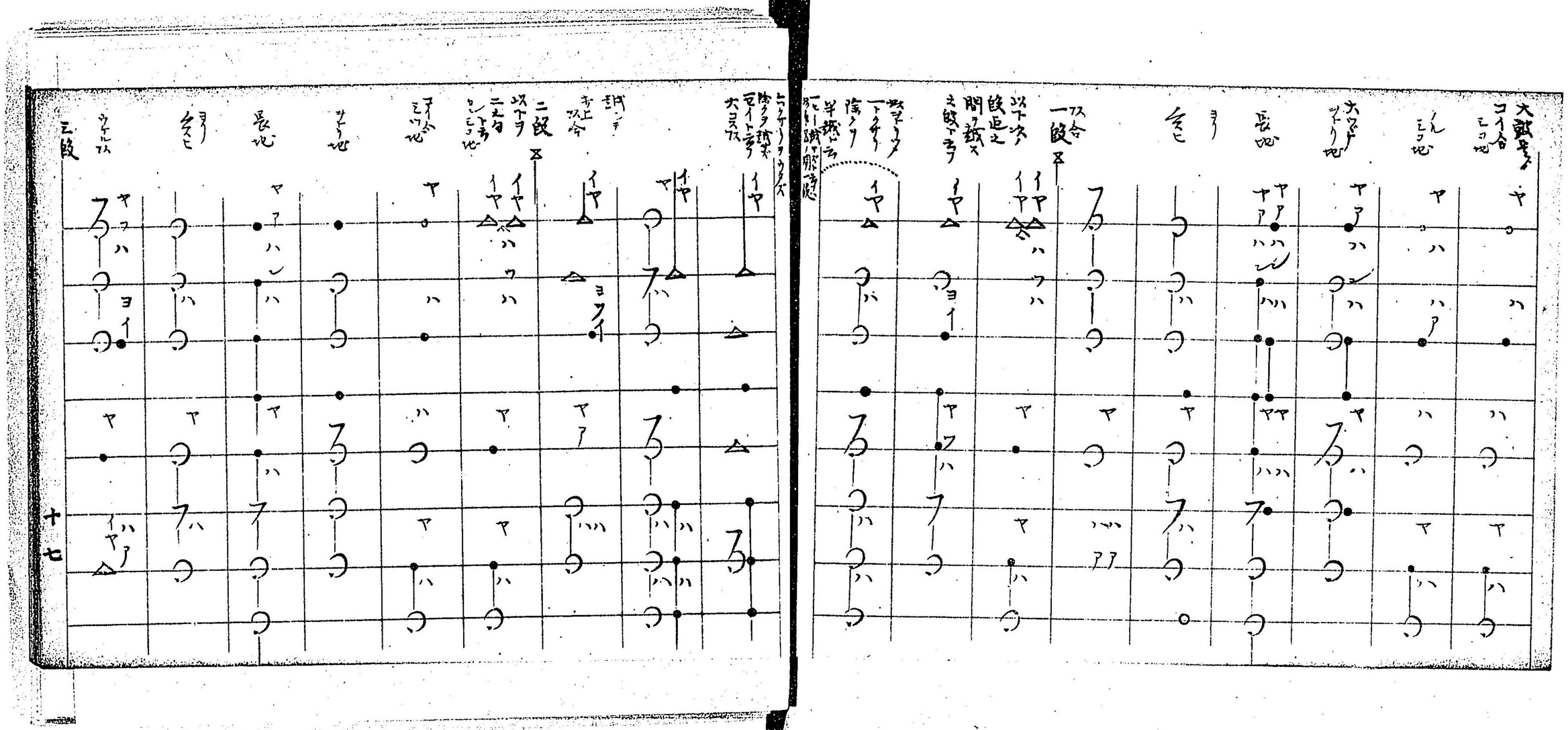
敦盛之類ニ次第二度有ル時
レテハ次第之方小鼓ヨリ打出ス

笛ヒシギ
小鼓ヨリウケテ出ス
大鼓ヨリコイハヒ地
ニコヒ地
大ヅケ
ヒイ ヤア ヒイリ
ヤ ヤ ヤ ヤ ヤ ヤ ヤ
ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ

通之時変り無シ
但習事之次第ハ別傳

一セイ 本越シ

笛ヒシギ
小鼓ヨリウケテ出ス
ヒイ ヤア ヒイリ
ヤ ヤ ヤ
ハ ハ ハ
ハ ハ ハ
ハ ハ ハ


一段
二段
三段

出仕 葛ヤリ こうウケ

ヨリ地 出ル

ヌタ地 ち行 小鼓住ノ 静ハ 長地ヲ ち行

ヨリ地

ヌリ地

星止メテ ケヒ

コイ合 コイ合 詰ち

一セイ 待謡ヨリ掛ル時ハ 小鼓ヒシウケ不ヲ大鼓コイ合ヨリ

田村又ハ東北 待謡

ツヒク トメ

留ヒシヤ

このちんきやうをぞくおうそうろ

このちんきやうをぞくおうそうろ

一セイ スヨイ カレ

ヒイ

ヒイ

大ツヒ ヨリ地

ユスヤ空ヲ

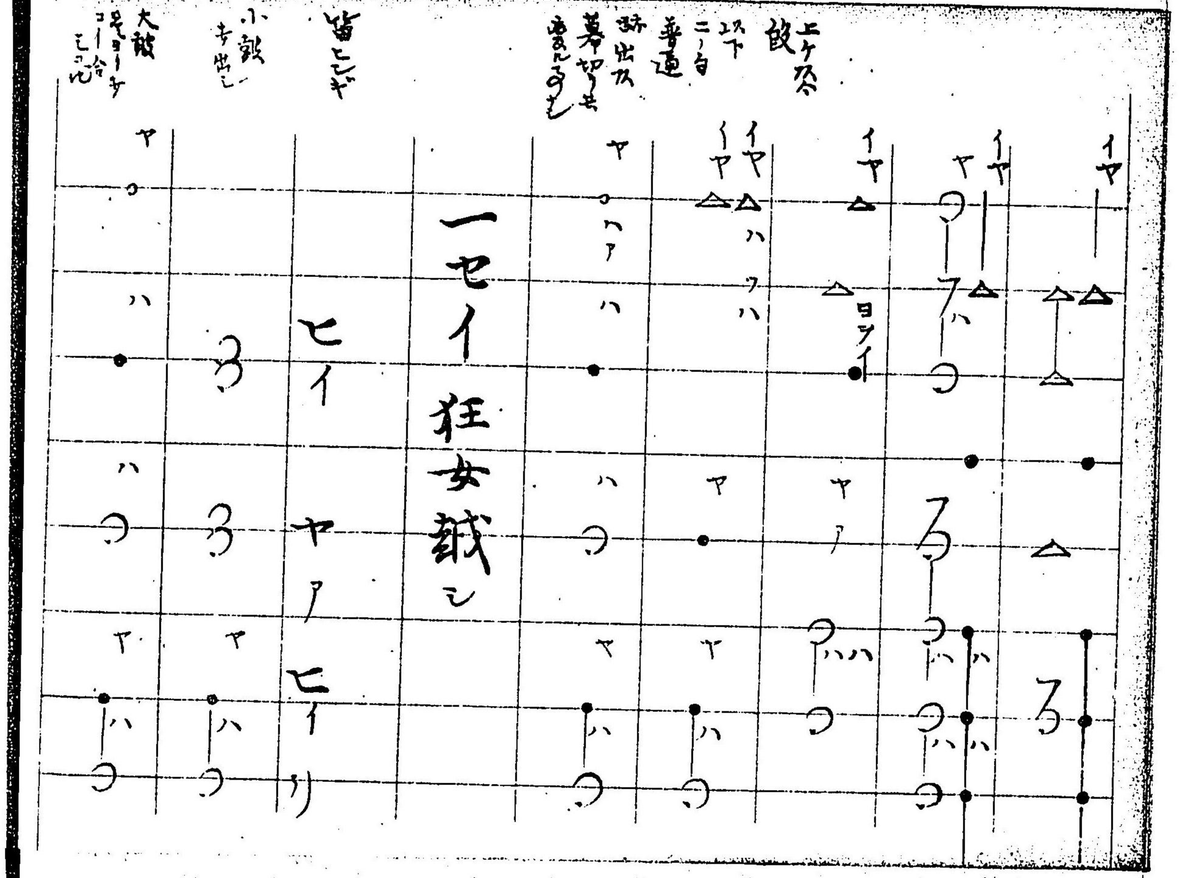
一セイ頭載シ

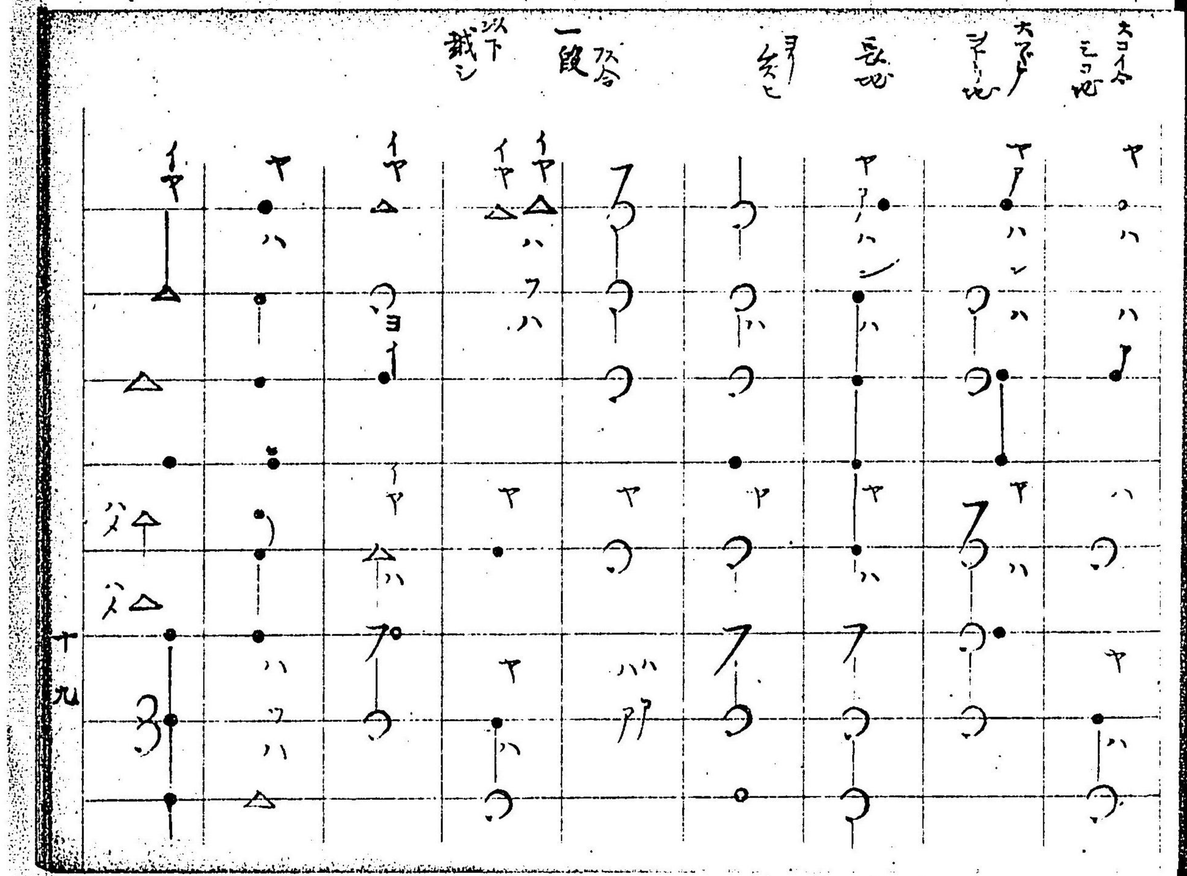
鳴神慶

留ヒシヤ

通ヲ、ひヲヲそまちおいたノる

直ノ一セイ 載ル鼓ニ故 頭載シトヨウ 默ヲヒシウケ 重ネ大一度 大ケモ 大小中合ス


一セイ狂女載シ
皆ヒギ
ヒイ
ヤアヒイリ


一段
載シ

上げ方ハ二段

是より二句以下出ル幕切ハ下之通

一段ハ初段迄歌ハ下之通

一セイ驚(カブラ)越(ゴシ)

杜若百萬之類

彩色ヨリクリ之事

江若地ひ曽

遠ンだるきぬたうかからもも

たるンバ引きぬるうかからもき

今ス

りゝやアンすひをかなづらアん

アレライ地通詩

遠てきぬる夜衣きつゝ袖をかなづらん

カンミヲ地ル

レチ上

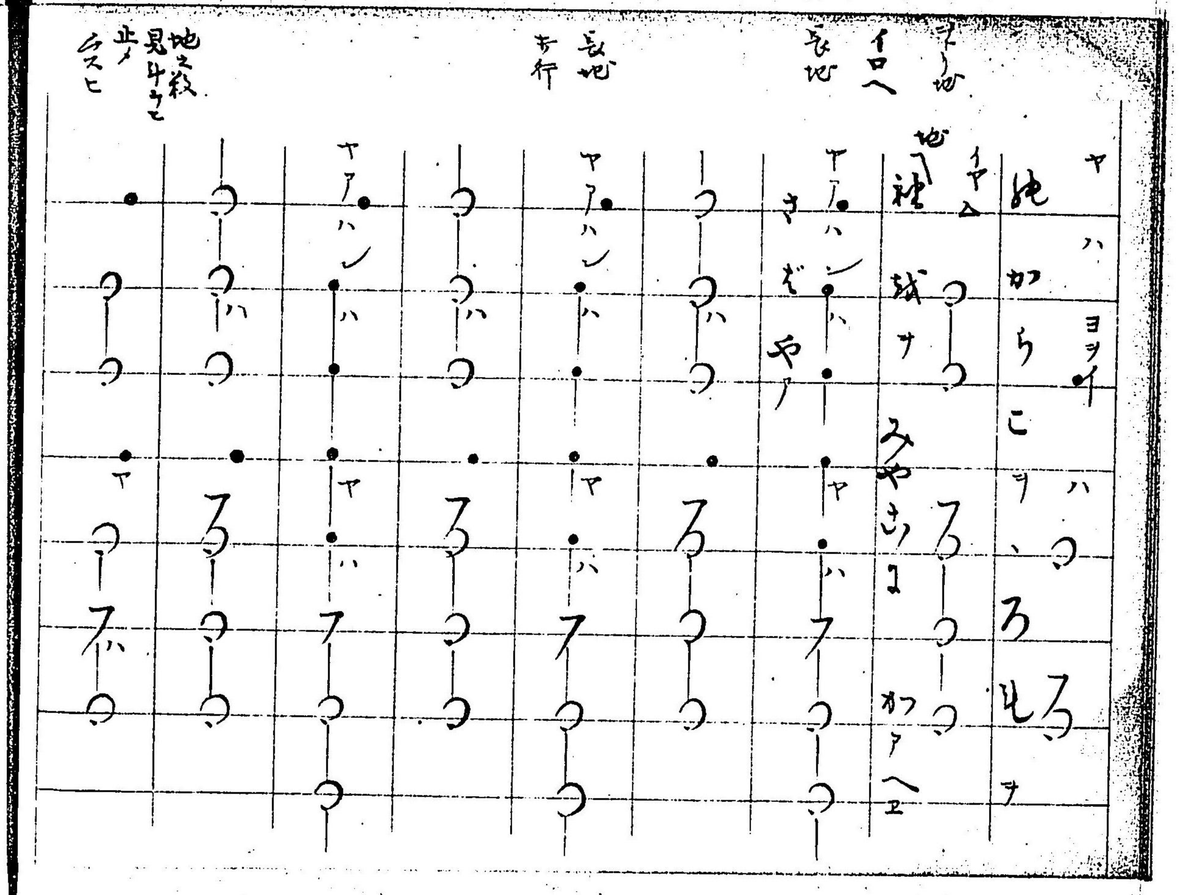
さうアゝ迄こしイ

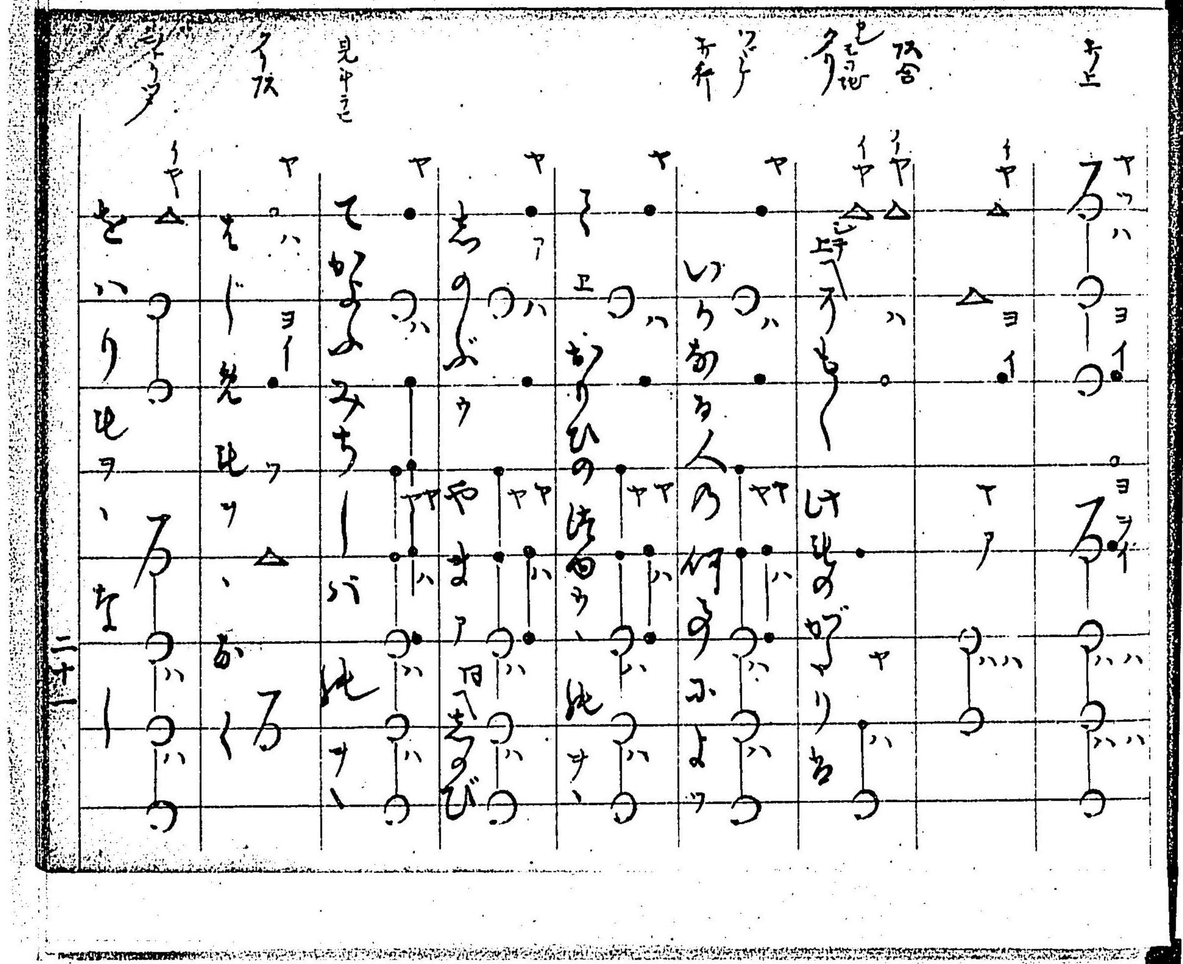
ナドドア

あヤア

ろフゝらみ

二十





手掛ケクリの事

四反

アレライ
ちはやぶる
ひづま遊びのちかけすひしはやをとめあるうん

ツヒケ
ちはや
ぶる
クリ

クリ
そうれ
久うて
ぬ
ア
あめ

ツヒケ
ちはや
ぶる
ア行

やいりや
二神出世の古へ

十方世界を
定めしふ

跡クリ反ヨリ反金ヲキ前ヨリ

櫻川

舞姫子

ア行
岸花仏ふ水を照り　洞樹緑ふ
風をふくむ　日山花開きてみちきる
似うり　洞水たゝへてあるぬしし

アレライ
大イ
チ女ス
シ
ふ
ア行
あり
ちや男びちうにうり
ア
ア
ア

切　重ヨリ　主イ

イヤ　ハヨン

ヤア　ハ

ヤア　ハ　そトゞあやとしを絶て

こゝ地　ヤア　ハ　はあ地がゞみやかるこげい

トリ　ちりかゝ数を

こゝ地　ヤア　ハ　やア、名もるやいイふらアん

こゝ地　ヤア　ハ　ー、、、海ゑとちりぬ是ば

つゞけ　ヤア　ハ　のちハあくたふなるはあと

こゝ地　おもナひ志る物もちていうアに

グヲー　ヤア　ハ　イ、、、、是也ゆ地あるを

つゞけ　ものとゝるぞはうかさー

こゝ地　ヤア　ハ　イ、、、ゆれハさぞるより

こゝ地　ヤア　ハ　あゞふちりぬるかなれば

四ツ子　たちてもみづりあハ是とハ

つゞけ　いさゝあミ地はあよのミ

こゝ地　おれしもいまるきゝだゝぬウ

つゞけ　くひ地ハふーたび地ちやョり

トリ　ヤア　ハ　イ、、、ちあ

にイ、かれゆくゝ行ゞし多ハ

ちかア坂はゞるうらやまれ

くエ、かゞと坂あハれエこは

ゆ坂かゞし見れさゝちなり

名のゝ涙きてゝるだゝて

れひわゝゝさくらがを

アのゝ、かみかゞけてひゝちィれび

ゝ、かごア

ゝとゝ、だゝるホイちゝはかを

あゞまなさゞやみゝ坂せエ坂

ゆき坂たゝへくうれかミイは

ゝ、、はなア

ゝ、ちがゝみゝけまくも

かゞしをかしやき見ゞてエれ

ゝ、ちのゝちゝくやアひめ

ろばちんばくのゝちかなれエば

ゝ、かゞれもよゞてエ、四

きいろうもつかぜをふごいなと

たそやとをもい

ちいいろをもはらう

てゑん、はなにいよゐゑべ

ろう、みいづう、せはやめ

てゑいちくらかえなきうよう

あいちくらう

う、、はあらさくらはう

ちるそうらえなは

う、はなはうしかぜもはら

ちいちいればうさそふはい

そゑだうう、ちまをかうづら

ア上地かぜてろえなおうえしい

なほあをやぎはいやばくら

りひみのまふかをざくら

ゆもやえしそみよしはの

みいよう、ちはゑん、ろう

う、モーよう、ちはゑん、のう

ヤ　かもアよヲやヲたアき　帰かみ

ヤ　もサ、、ちかをもくハアぶも

ア　しイをぎいをやかゝらはアし

ア　イ、、まゝしちくらいをナ

ヤ　ゝヲ、、少くもなりくしや

ヤ　いイづもサ、ちろヲたへの

ヤ　サ、、はかもちくらもヲ

ヤ　サ、ゆきもかエもみなぐらよ

ヤ　イ、もくひはけももヲちたれエど

ヤ　もヲ、、、ちかはアまぐもちかま

ヤ　こやくちア、わがたづねヲウイ

ヤ　ン、、ちくちるぞヲきひしイれわ

ヤ　ゲさくらぞきひしきイ

弱法師

ヤ　あらもうらや天王寺も。西門をいでて

ヤ　拝出ル。東門ヲ中ハ俳ヲ宮ゝちぞ

ヤ　ヤ雑住の寺も。西門を出ヲ石の鳥居

ヤ　阿ヤ門ヲ入ヲて　ワキのヤ門をいげば

除滝の清風極らくの

ル

やうもんよい、

向ふ雛渡のかしはうメ

いりひろ

加げもう、ろまとう

ハン、あやア、フア、

ひのフ

ら

おもしろやろ世育目と

あうぎりしさきい。鶴法ぶがつきふ

ろあれと境界あれば何うぞおひも

なまもエよイ、ロウぞつ

ハンハ、フフ

照ハ松ウふう吹き永イ夜ろ

清ー雪ウ何ゝのあれ

やろろラい、ぢやア、

フフ

すみよッ、しも

まつの色まより

なぐもエ世エ、エい

ろ

たア、イヤ

ハ

清き

杉ちイ、
かア、
あの
あウ、
ゐのいぢ
ちはやまやヨ
トミテ
かゞ色エ
ハつきうぎも
ナヽ日
かゞ色エ
ハたきうげの
ナいまハいり日やあち叮るらん
ン、、おりろ
うウ、親おれぞくれりもなみの
あちち繪じはのはまひうち
紀のうこまでも。えゝゝりえゝた
りイ、ぞんば
をウ、せいざんち
えろえろよえろぞやよ
かにもの浦ぬちけいのびう
びウ
みかミイ
ハア、ちこうやゆふかみぬ
ウ、きみよりのまりうぎエ

ひぐらしのかへるときをなくこの山
なるのみやりはくちかやま
流れて
きゝわいけくなふれかれ
上に
有かぐら
ろゝはしのゝいばらに
ヨクリ
いかな
た。
ありくはどふ
行かれて
袁せんのひやふゆきあひの

まろびたぐよひあるえは地
ゝゝけふとのろぼとて
ゝゝけふ
ゝゝけもよろよろと
ゝゝけふ
ゝゝけふ
ゝゝけふ

宮よ数多く奴紫式部頼しを慕ひ
石山寺悲哀をたのを籠りあて泡沫語
を筆よまうけ世を紫に依養を
せざりし科ふり家執の雲もまれ
がしへ今逢難き縁ふむりけ
心中を所列をたて一つの巻物ようを
ひなうべ
を明り眠をちまれ南無や光
源氏は幽霊ぞやう
西焼

そもそもきりはばの
ゆふ屋はふりそらやうふ法
一つ性ウのうちにいくも。そ
一き本地よれうふの数ふは
一ウ、ひるかくおはしまちりぬ
うつせみの
むかしきこのせをいとひてそ

あゆふぐは地

法のいのちをくるんじり。

わり貝らちきは地ゥくもの〻むへ

そう、ゑ

、うむはかりうてあふィ度也

むア、もみぢの賀地あきィ〻

ア、らく紅ゥをよやたぶ

たま

法ア、佛ァル嘉にあひかぐら

さうはだのちー

てュ、ゑうちゃうを絵ぐふ蛍し

はかち彩ちゃまもむとても

ひい蛍の離若ろことをアまア

如世ぐいさみちやうや

たアぶきぐらくい。

生う死流ちう

地ぢまもうち城いでて。

四智恵ンこゝろ地ョリ。

あ、しのうらふぃみをばくゥち
ろ、いつまぐれひりなんン
たゞともばんれなぜかぐら
ばぐいろちをねぐふ屋し
イ、まいう皆れ焼くとて比
ヲ、がうきゃうろうけぐもォハ
ア、えゥきゃちゃるよかし
イ、あきれかせきえびして
ちはにんよくれ焼ぐりま

ア、、きゃうばんぜんだいよ
ちろ城かけてはこてゆる
ウ、、七ッぱうきゃうぐんれ。
まきだらのもやゆうア！
ん、う見ず校ろ。
にはひようひるわぐきろ
焼ぐれうら薬ふィたくつゆの
そのたまうげら如者志ぐ歯
きゅゲはれひのりたのまれぎゥ

上女 みせんだんの

かぜのなりぬるなるべし

ひとり

はうさくらぬ

ヤア

をゝあづま屋はうちまもり

こゝ地

てゝいたのしみはうえをう

ヤチ

ウゲケ

きふ孫はたとふ屋さうやき

ノベケ 食カ

ものはうれたし城うちわるを

キヨシノ

ヨリ ヤ人 ツヅケ

いゝいゆゑ

ツヅケ

鬼のらいをうを孫ゲふべし

こゝ地

南ややさいをう弥陀ゆらい

ツヅケ

ウゲん鑄ぎよをふりまて〳〵む

ツヅケ

ウらちまきもぎゞのちれ世城

ヨリ ヤ人

たまけしまへとヨルもろやもふ

ヨリ クヒトナ

いゝかア孫うちからしてヱ

ヤア

イヤ

ヤ

ヤ

ウヒテ
マヲ
ウ、は勇ウ者をおろれぎの
ヒトとゝへ
やたをぶ〜ろはヲあづきゆこか
ヒヒハカス
タム
たきイふいア、そりはゝへヒィと
チチロシ
ウケテ
ヤヲ
ナ、をしむも名のヲしアめを
ヤクリ
ヨクリ
ちはぬ
ヒヒケ
ハア、いちめいなれヒア。身
マヲ
フスシリ
ヨリ
名トノ
をそてゝエ、あり後ウ記ふはヲ
ヤヲ
ン、、佳名エイをヲ
カン三品
ル
ミイふヒのヲ、あとふるべをエれ

ヒヒ地
ヒヒ
ヒヒ地
ヒヒ
ムスヒ
ちんどうせま
ヒツフス
カケリ
ヒヒロシ
ヒヒ地
ヒヒ地
ヒヒ地

ヨトリ地

スイ地

地之数
凡斗うヒ
大数ヲ仕ヨル
ムスヒ

ナトリ返

カケリフス

ヲナロシ

ナトリ地

マク地

地之数
凡斗ラヒ
大ヨリ仕ヨル
ムスヒ

ナトリ返

地フス

ヲナロシ

ムスヒ

止コイ合

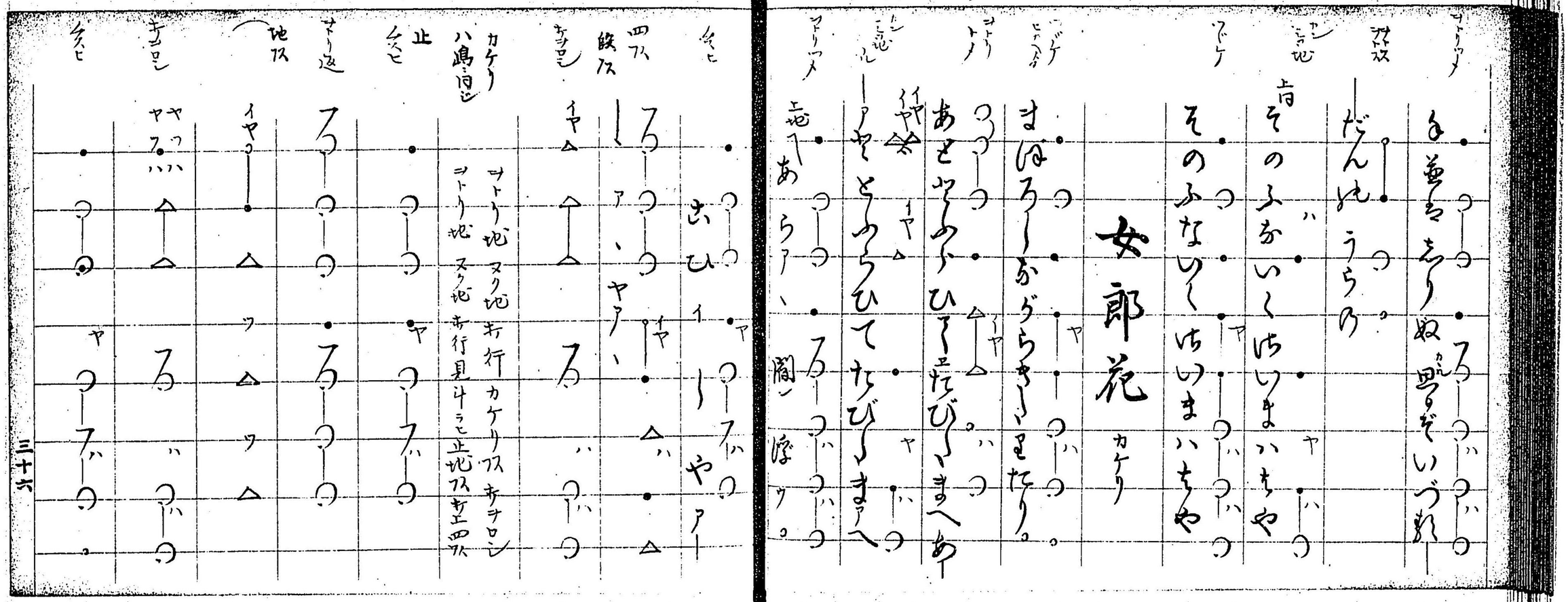
コイハ
カンヒリの

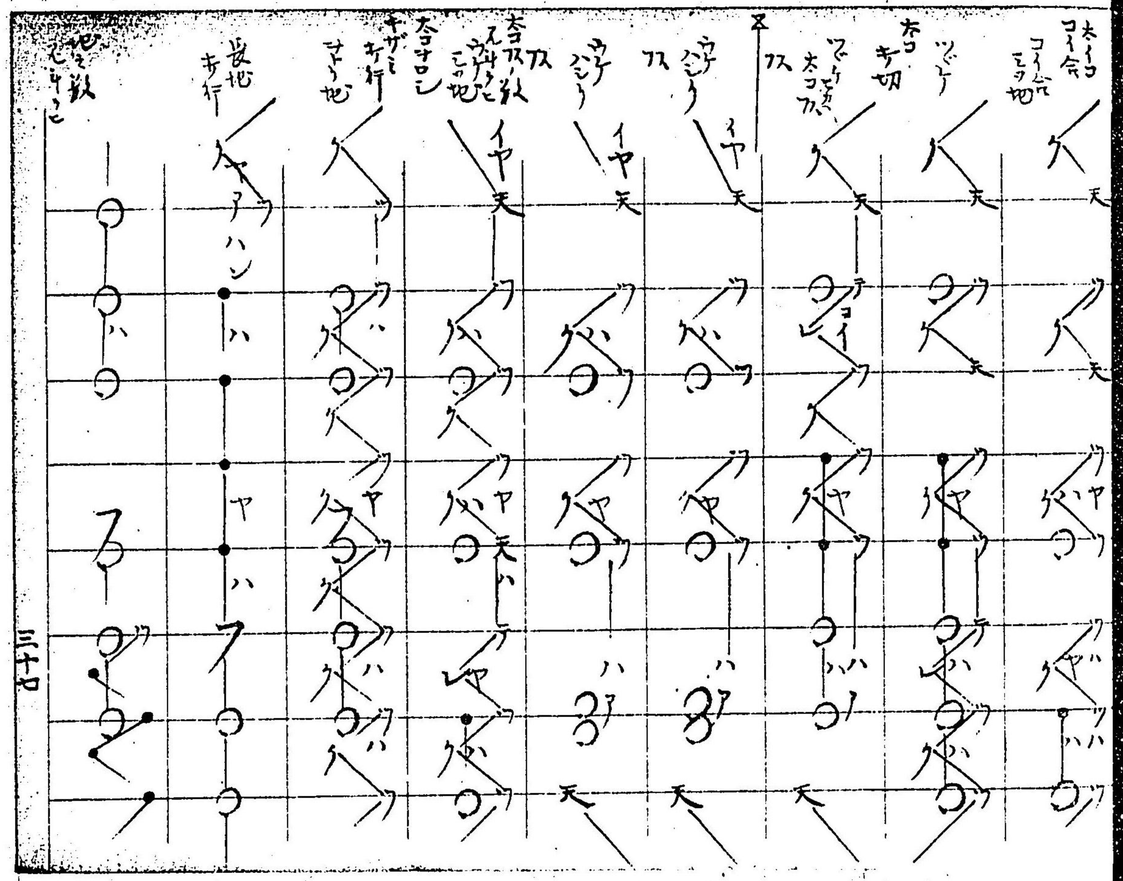
コイハ
ニの地

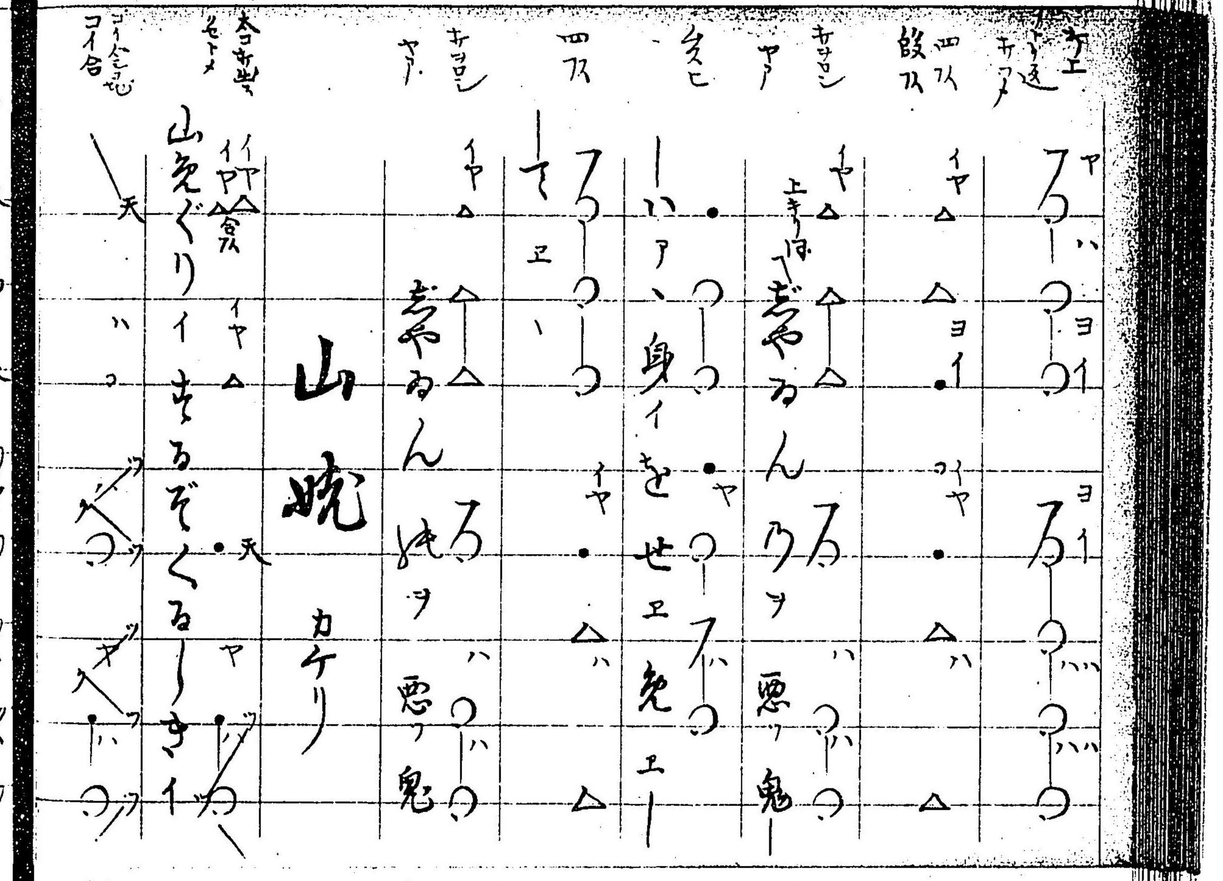
スリ
ル地ニヒ

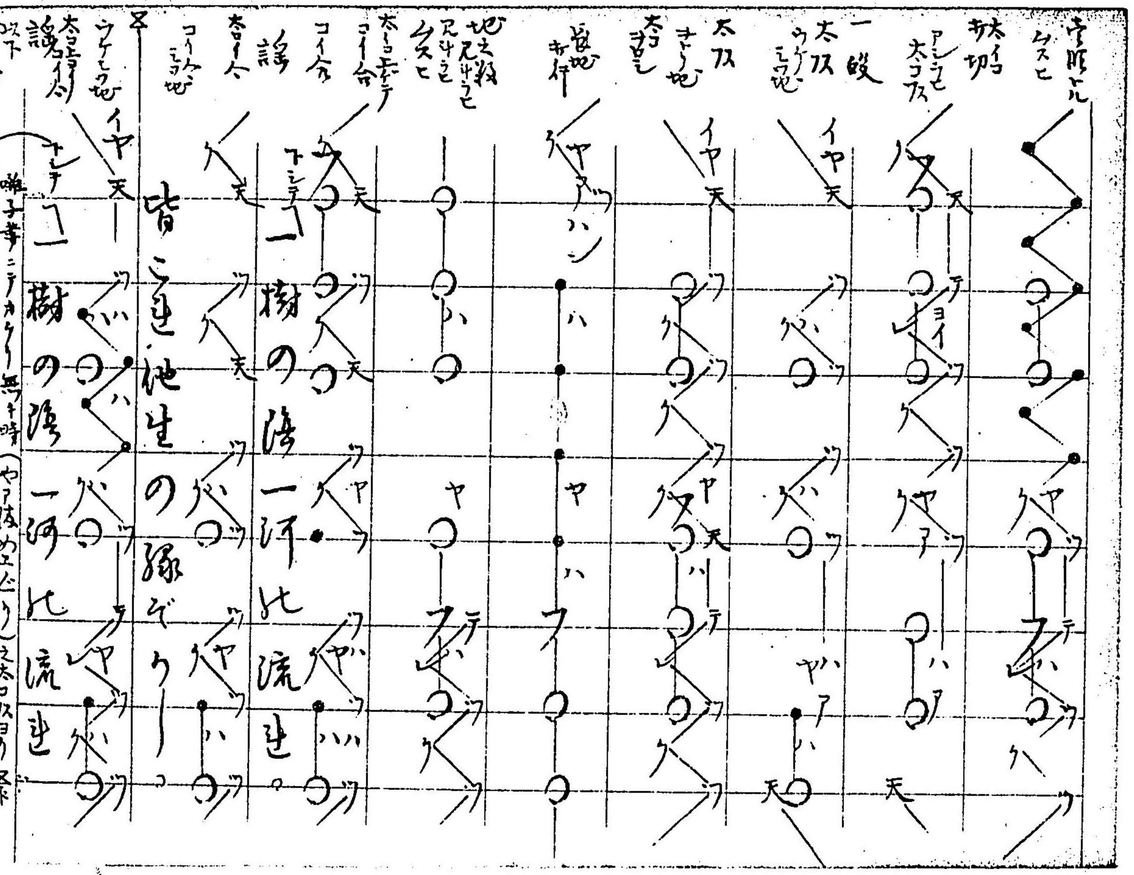
行能ヒ七りニ数理ヤ

シテ此ふの他種地数ハたり

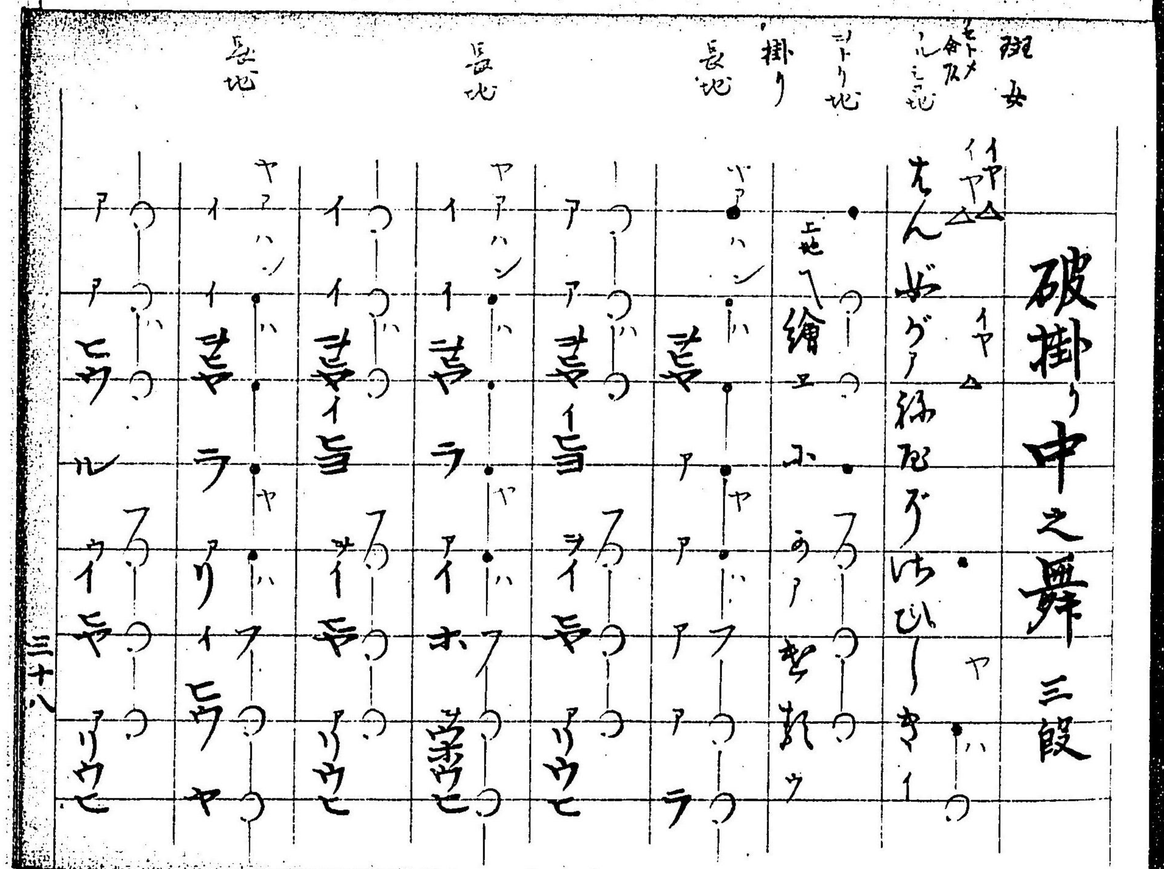

女郎花
カケリ
カケリ
ハ島ノ同シ
止
三十六







破掛り中之舞 三段



長地

長地

長地

長地

ヨ

ヒ

長地

スクル地

久ヒ

ウケルフ、

二段

ニウウケ

サトリ地

長地

サロシ

ニウウケ

ムスヒ

サトリ返

スクル地

サトリ地

ムスヒ

ソトリ辺

地ツ

キヨロシ

ヒラキ
ソトリ地

ヌリ地

ソトリ地

ヌリ地

ムスヒ

四ツ区
五鈷

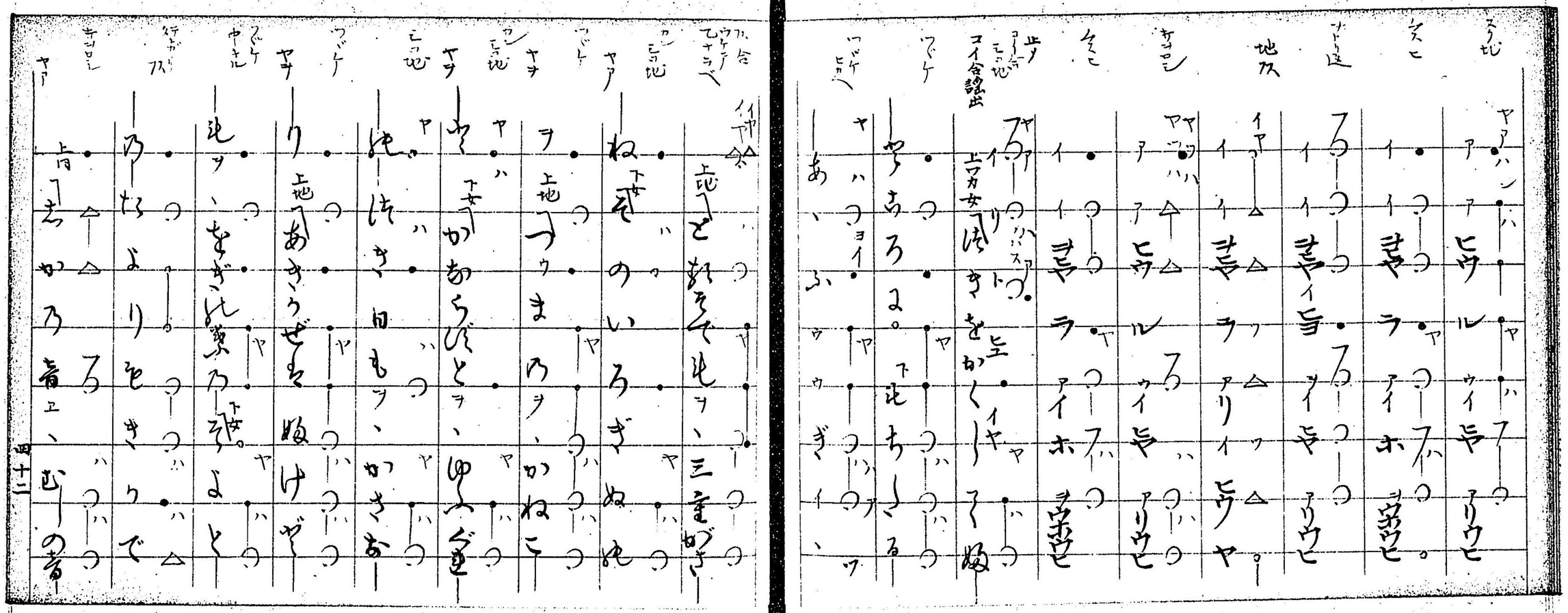
キヨロシ

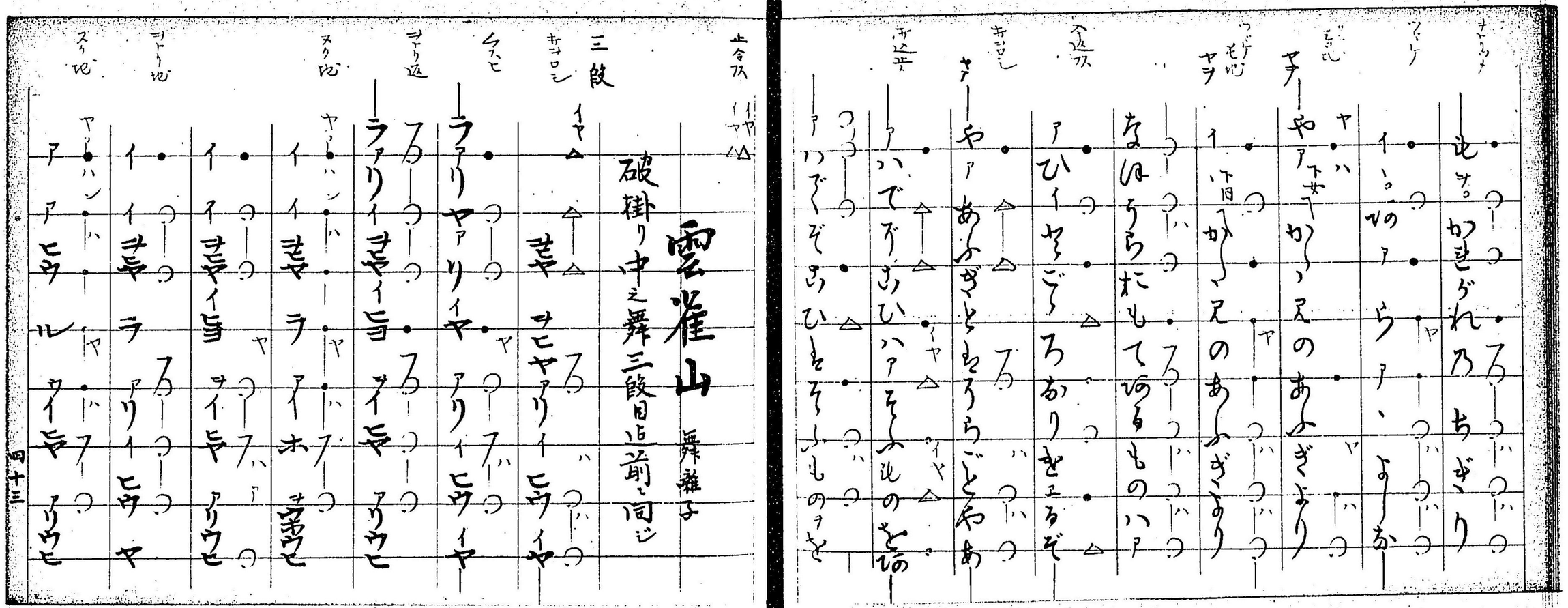
ムスヒ

ソトリ辺

ヌク地

ソトリ地





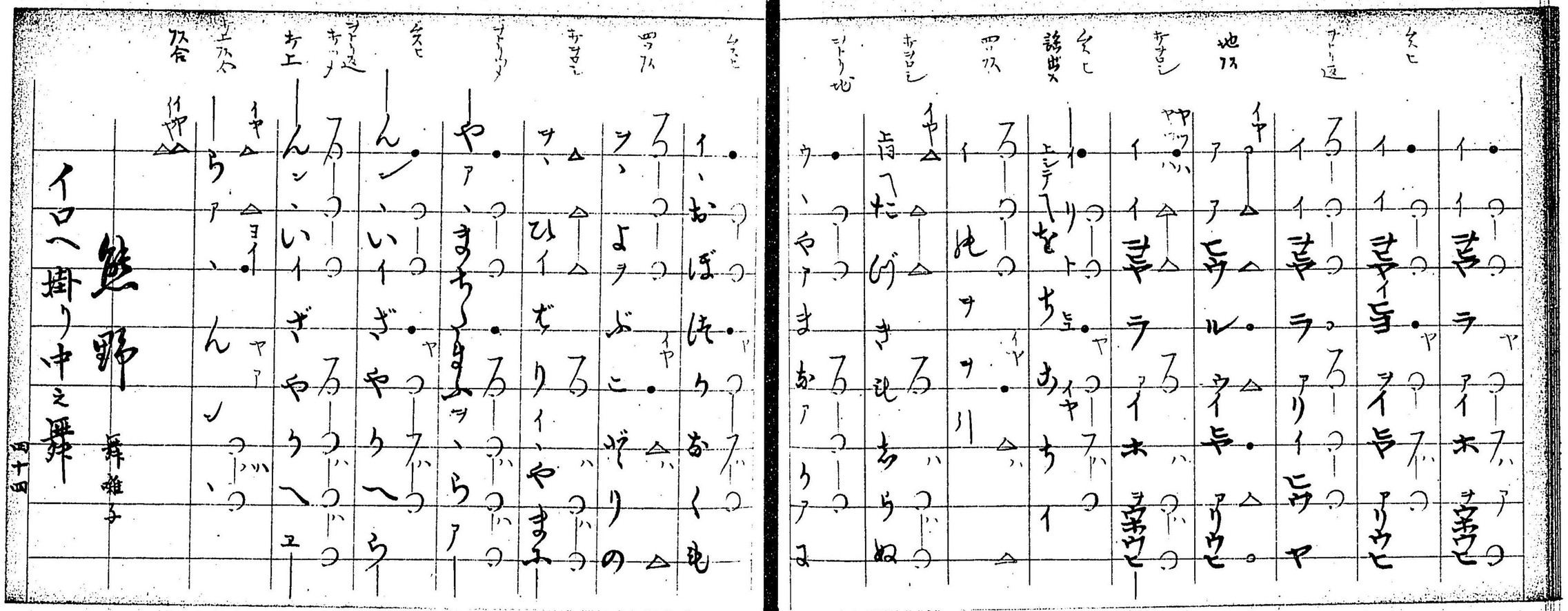
雲雀山

舞雜子

破掛り中之舞三段目迄前と同ジ

三段

四十三



熊野

舞雜子

イロハ掛り中之舞

合ス
ヤンラ地ハル
ヤリ地
ヤル地
ヤワ
ヤリ地
イロ掛リ
長地
長地

ちるもちぐ　ろをあげうり
エテ　やはのヨ　名はヨ
おやハあらしのは
かれヨ　ゆやイ
地ヨ　ろうあきあきをを
ひやヨ　やきあ
ヨ　ヨルヤ　ロイ
ヨ　ヨルヤ　ヨ
ヨ　ヨ　ヨ　ヨ

静メル
ヤリ地
長地
ヤリ
直リ
長地
ヤリ行
止地
ヤワ
ヤワ
ヤ合
ヤ合

ヒウヤ　ヒウヤ
ルラ　ルラ
ヒウヤ　ヒウヤ
ヒウヤ　ヒウヤ
ヒウヤ　ヒウヤ

コイ合ミヨコ地
村面此てきかのちりはいりよ

コイ合ミヨコ地
雨のふり来りて花城敷しはよ

ヨトリワメ
あらましろなし

キトリ地
はれさいン

ムスヒ
めエ、ぬヤヤヨ

コイ合
地へ畑ウるかミふり

メクリ地トモ云
畑なみふ

ムスヒ
ちらくらなかあ

四ツ切
ちる城

オヨロシ
を、

ムスヒ
まぬウ、

ヨトリ辺
ひイ

地切
やあ

ケヨシ
ハ

オ上スダ
ヨイ
ましウ

切合
ヤ
うれしやたうややかあ

ツヤ
ヨトス
あきなんかのはりせうなり

盛久

達拝掛り男舞 三段

アレライ コーヨ
コイ合行 コヨ地

貴命かり。盛久なる時節は産まれ。

コイハ コヨ地

世もつたため。いつ。堂うらば。

ヨリ ル地ト云

をつさ、ゝ海りあび

ヲヒ

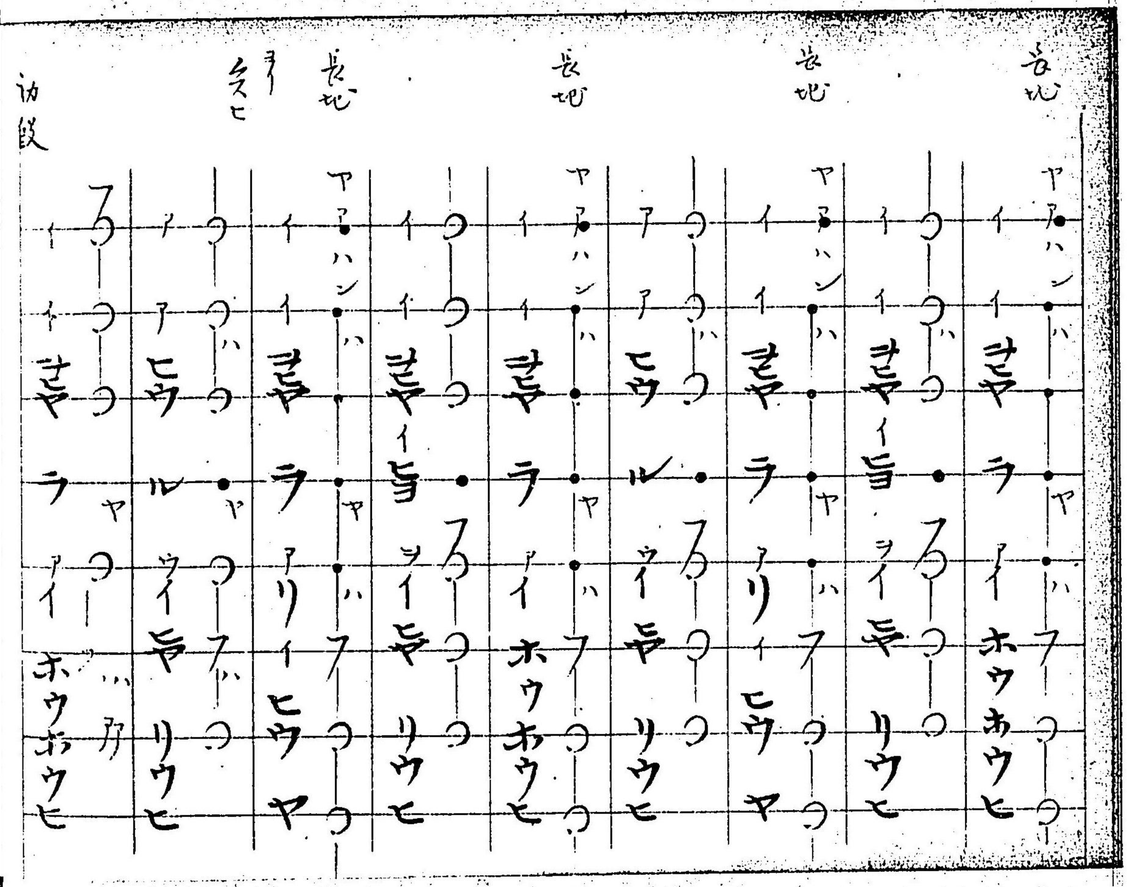
ヒ

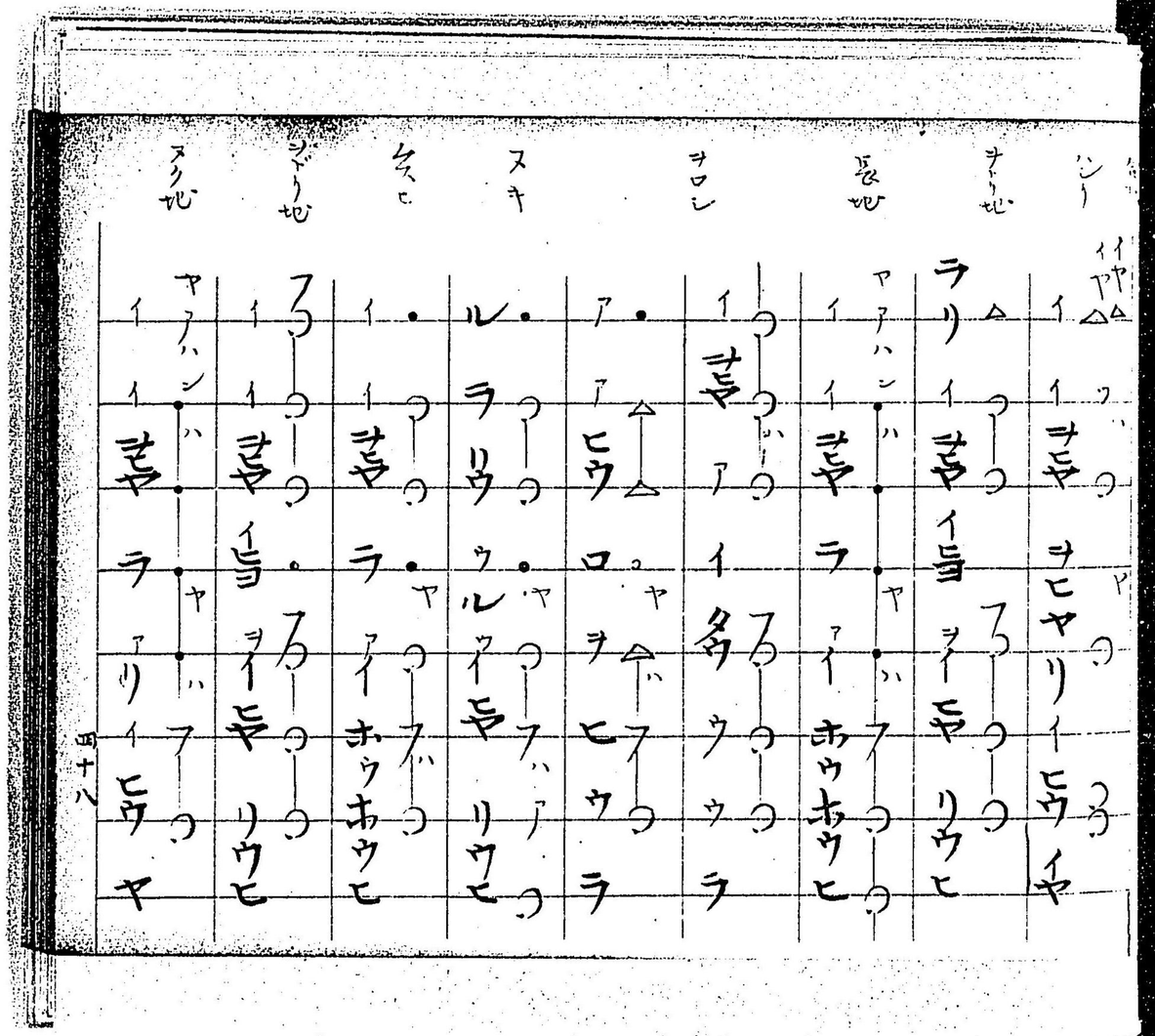
ヲヒ

ヒ

ヲヒ

ヒ


長地
長地
長地
長地
汁餅


長地
ヌキ
ヌク地

ヨトリ地

スイ地

ムスヒ

ウケルカ
二段

ニウウケ

ヨトリ地

長地

ヨロレ

ニウウケ

ムスヒ

ヨトリ返

ヌク地

ヨトリ地

ムスヒ

ヲトリ返

地乃

ヲナロシ

ヲトリ地

ヒラキ

ヌリ地

ヲトリ地

スリ地

ヲトリ地

ヲトリ地

ムスヒ

四ツ八

三段

ヲナロシ

ムスヒ

ヲトリ返

スリ地

ヲトリ地

ヒウルウイヒリウヒ

ライホウホウヒ

ヲイヲリウヒ

ラリイヒウヤ

ヒウルウイヒリウヒ

ライホウホウヒ

ヲイヲヒヤリイヒイ

えんかうをのそゝのさやう。

ゆえんなうれはそゝのきやう。

くもらぬかうをのゞうまて

エきみをいはしゝせんそうは

トリーヲつゝかうをゆ

のゝ、まりの袋れちりイ。うー

ゞせばしてまさまはうかゞ

ちゝかゞみをおうれあり

イ、はかゞみをおうれあり

ゞまかりまうしたうはつり

たいこのしらゝ袋ひさゞ

破掛り男舞

ちゃこと
こ・ろしうちぞゆ〜しきイ
ちゃ〜ろぬうちぞゆ〜しきイ

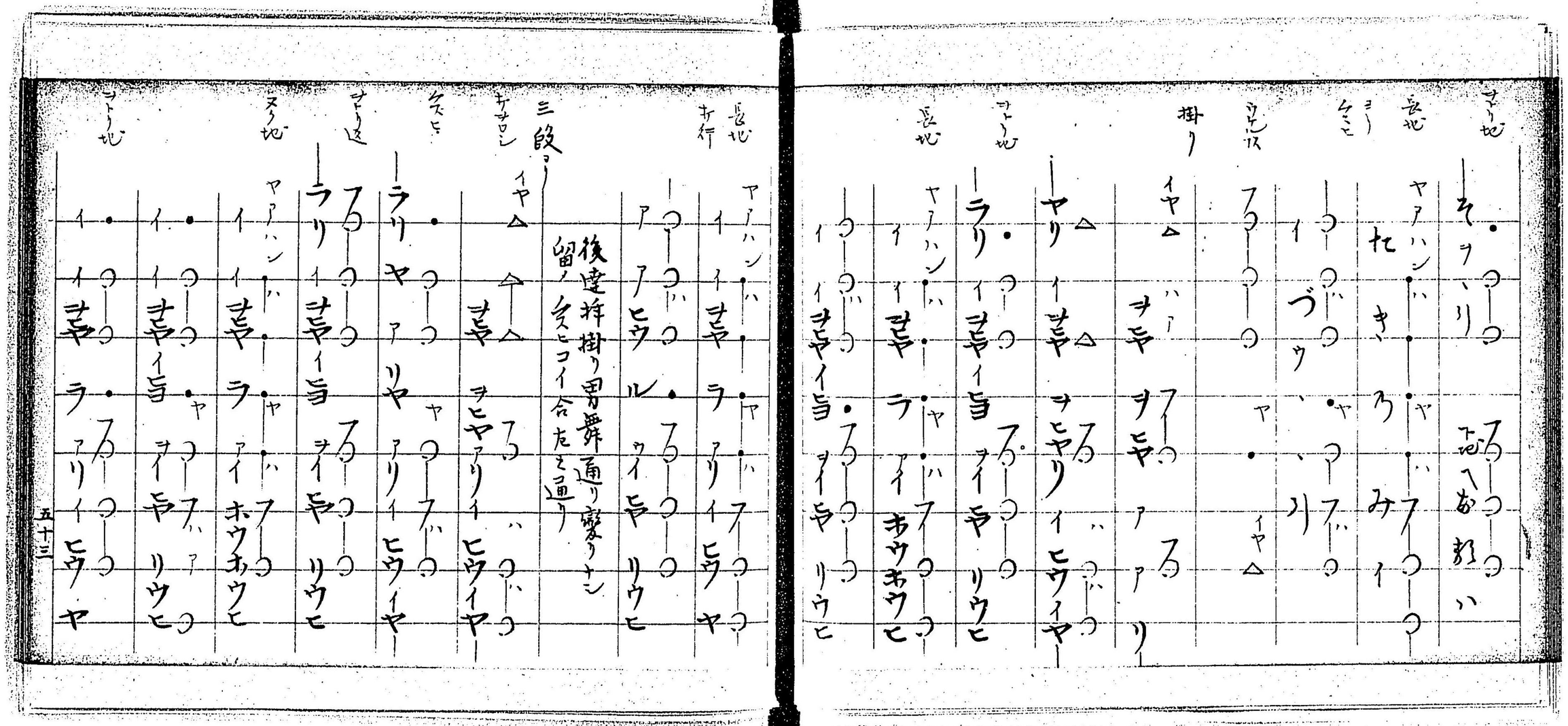
芦刈
えんこそうれ〜かりくぬ上
上カル〜今をうらみぬはのうへ
長地
ぬ〜たアちまふヲ、そでぬヲ
かざ〜しイ、ゆ邪ア、
掛り
長地
ヤアハン・ハ・ヤ・ハ・フ・ヲ・ヲ
ヤヲ アアアアラ

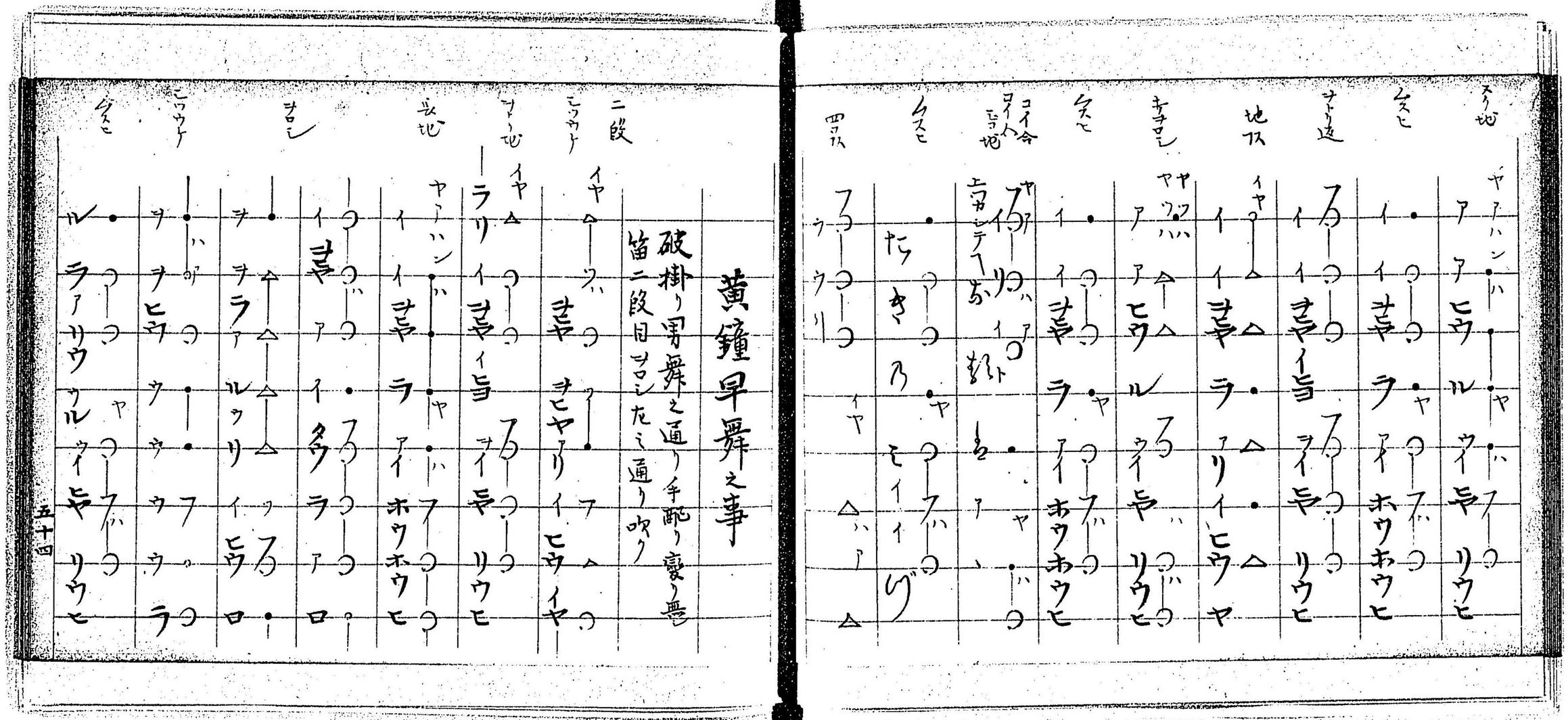
ヲ・ヲ・ヲ
アアヤイヨ ヲイヤ リウヒ
長地
ヤアハン・ハ・ヤ・ハ・フ・ヲ・ヲ
イイヤラ アイホウホウヒ
ヲ・ヲ・ヲ
イイヤイヨ ヲイヤ リウヒ
長地
ヤアハン・ハ・ヤ・ハ・フ・ヲ・ヲ
イイヤラ アリイヒウヤ

跡段毎ニ普通男舞ニ変リ無シ

安宅山伏掛り男舞

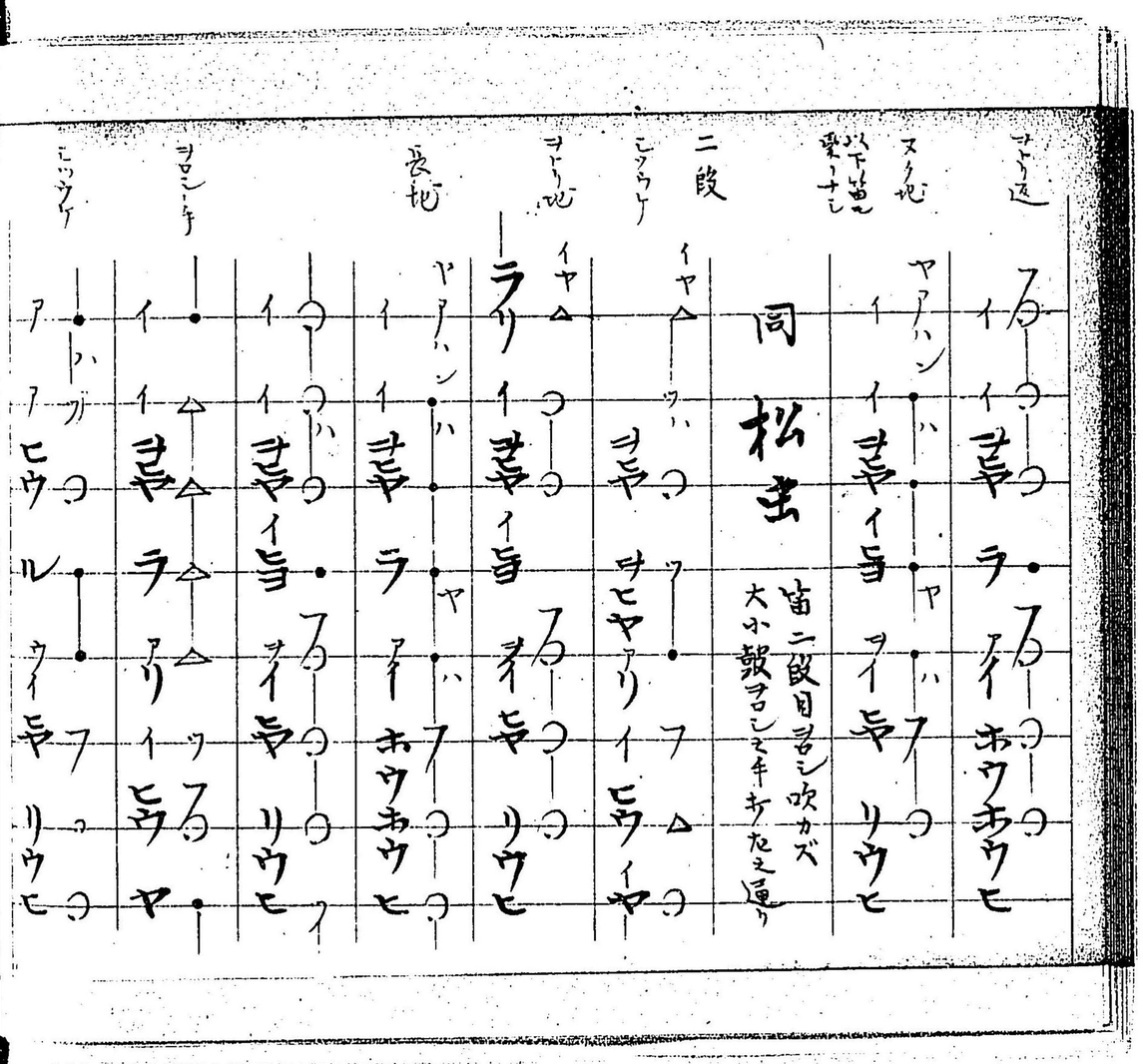
でヲ
まひえんぬんぬときの和ア寺
ヤヲ
アヤ〜ヤ・ヤ・ヤ・ヤ・ヤ・ヤ・ヤ
ヤヲ
おちぐいたはよひぐくおヲ

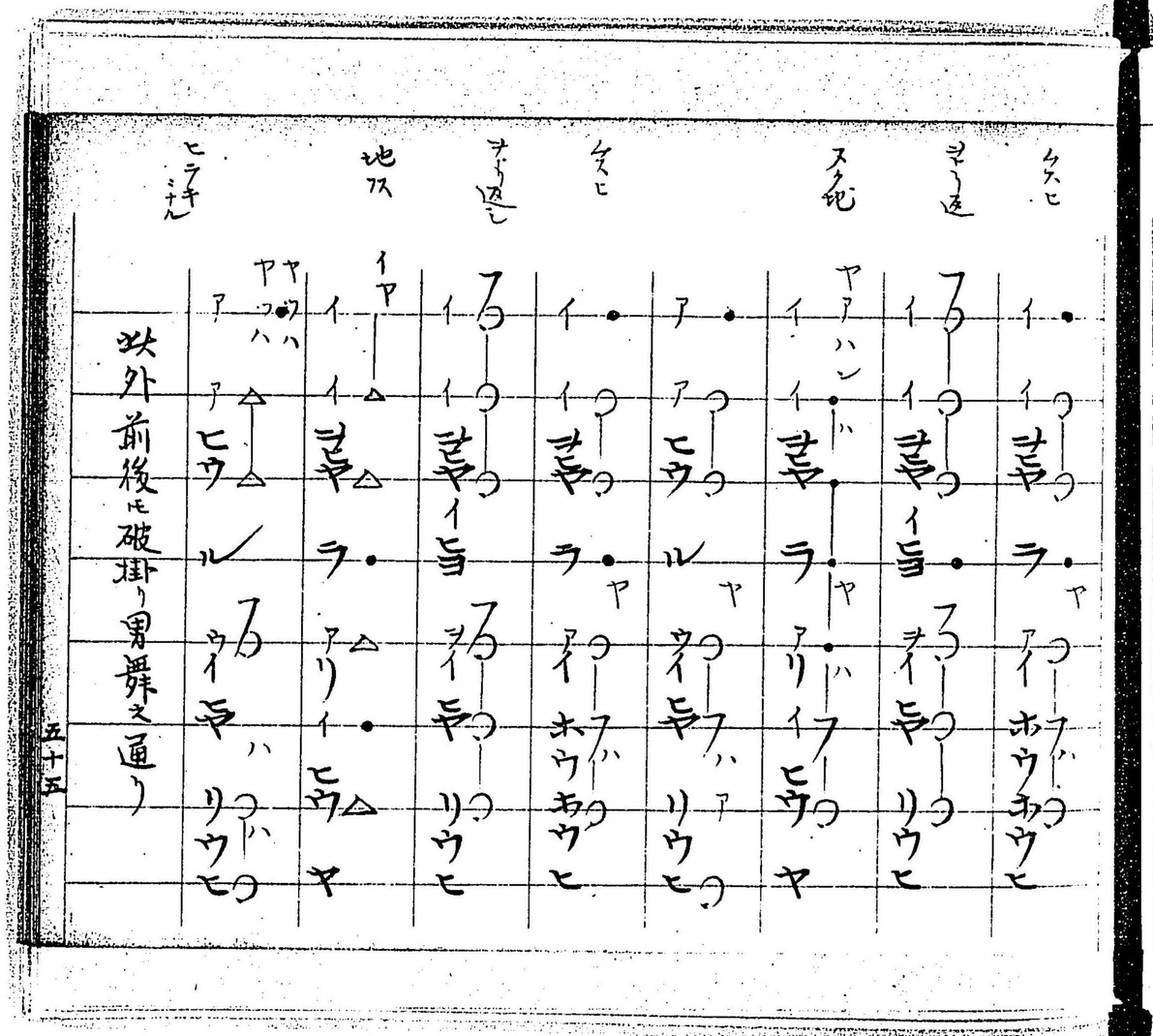

ヨリ地
そゝり
ヨリ地
ハ地へ
長地
たき
みイ
ヨリ
ミヒ
づゥ
リ
ヨリ
ヤ
イヤ
掛り
イヤ
ヨリ地
ヤリ
長地
ヤハン
ヨリ地
ラリ
ヤハン
ヨリ
ヨリ
ヨリ



黄鐘早舞之事

破掛り男舞之通り手配り変り無
笛二段目ヨロシたゝ通り吹ク


二段
同
松虫
笛二段目ヨシ吹カズ
大小鼓ヨシ千ヤ左之通り


以外前後ニ破掛り男舞之通り

錦木男舞留メキ上ノ合之ノ

序ノ地ノ

キヨシ

久ヒ

キ上ノ

乃令

乃ヨリ

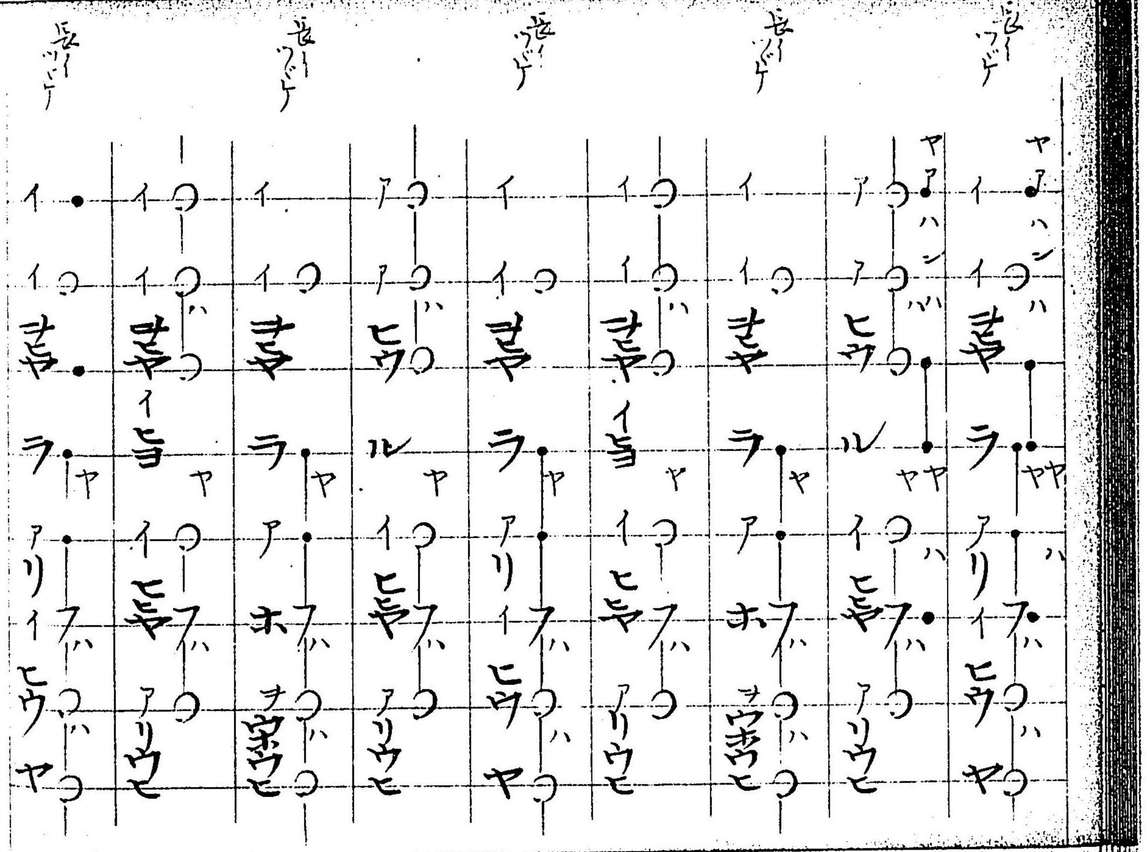
序地

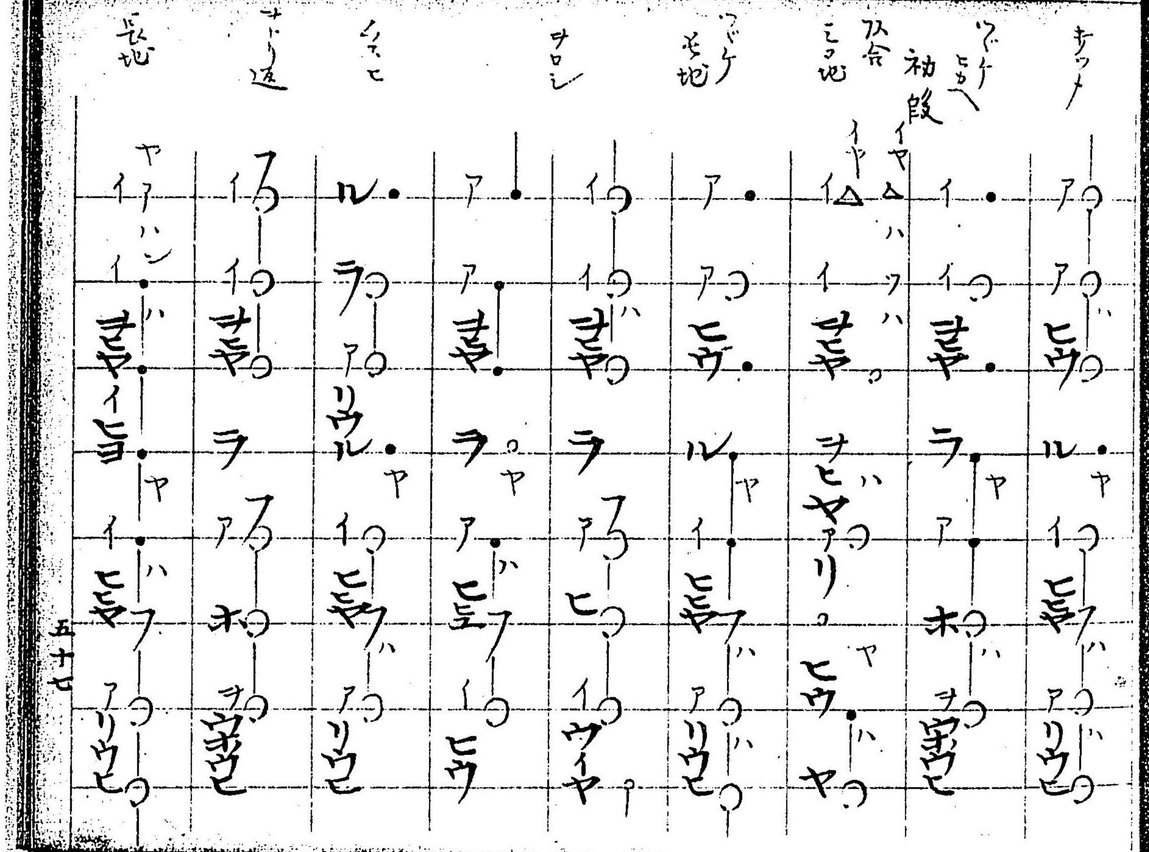
序之舞

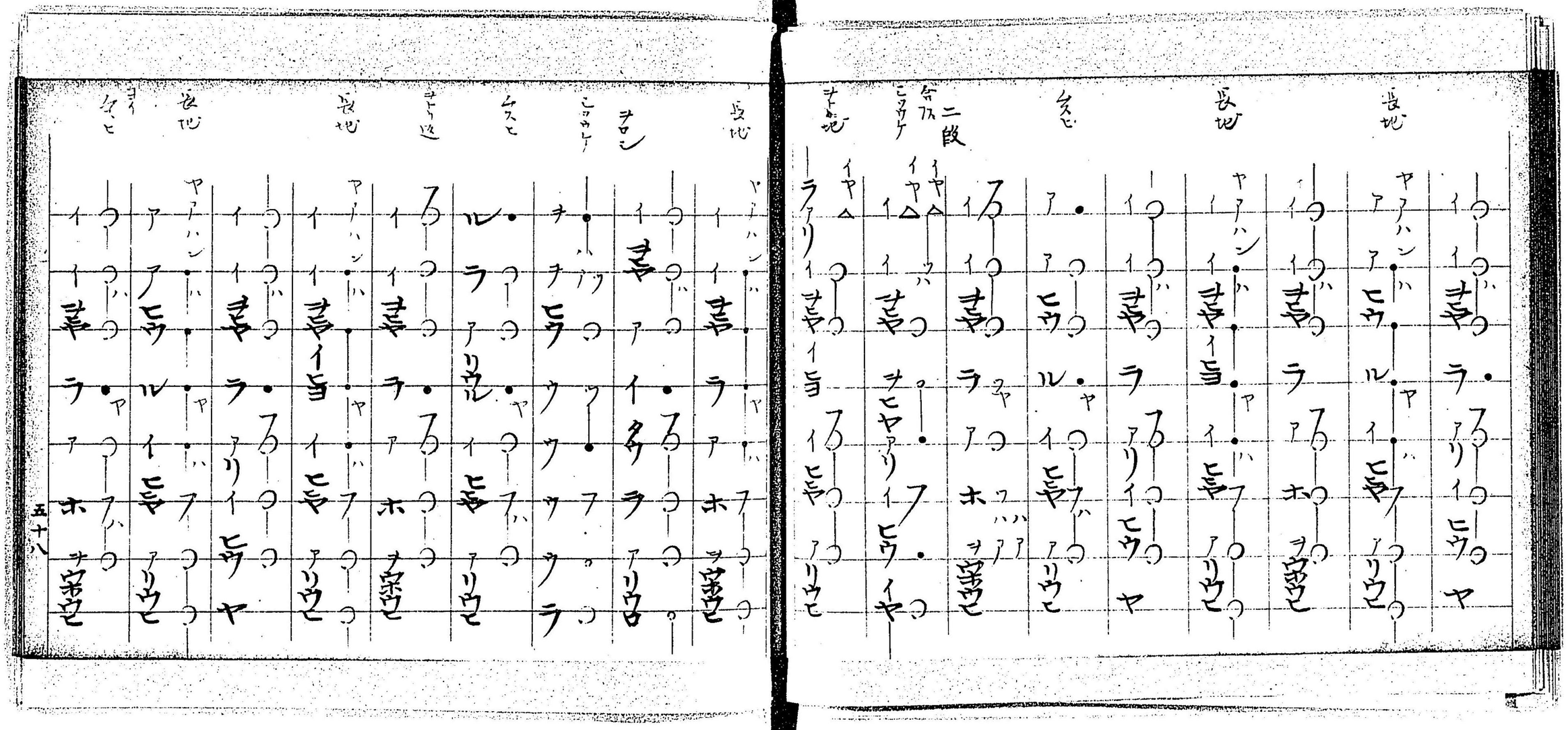
序地ノ

序地ノ

序地ノ






長地
長地
ムスヒ
二段
長地
長地
ムスヒ
長地
長地
ムスヒ

ヨトリ返

地次

キヨロシ

ヨトリ地

ヒラキ

長地

長地

長地

ヌスト

ウヒル次

三段

キヨロシ

ヌスト

長地

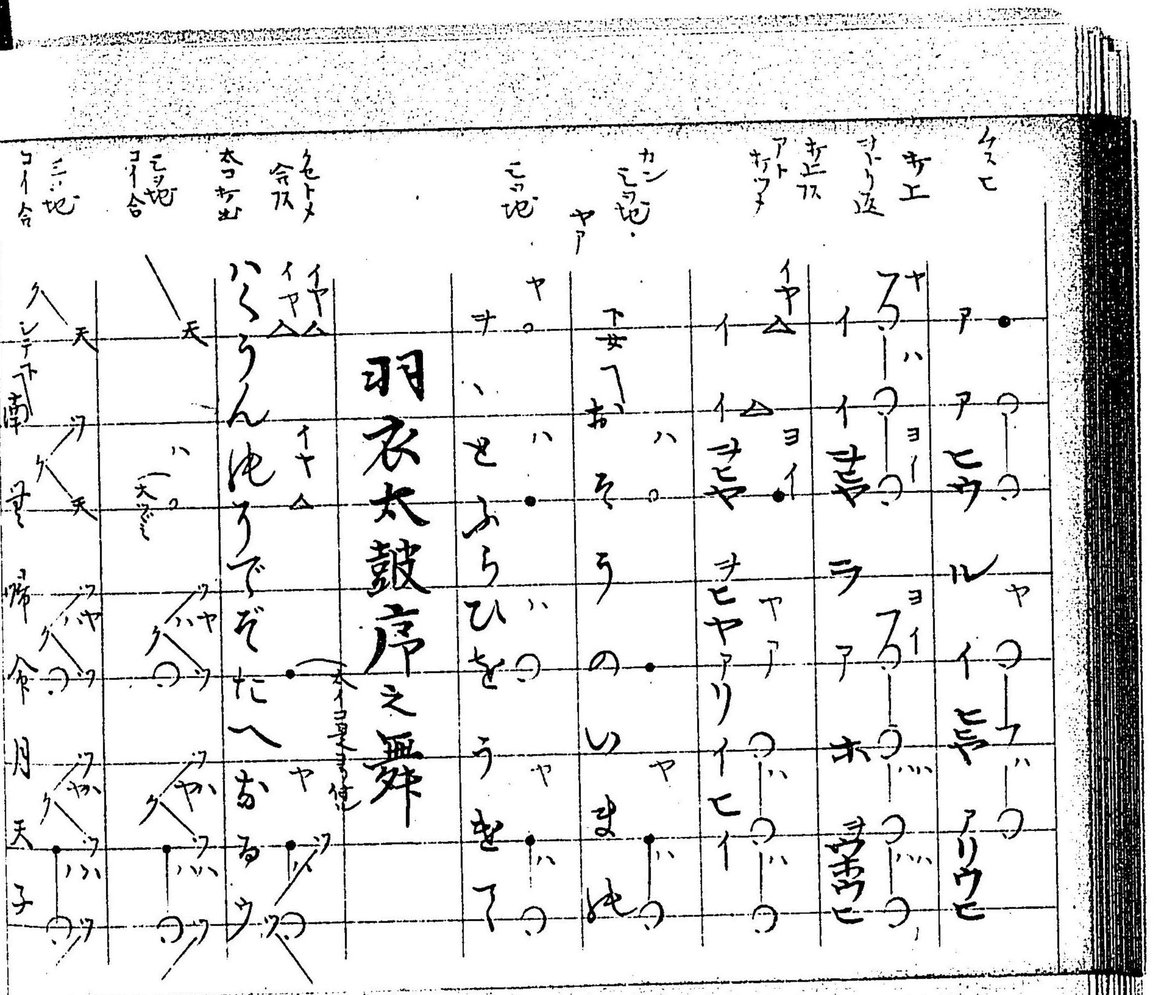
ヨトリ返

長地

ムスヒ
らふいおヲもひいづも
ウケルス
ろ
バ、われかうよ、あかつう
キヨロン
ちくさひしきならぶ
サトリメ
球をちこちむとよ
つくり
い、もちちんもヲもづう
でケ
しいいやはあまうま
カシラ地
ん
ヤア
きまでうはあハ根ホ

夕顔序之舞留メ

三段
キヨロン
ヤ
ヤ
ヤ



羽衣太鼓序之舞

長イツヾケ

長イツヾケ

長イツヾケ

長イツヾケ

長イツヾケ

初段

ハシリ

ゴトリ地

長地

ヲロシ

ゴトリ地

長地

長地

長地

矢ヒ

太コフス

二段

ミツウケ

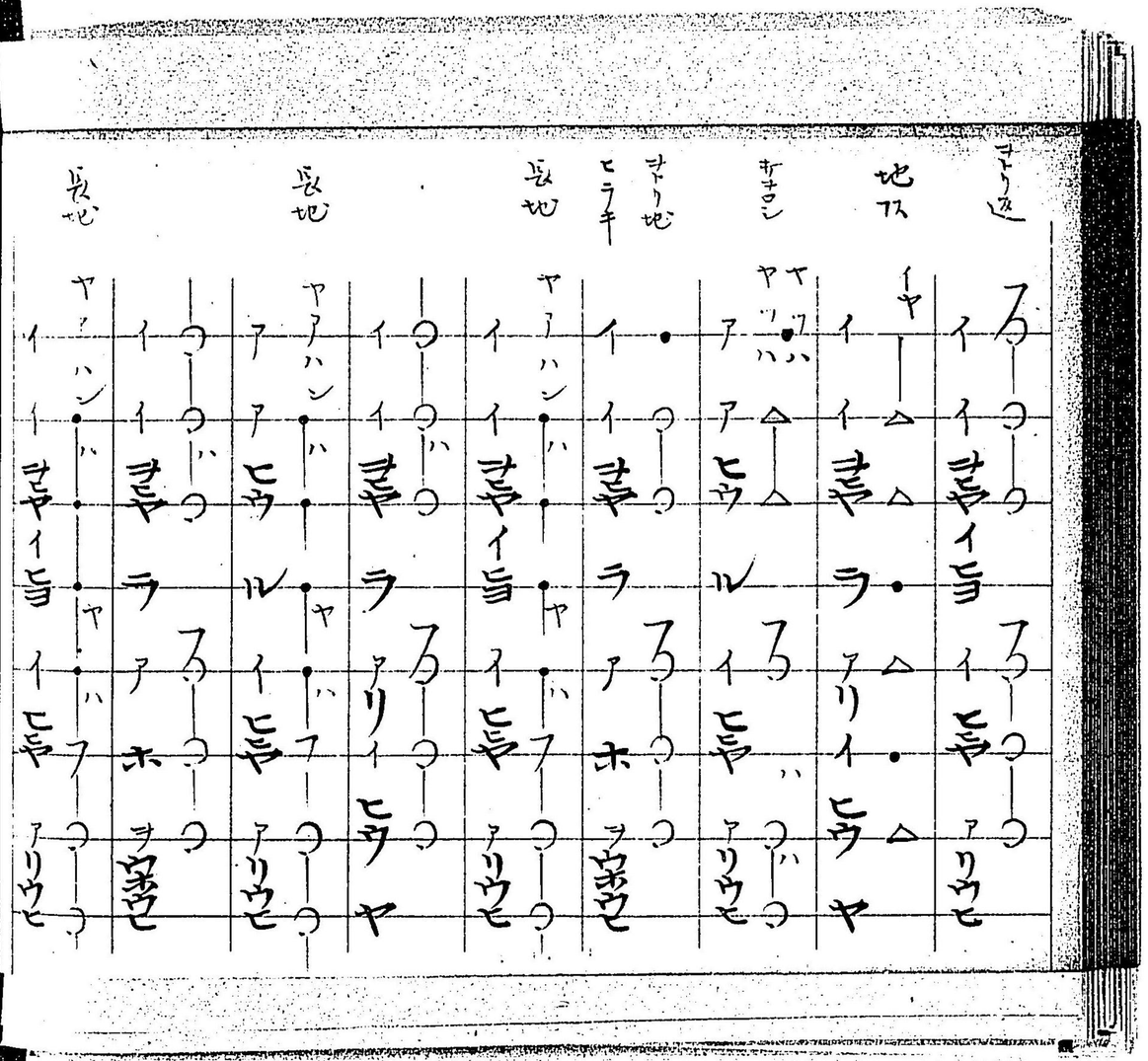
ナトリ地

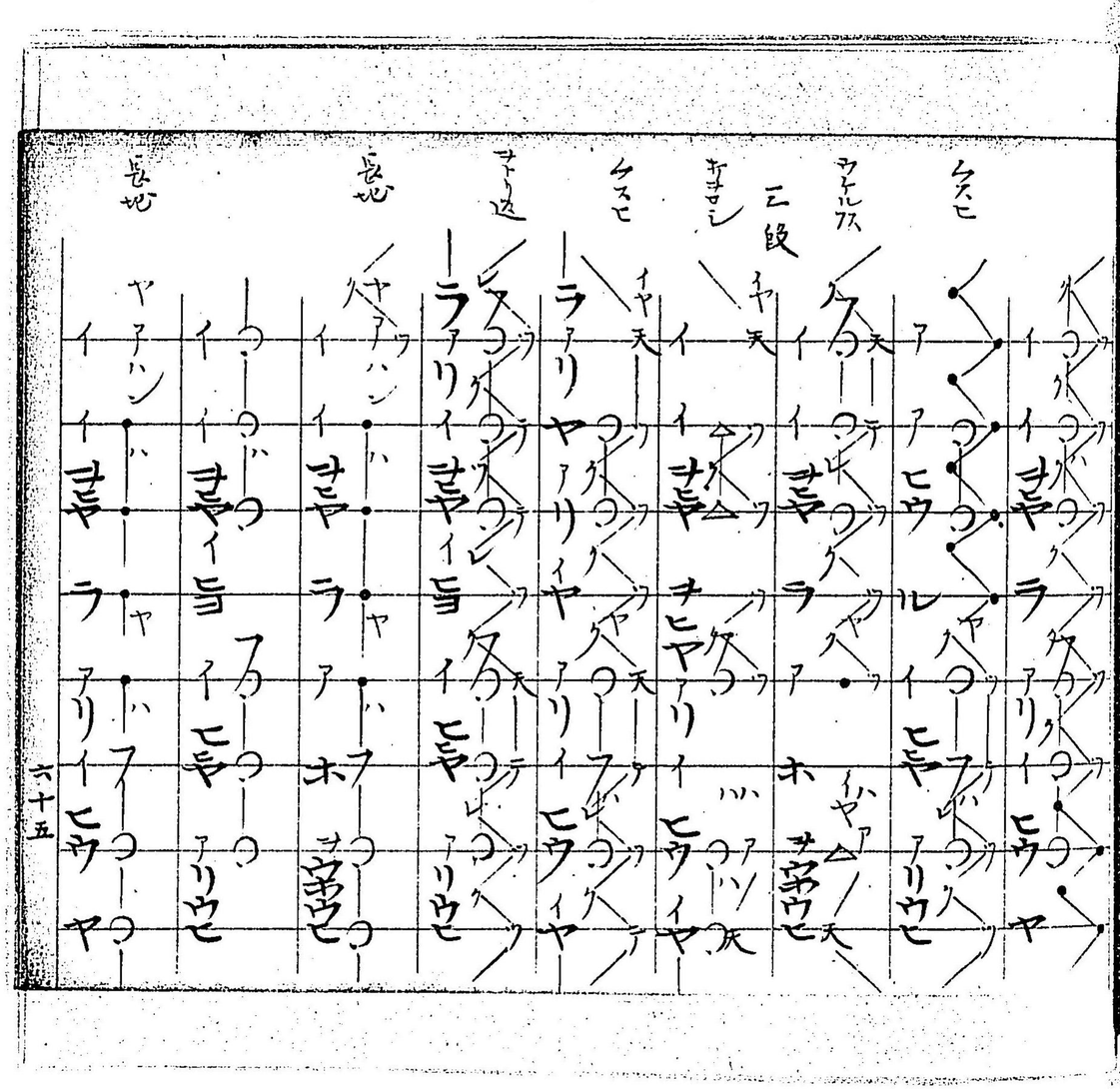
長地

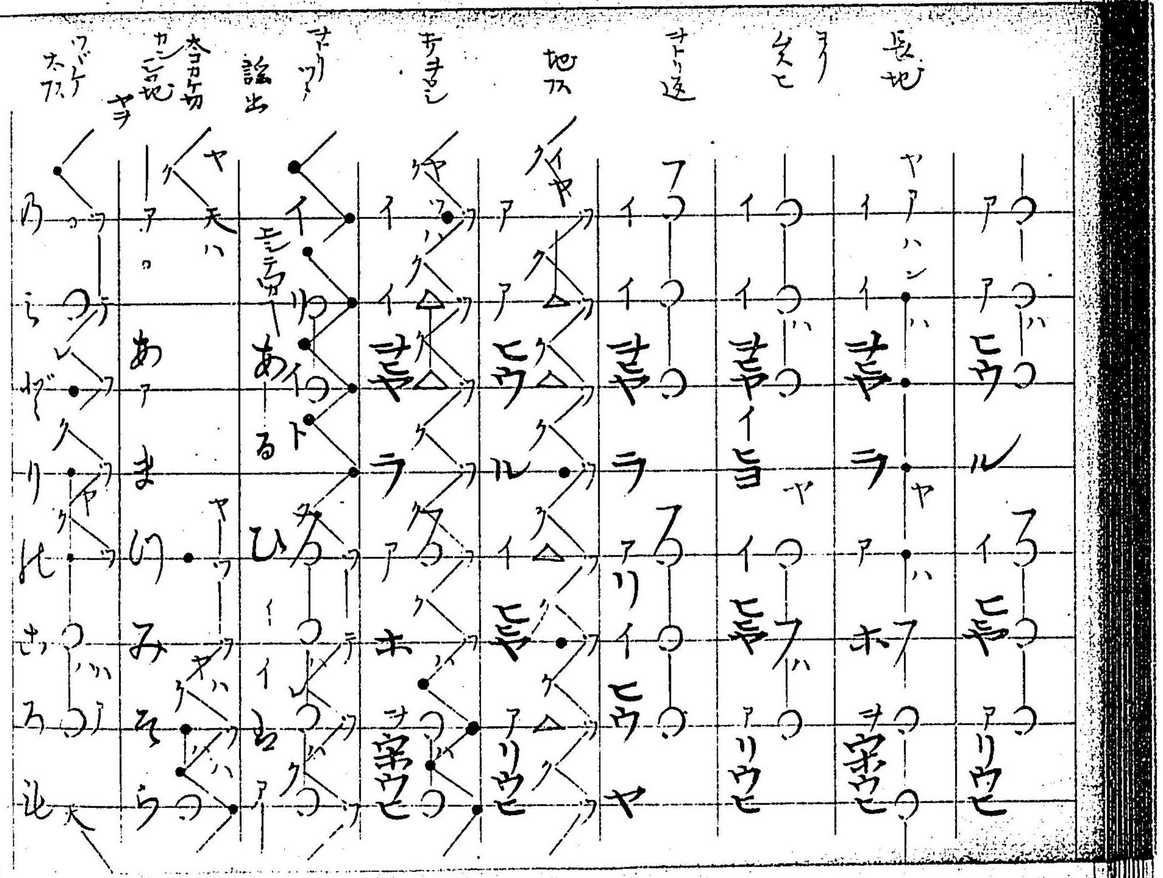
ヤアハン

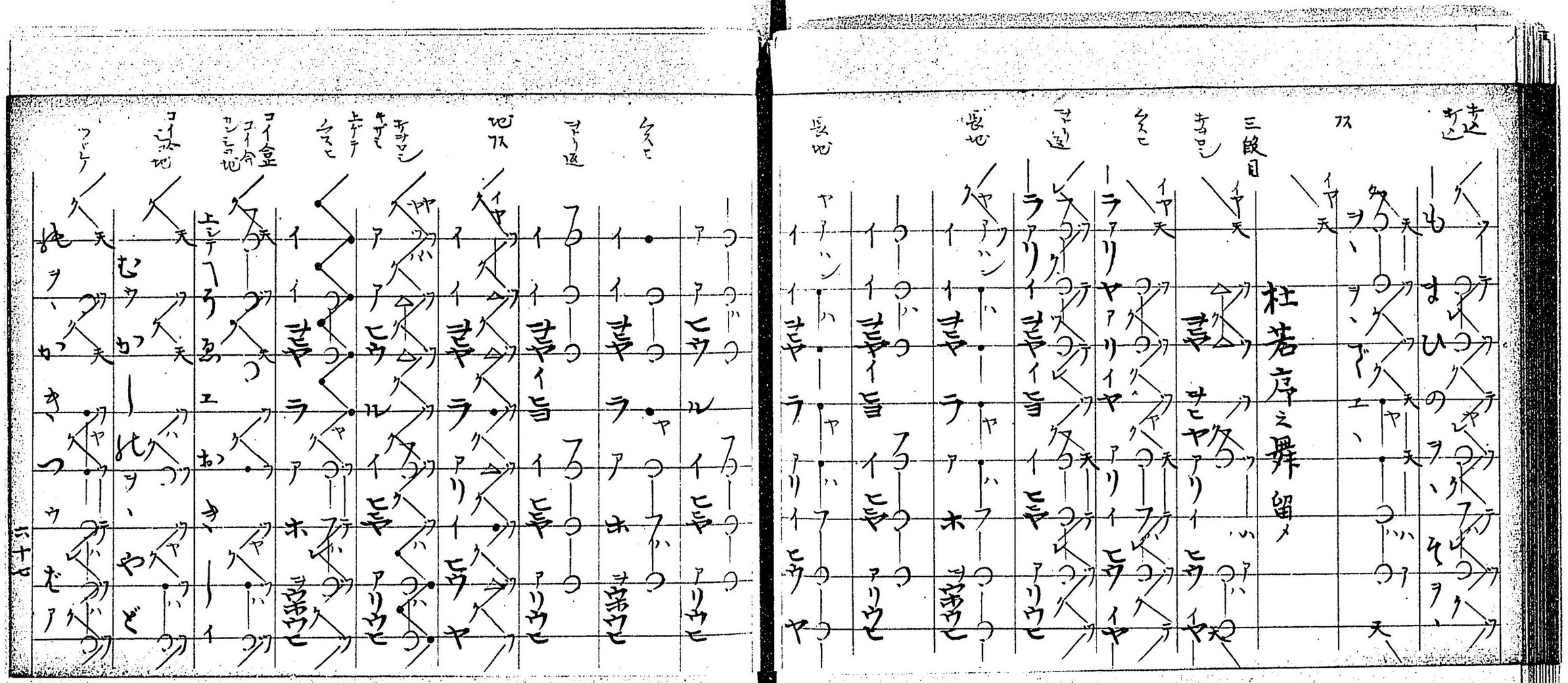
ヤアハン

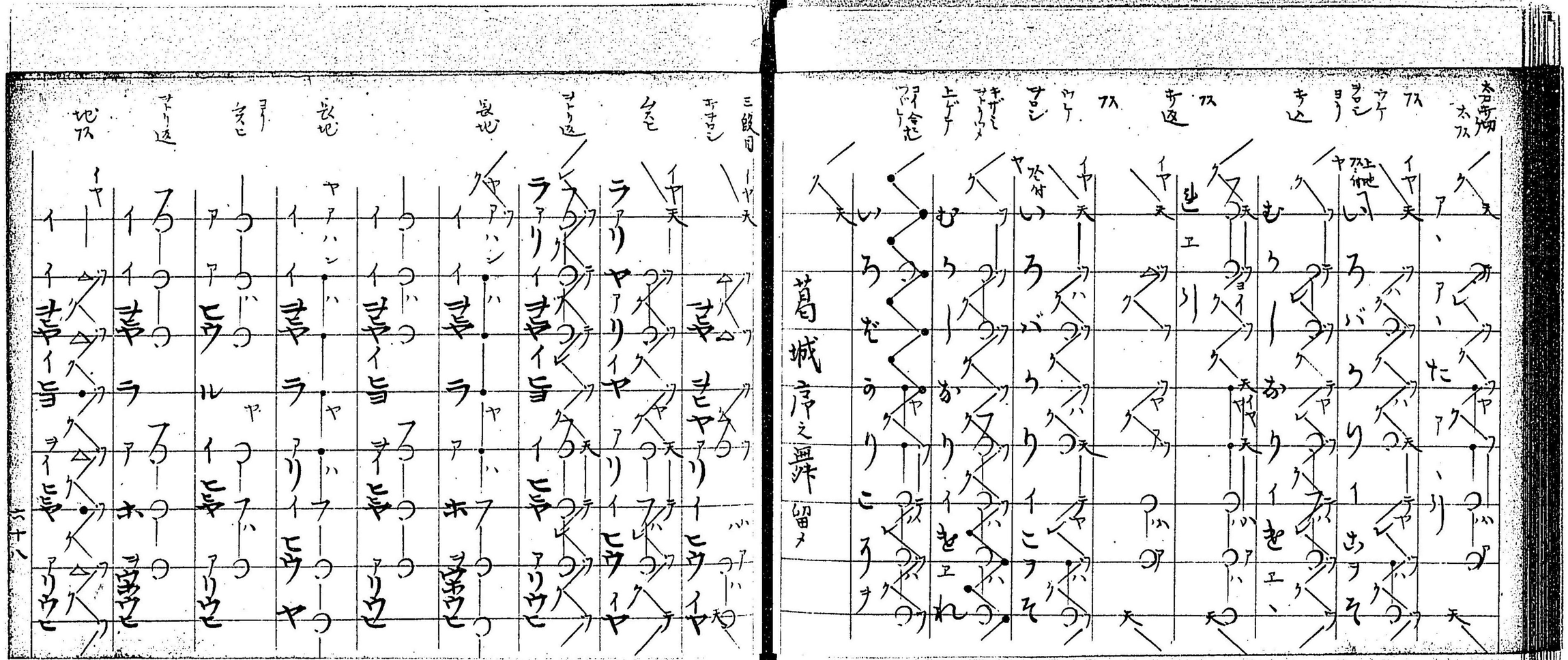
ヤアハン

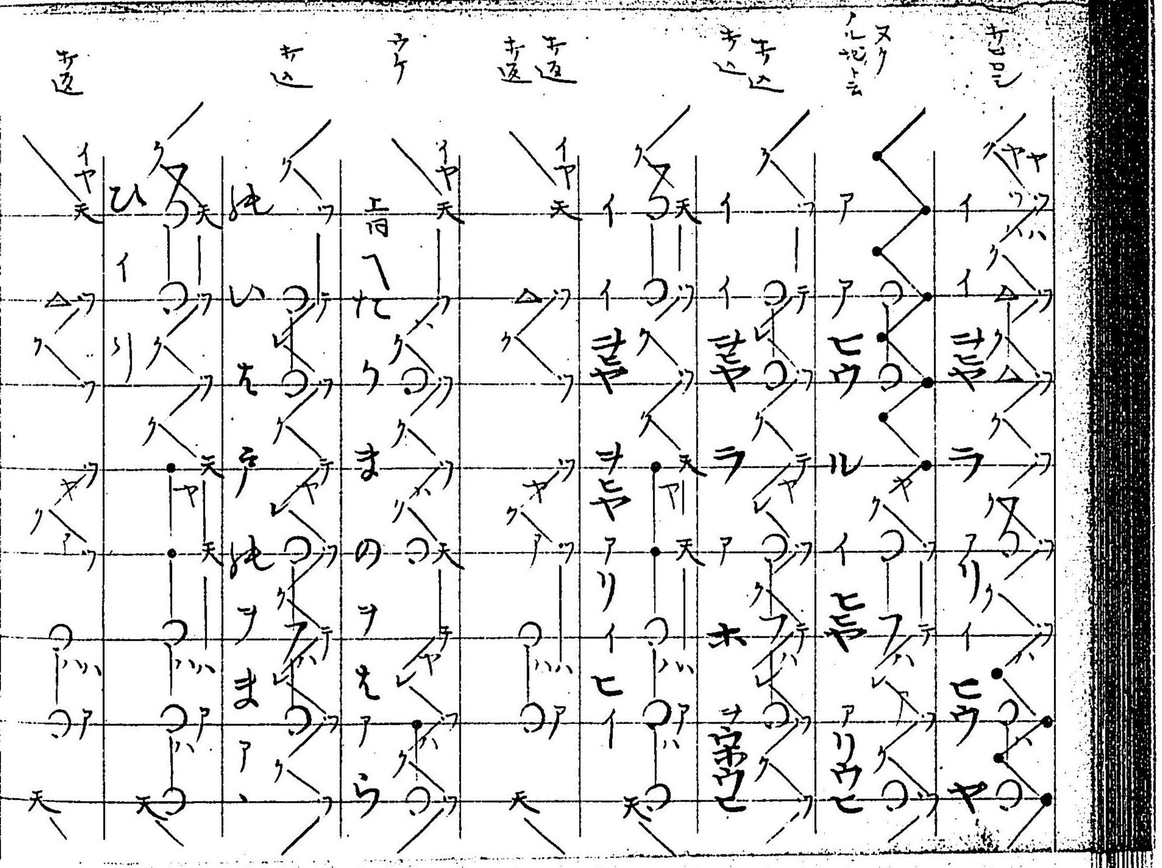

ヨトリ返
地フス
サヨシ
ヨトリ地
ヒラキ
長地
長地
長地


ムスヒ
マトルフス
三段
サヨシ
ムスヒ
ヨトリ返
長地
長地




杜若序之舞留メ
三段目


三段目
長地
長地
地
菊城序之舞
留メ



融城出端ヨリ盤渉早舞

ツキ上ル

碎まく。昔の衣を叩しきて

しを根のやさつよ衣もをかゞ

おほもきどくをえれやとて

ゆゑまちゞはしたび寐クアか

大カヽリヨリ

カシラ地

ゞ上カヘ

合フス

杏キ出

首ヒギ

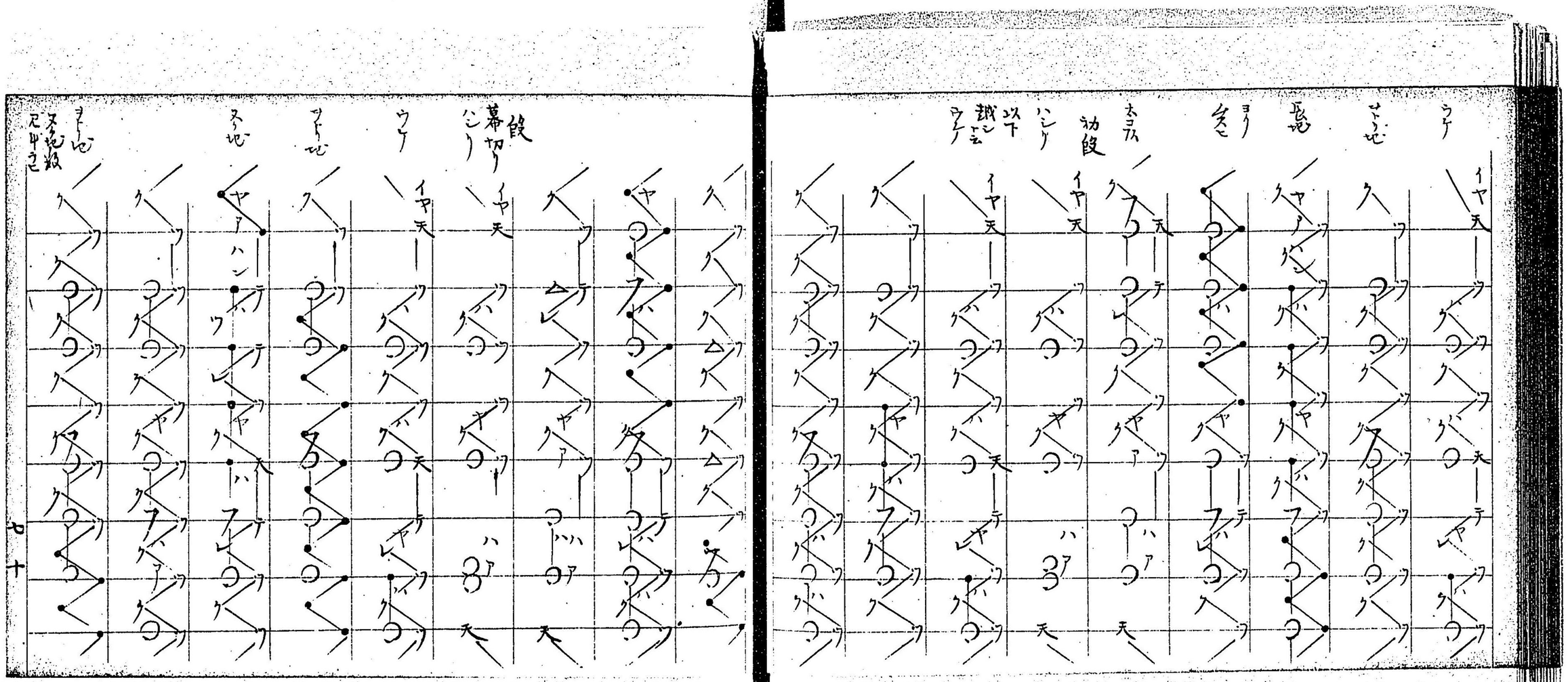
出端

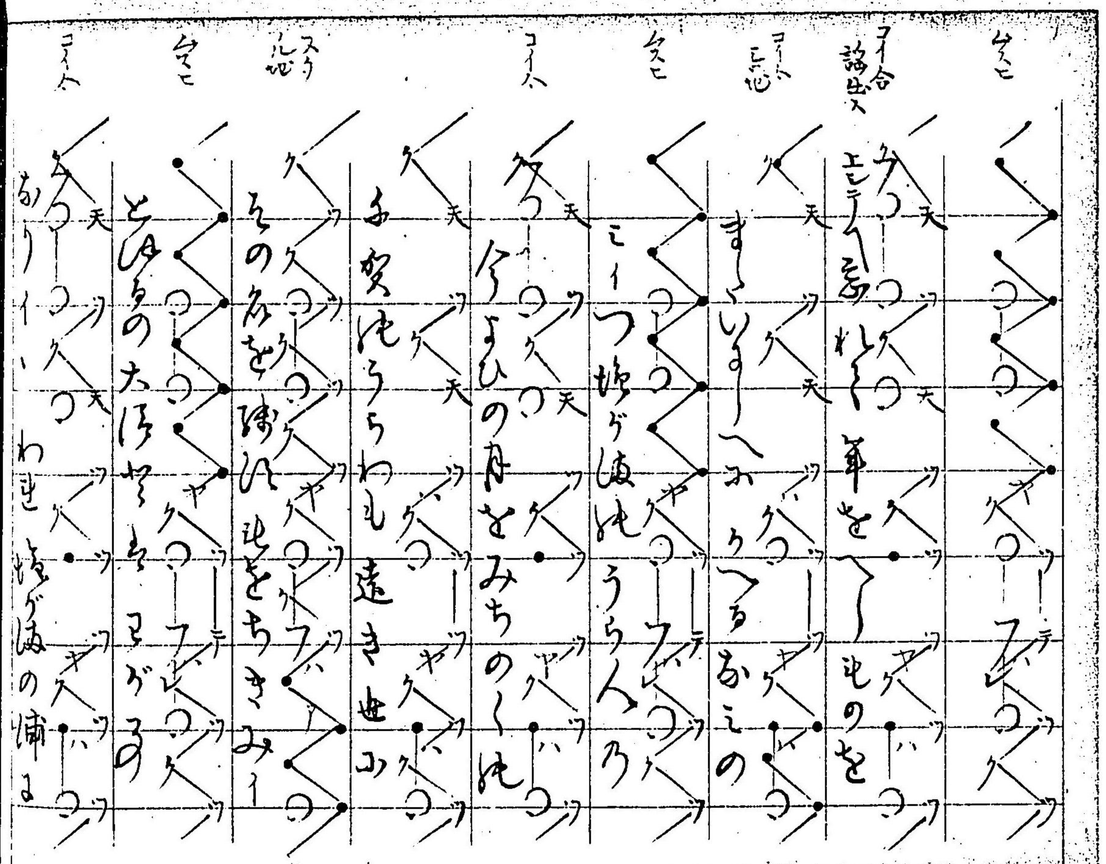
ゆゑまちイゞはのたび袴ユウアか

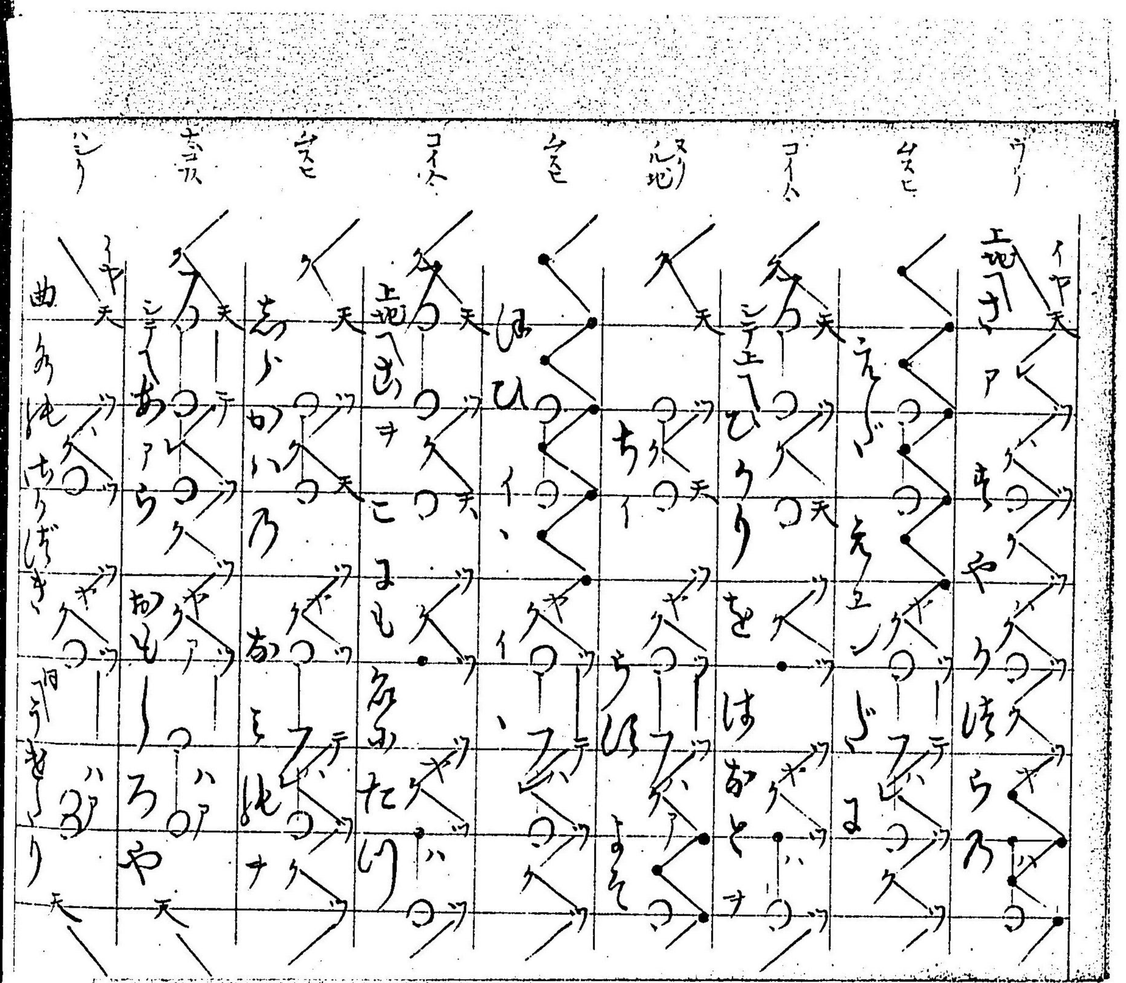
ゞ上カヘ

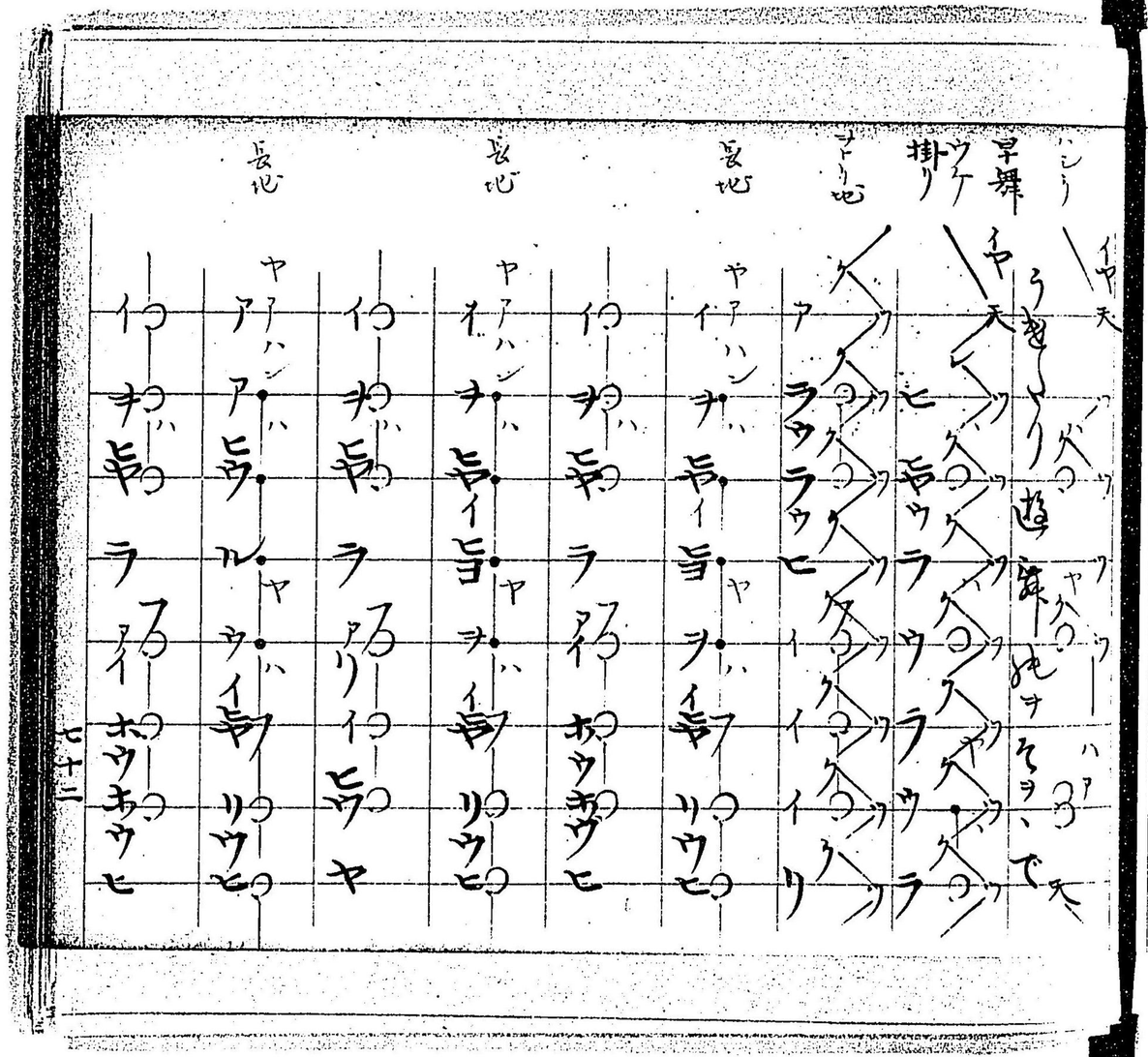
ハシリ

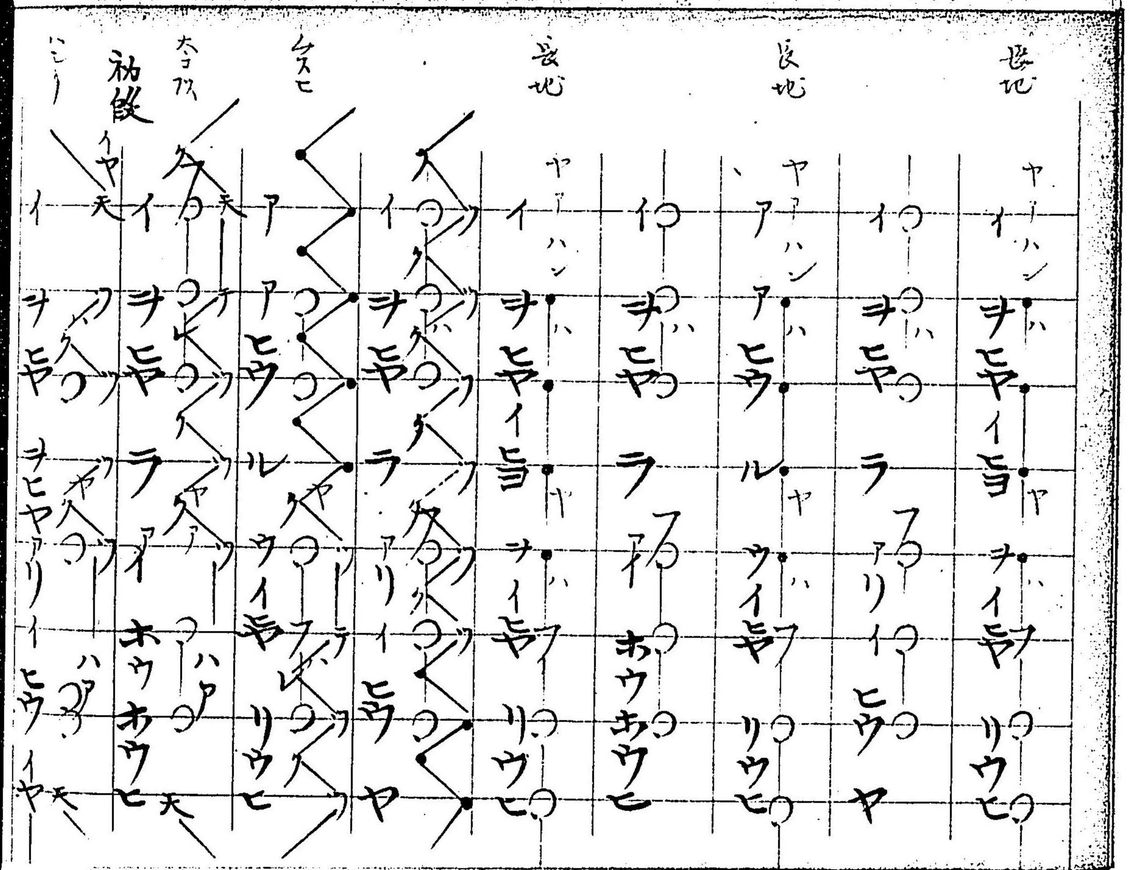
ハシリ

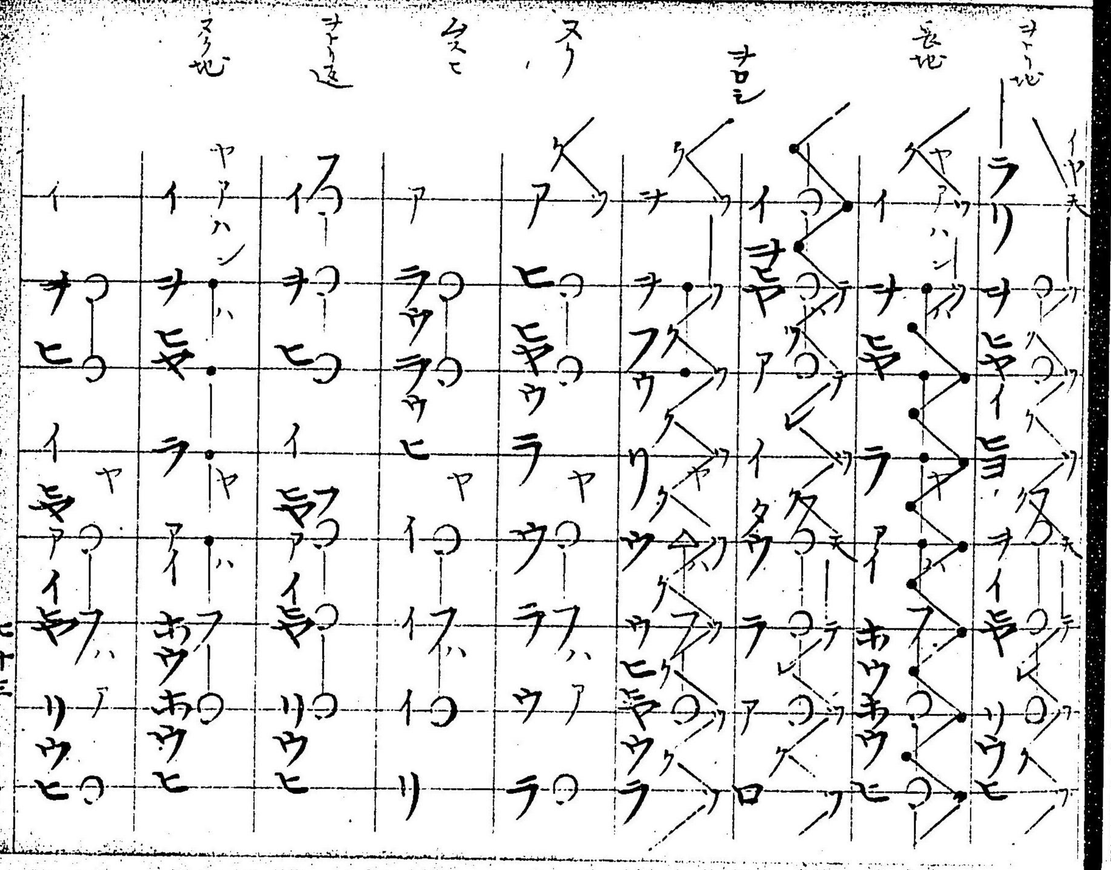

初段
段幕切り

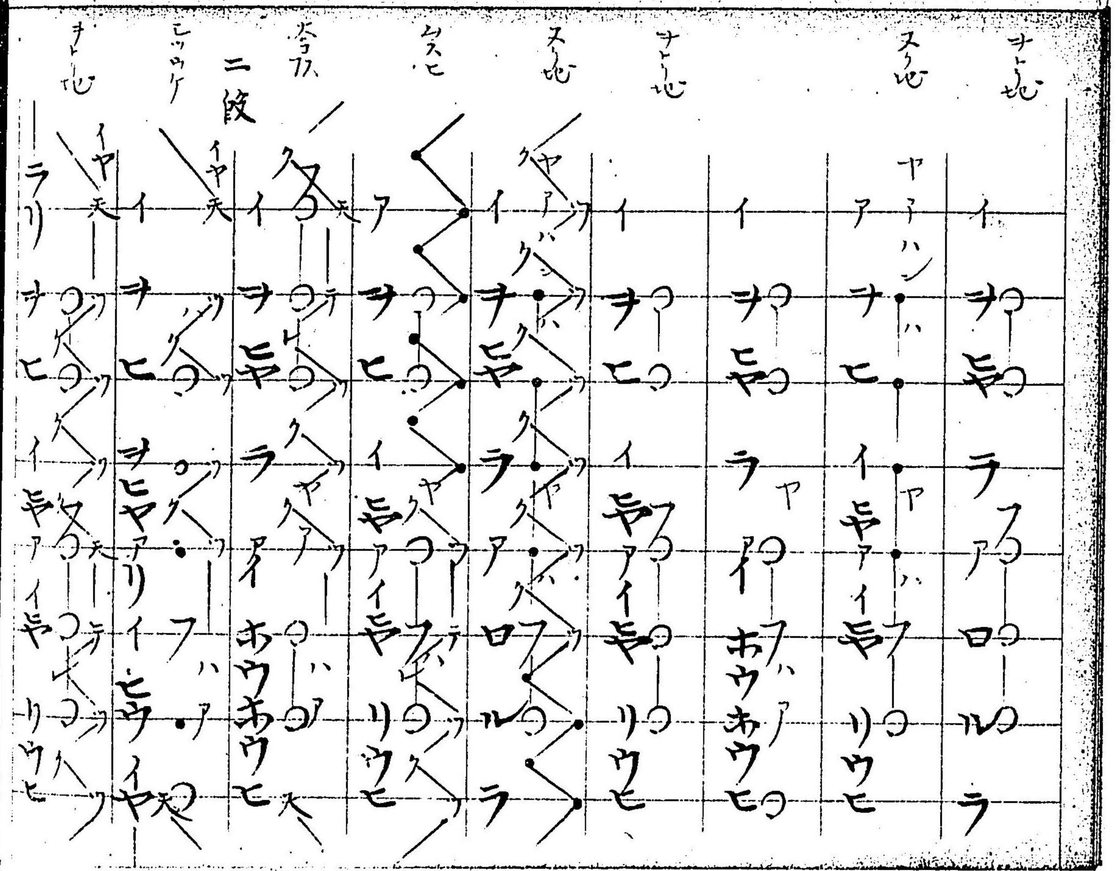


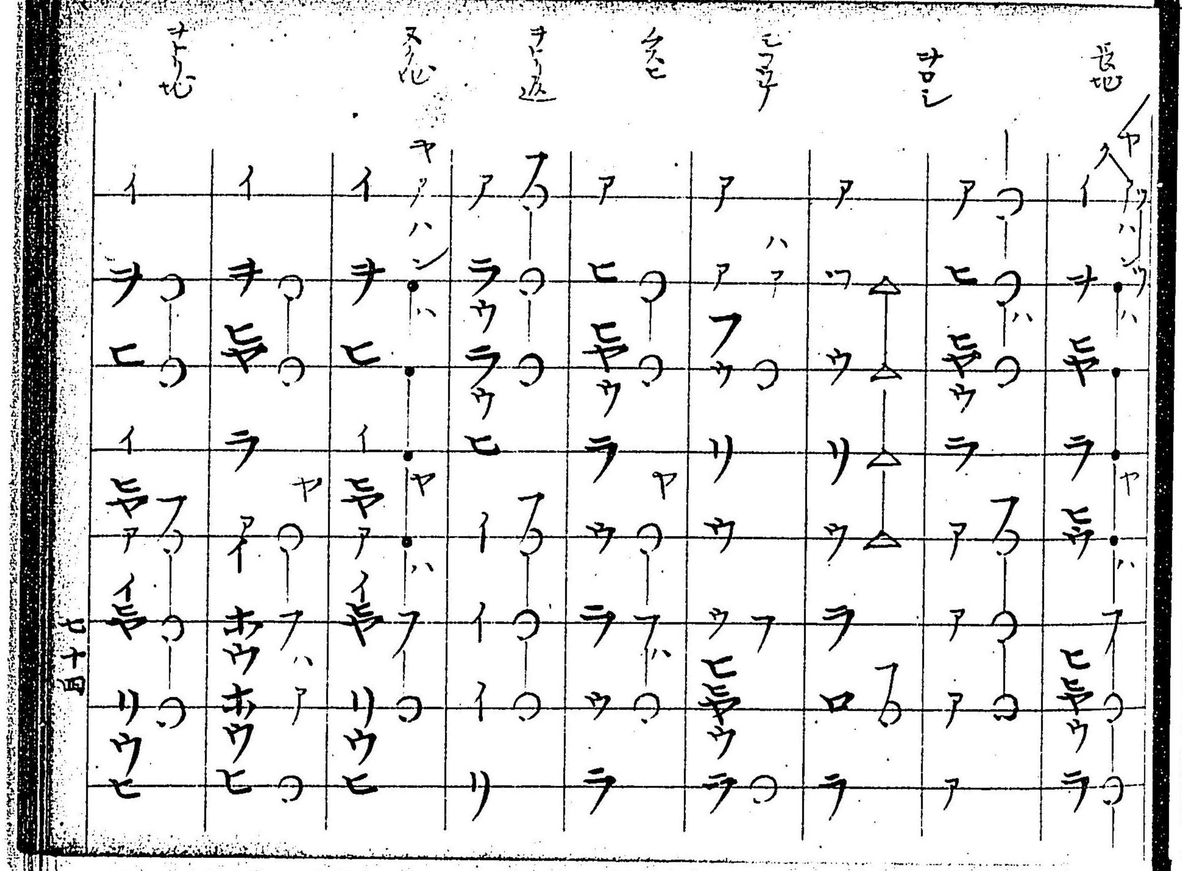


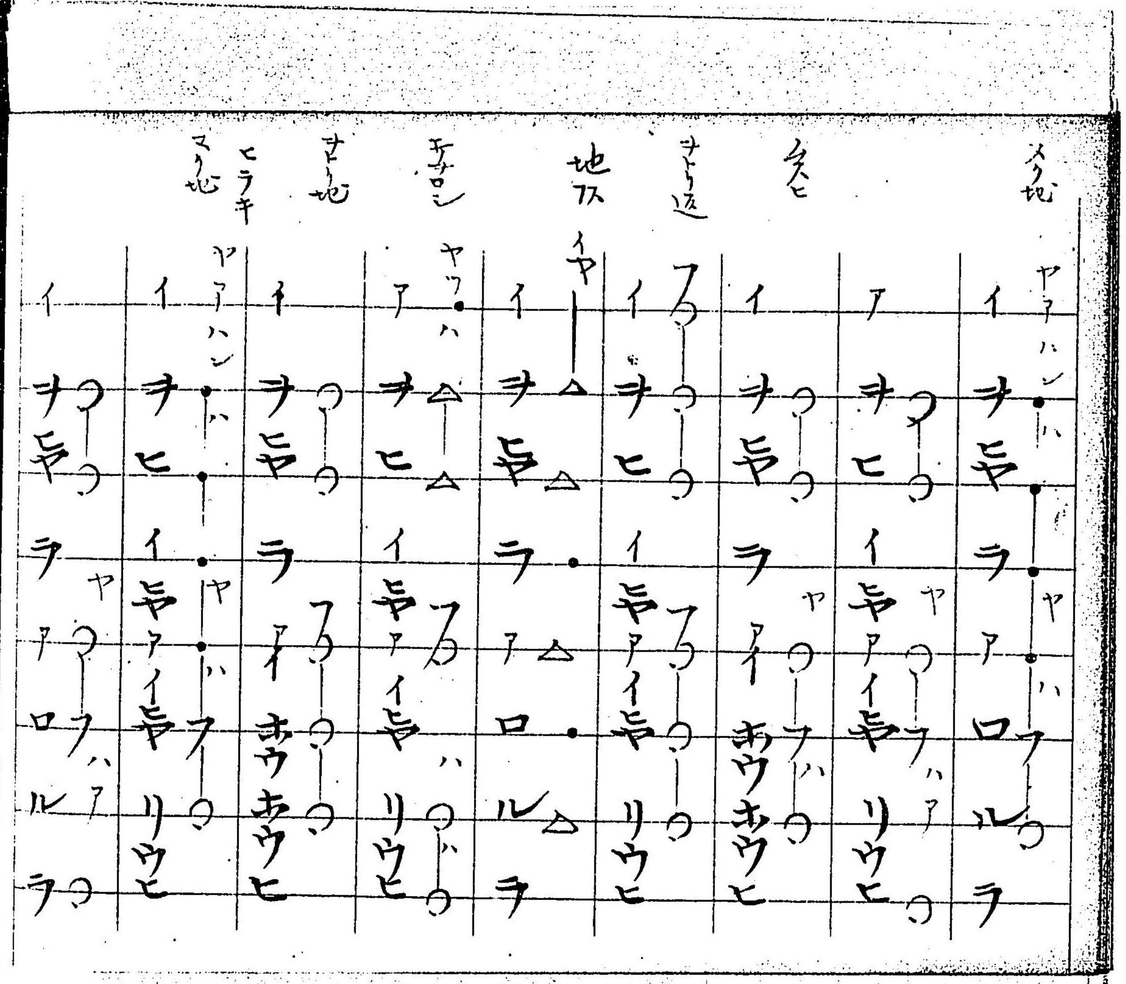


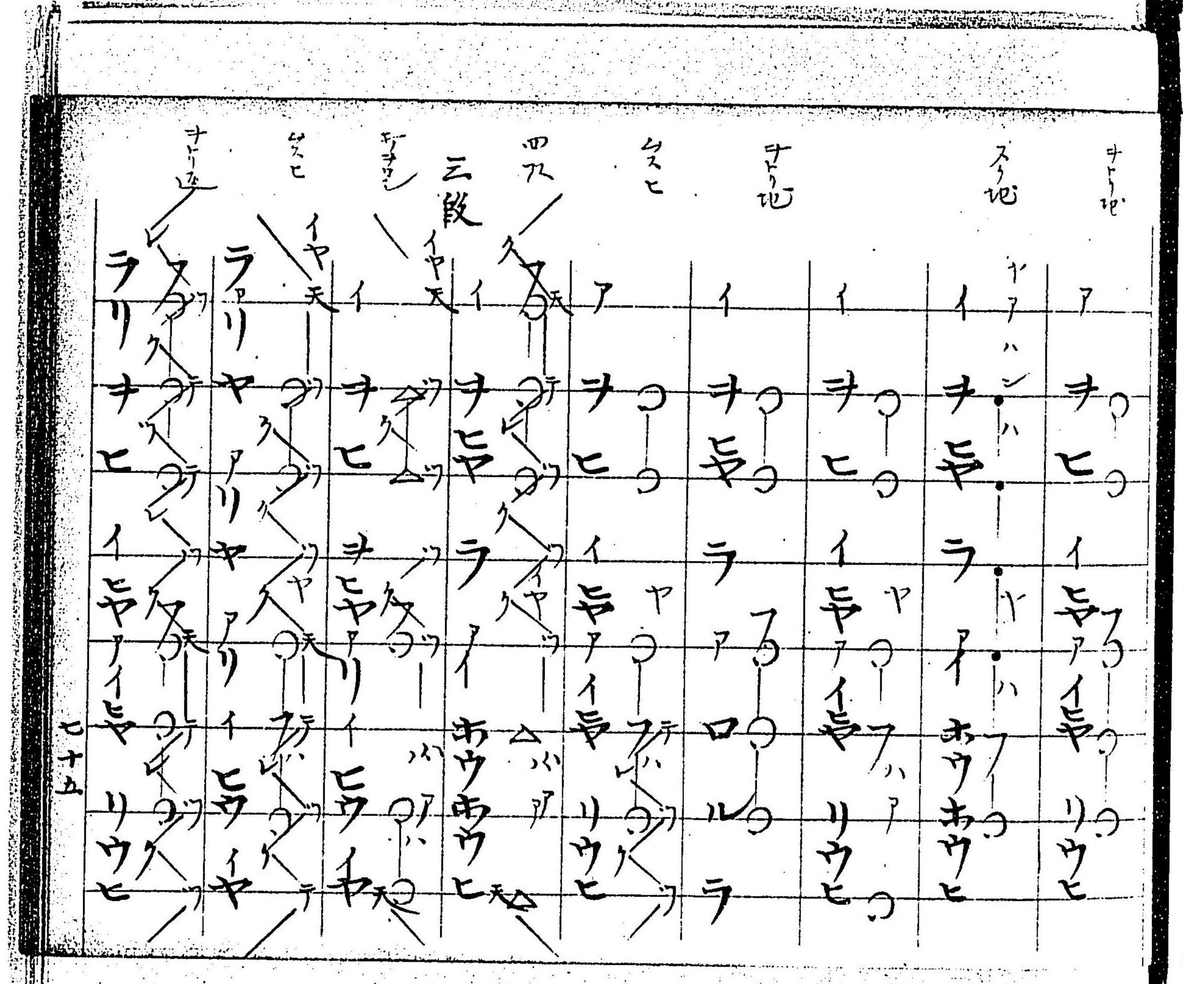

長地
長地
妄地
ムスヒ
ナカノ段
初段
ヤアハン
ヤアハン
ヤアハン

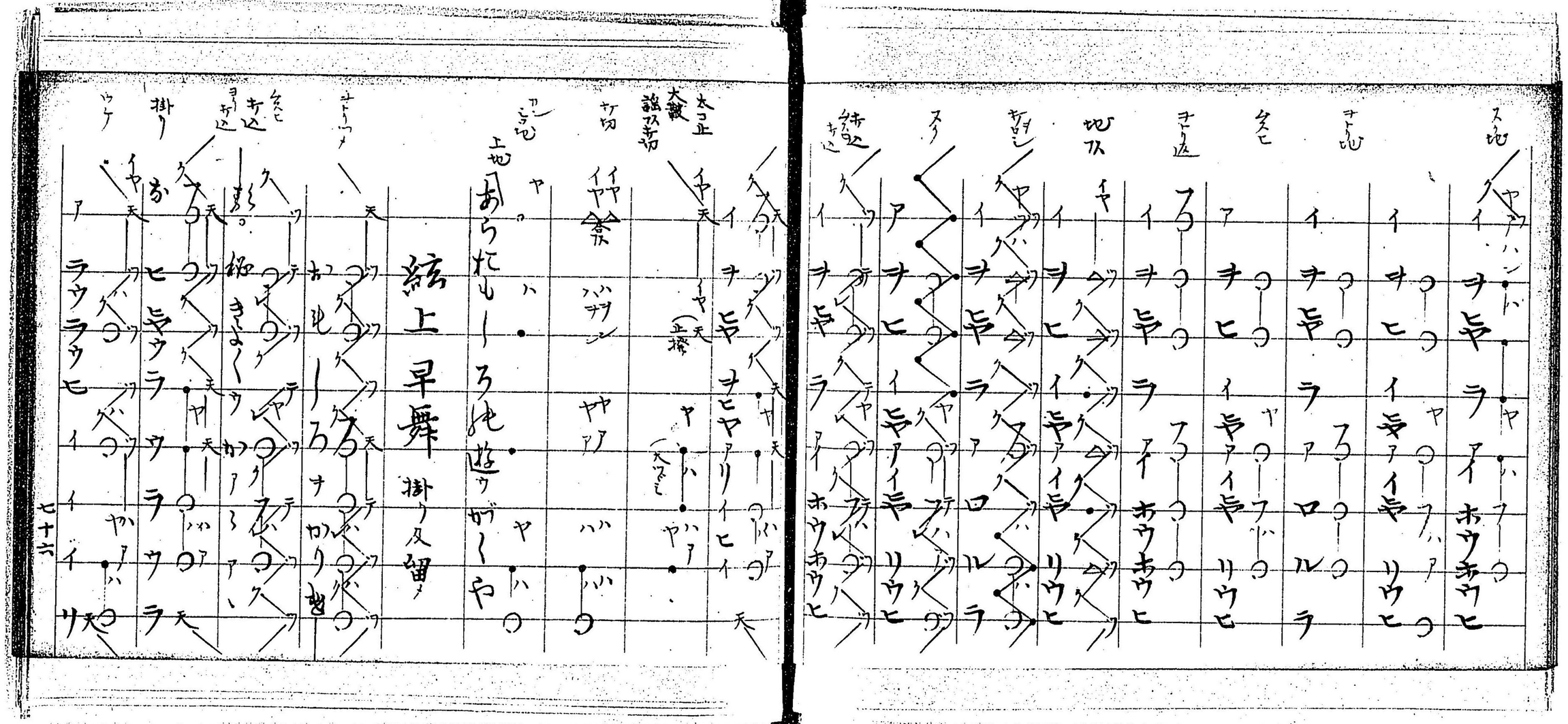

ヨロシ
ヌリ
ムスヒ
ヨロシ
ヌクノ地
長地
ヤアハン











結上早舞

掛り及留

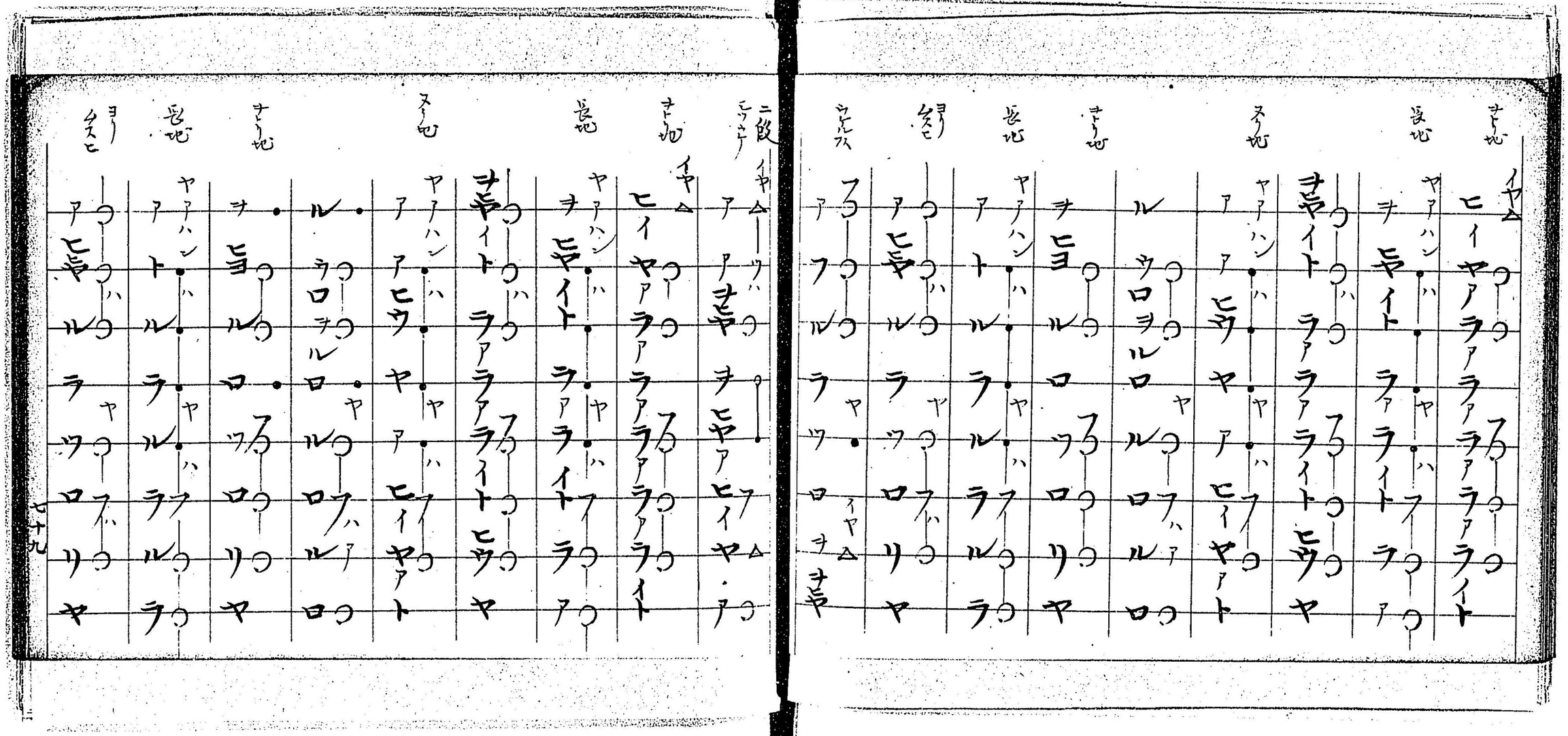
以下駒之通り変り無

破掛り鶴鼓

花月

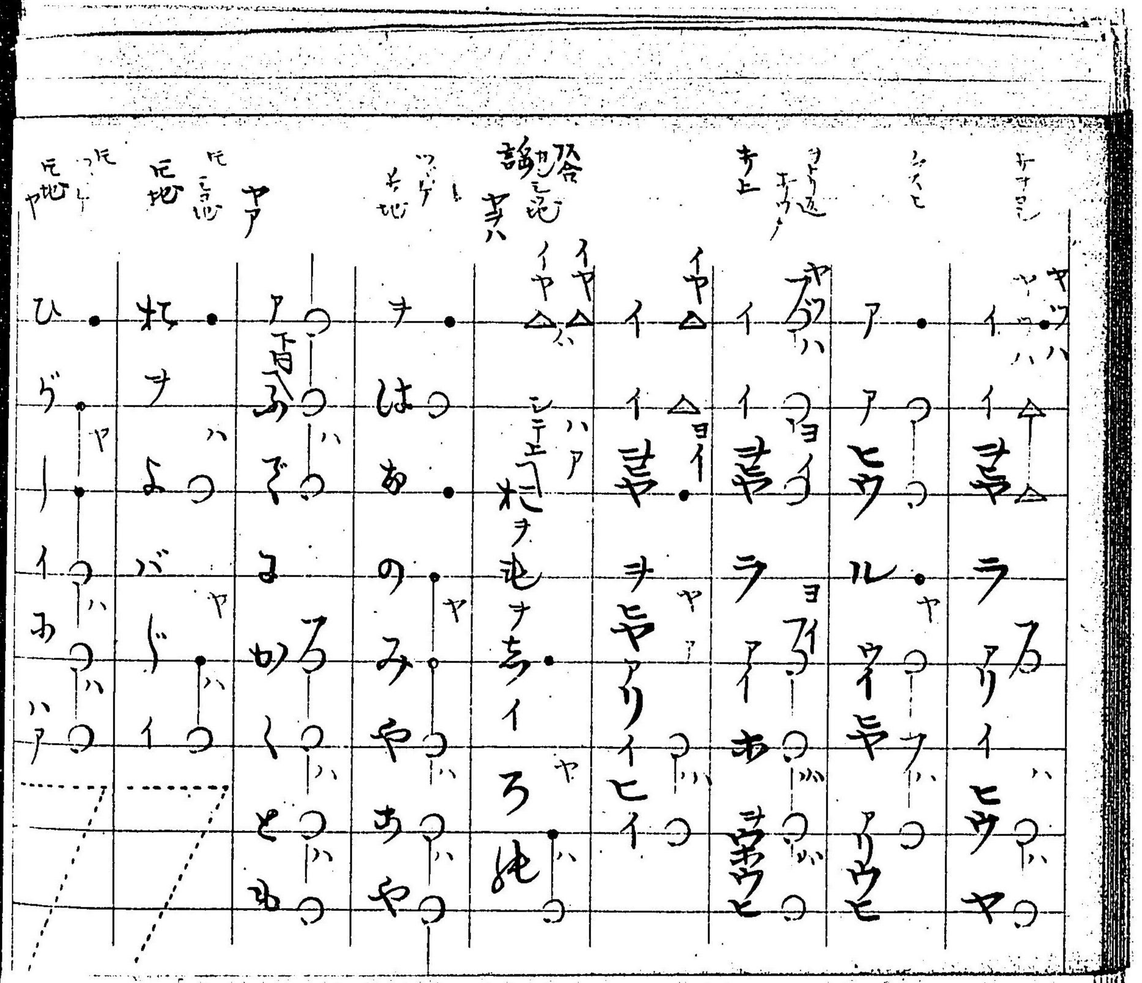
城北わ連 流紫 青山上のぐり

ヤ・ハ・ツ・ヤ・ハ・ツ・ヤ・ハ・ツ・

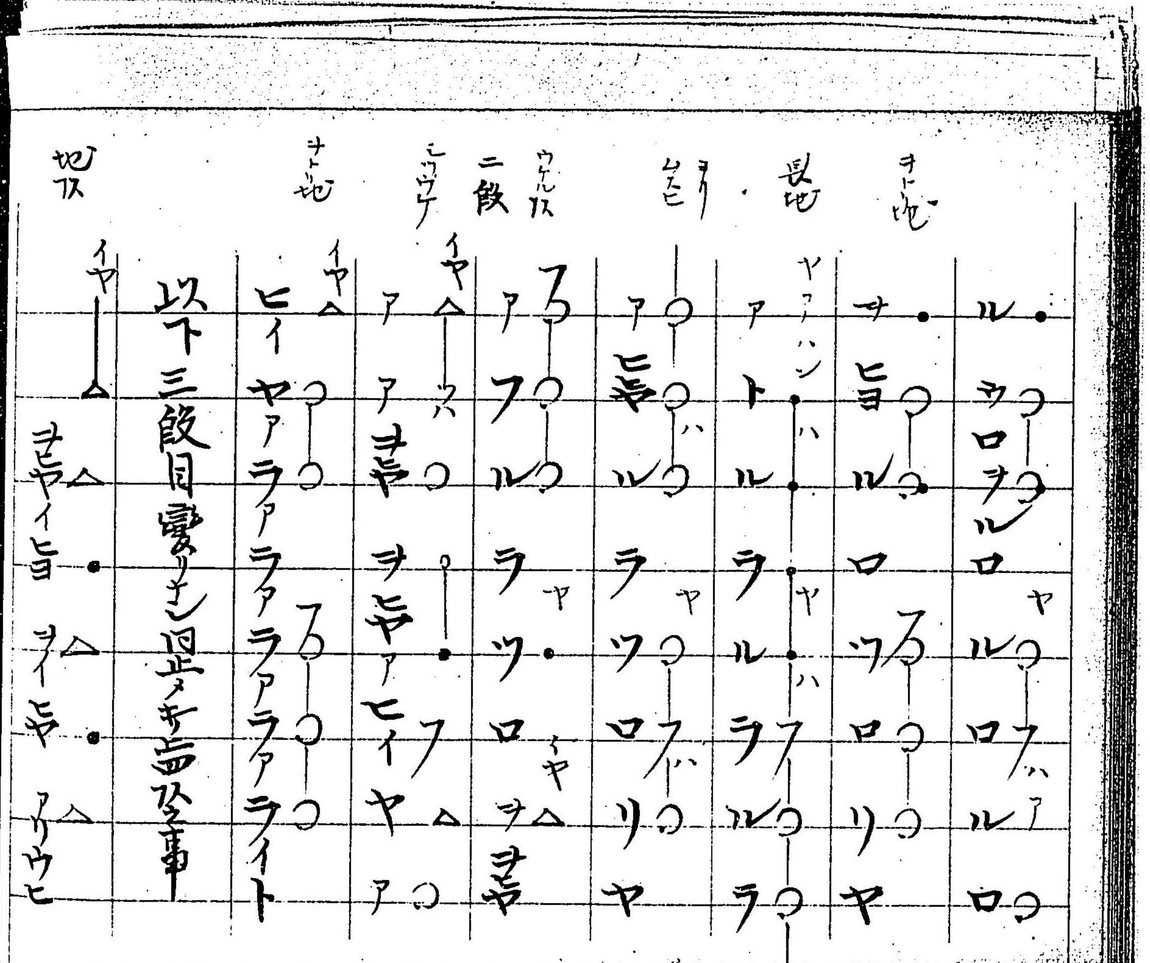

二段
長地
スヽ地
長地
長地
長

三段

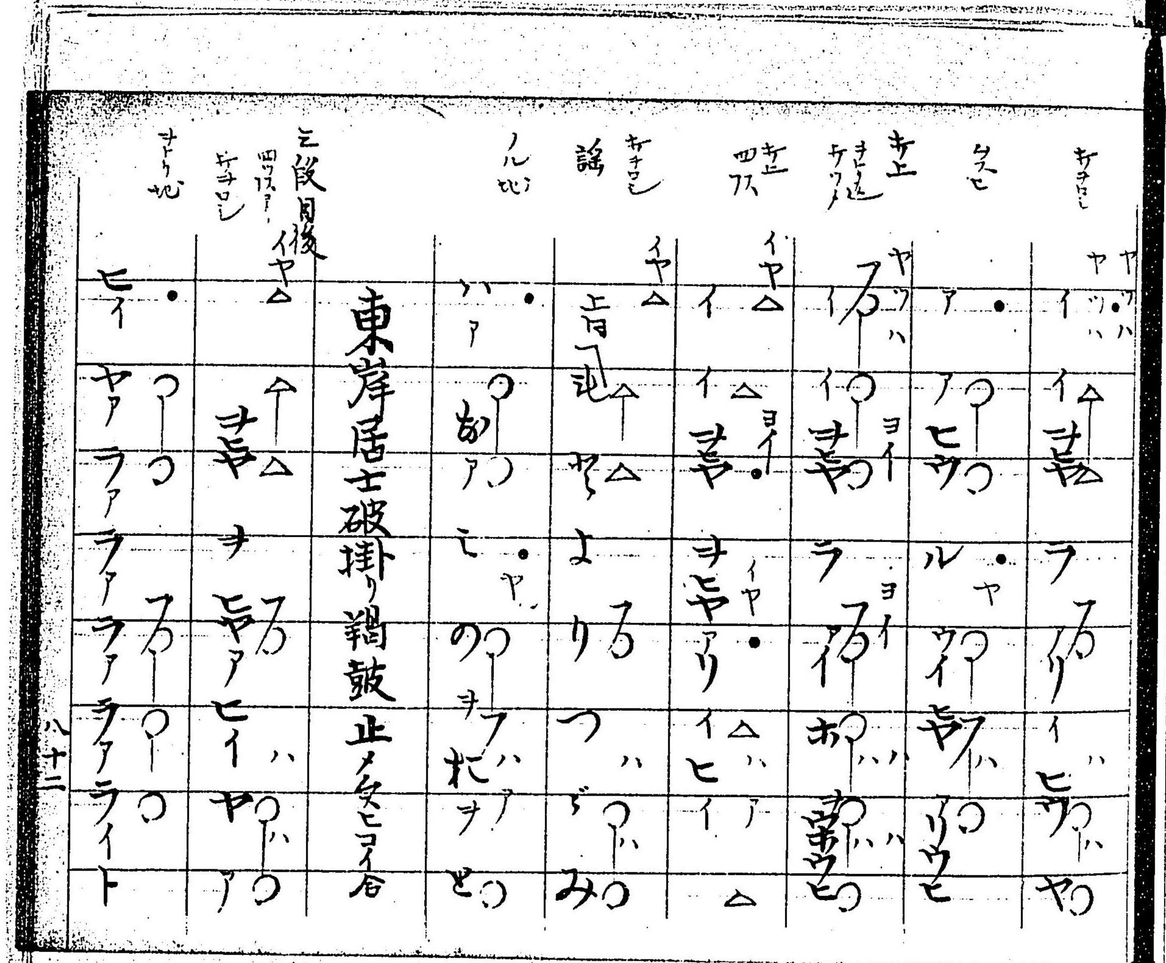
放家僧破掛鞨鼓 止上ス合



自然居士鞨鼓



以下三段目愛リナシ且メチ面ヲ之事



東岸居士破掛り鞨鼓止メ各ヒヨイ合

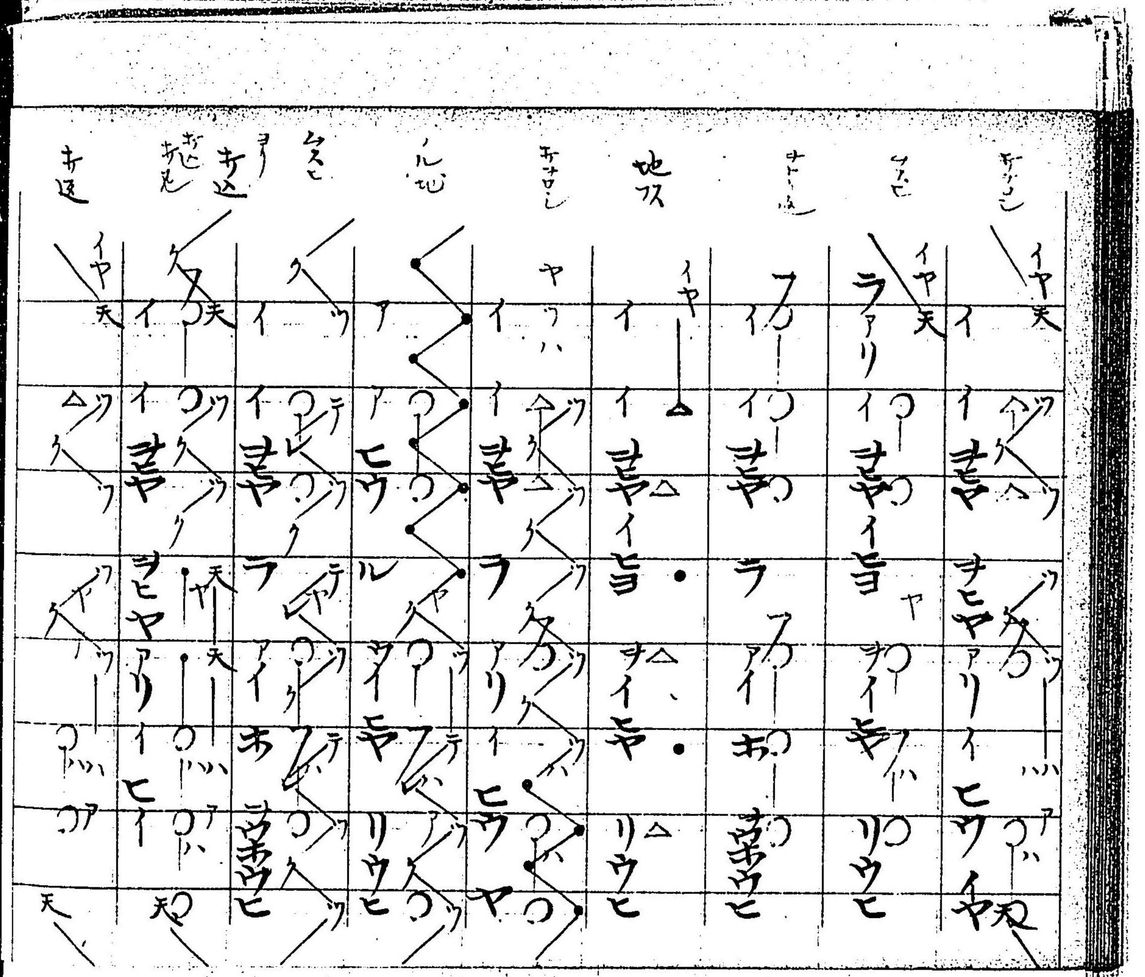
長地
ヤハン
ヤ
ヤイト・ラアライトアラ
ヤ
ヤイトラアライトヒウヤ
コウ地
ヤハン
ヤ
アヒヤ・ヤアヒヤアト
ナトリ地
ル・ウロナルロルロ
ナトリ地
ヲ・ナヒウル・アイヤアリウヒ
ムスヒ
イ・イヨヤラ・アイホヲヒ
ナトリ地
イヤ
イヨヤイヨヤアリウヒ
地ツ
イヤ
イヨヤラ・アリイ・ヒウヤ
ナトロシ
ヤ
ヤウハ
アヒウルアイヒヤアリウヒ

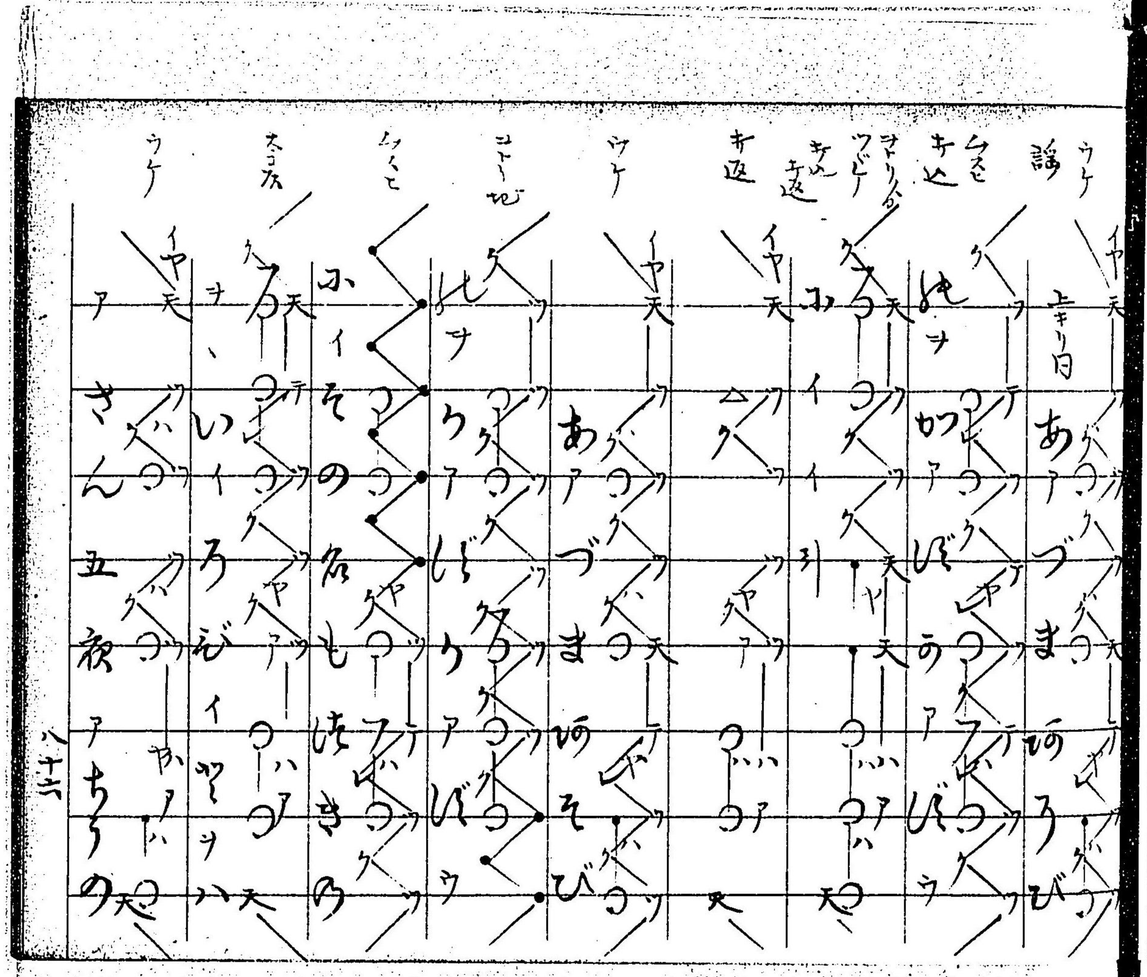
ムスヒ
イ・イヨヤラ・アイホヲヒ
コイ合
ヤ
アイヤアリウヒ
エテ
ヤ
ヤイトちヒイヤぞヤり。
コヒ地
論
コ今地
ヤ
はアへづるウ、ハよハ
ヤ
ヤ
ヤ

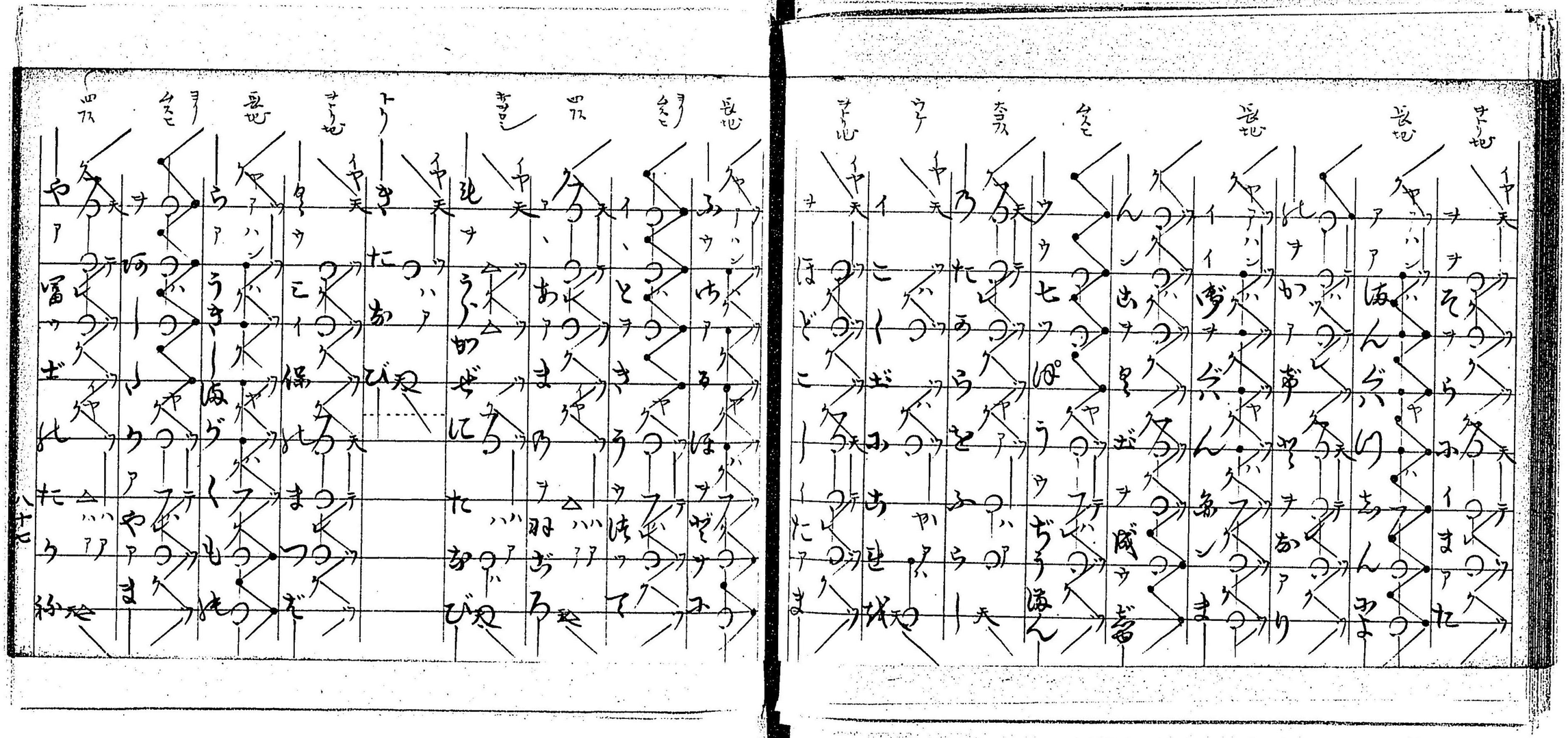
ナトリ地
掛り
マリ地
ヌク地
ヨトリ地
ヌク地
ヨトリ地
ヌク地

ナトリ地
地ノ数ヒ計
ムスヒ
シテ面作リ物
格ナマハル時
四ツ仗
段
キヨロシ
ムスヒ
ナトリ返
地仗
キヨロシ
ムスヒ

羽衣破之舞　一段







献上梓

大宮司やぐてあづさみゆうけ作へ

大設ヨリ

小設ヨリ出ス

合ス

太イコ止撥

ちはやぶる

かもうに

ありて知

ヨロヅ

この海

みそら

止サシ込

ク

かもそ

ろ

ぬれ

ますれ

ウ

うち野

みイ出ヒ

ヨリ

大コリ合

諸ヲ出ス

水ま

へ天

清浄地

清浄

内イ外

清浄

ウ根清

清ヲリ

今ぞより

ゆ

ゆ

よ

ゆ

ゆ

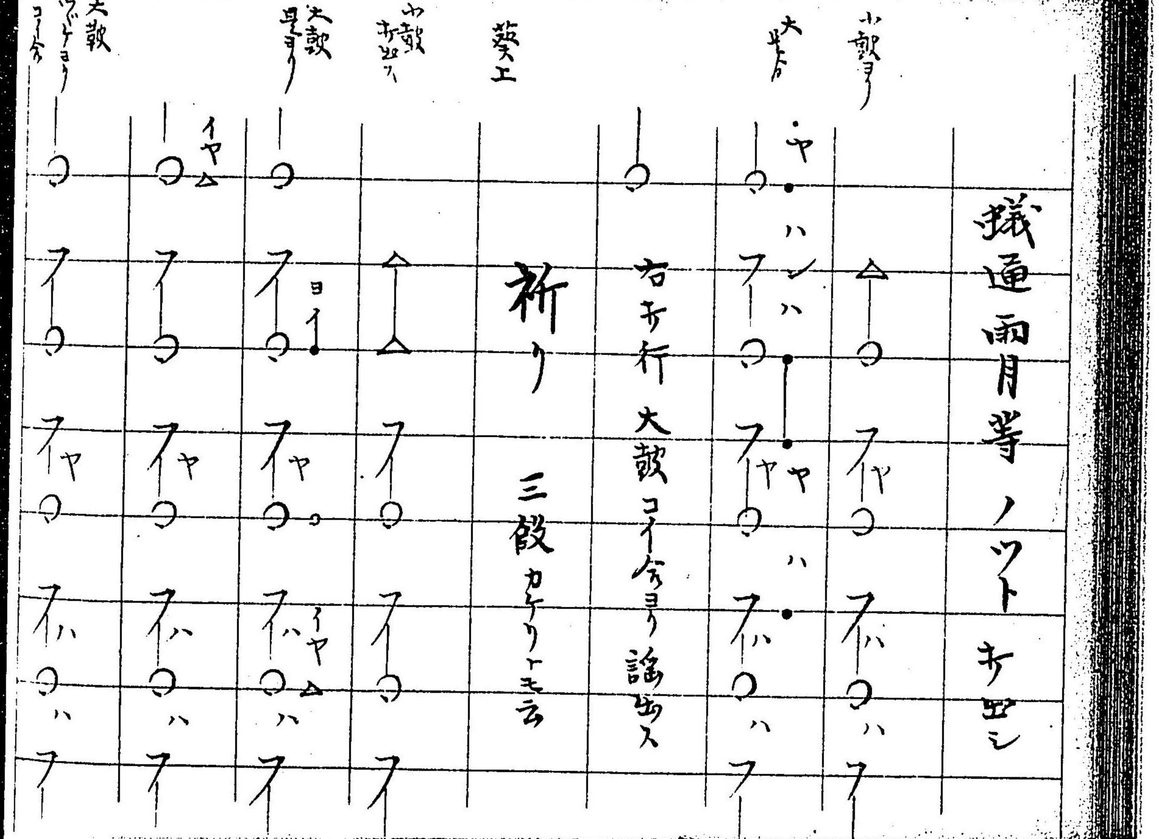
ゆ

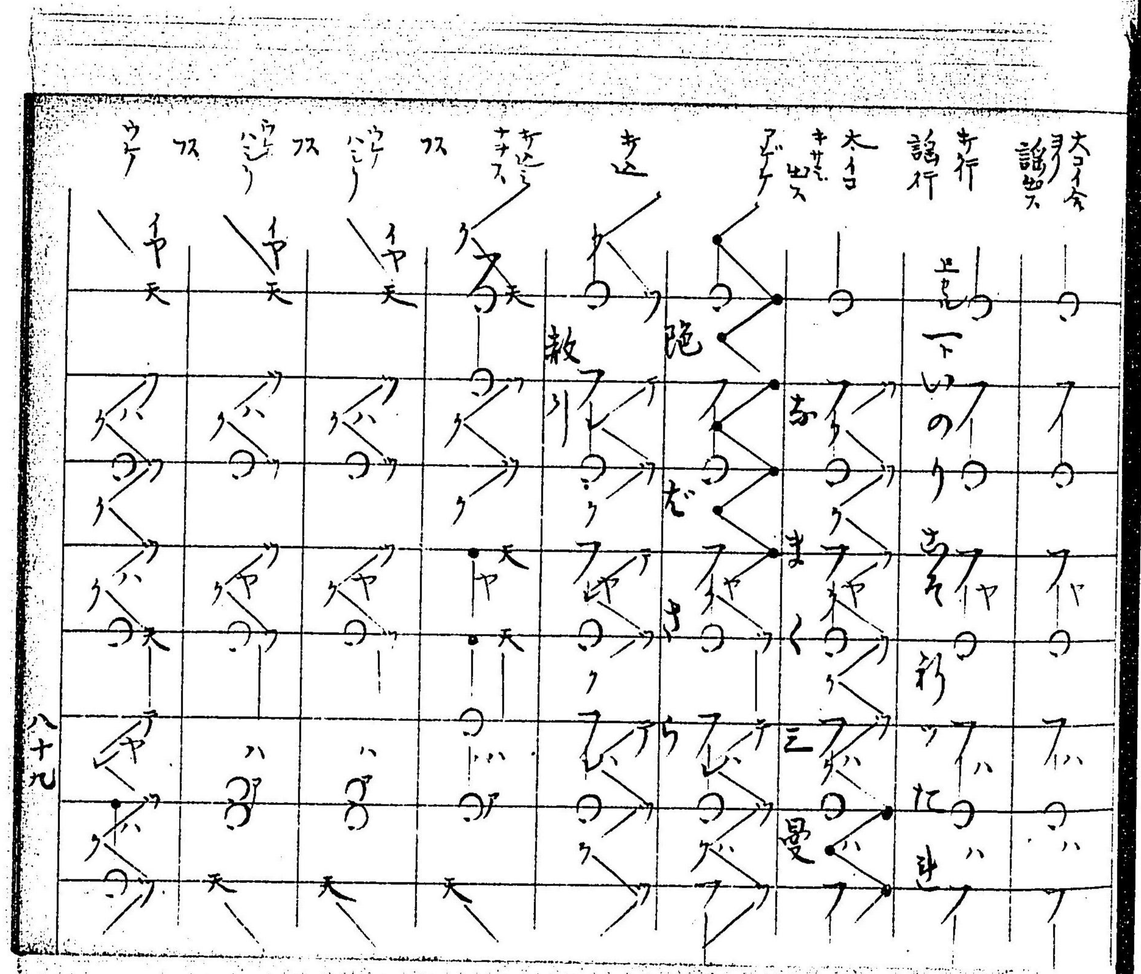
機通雨月等ノフシ

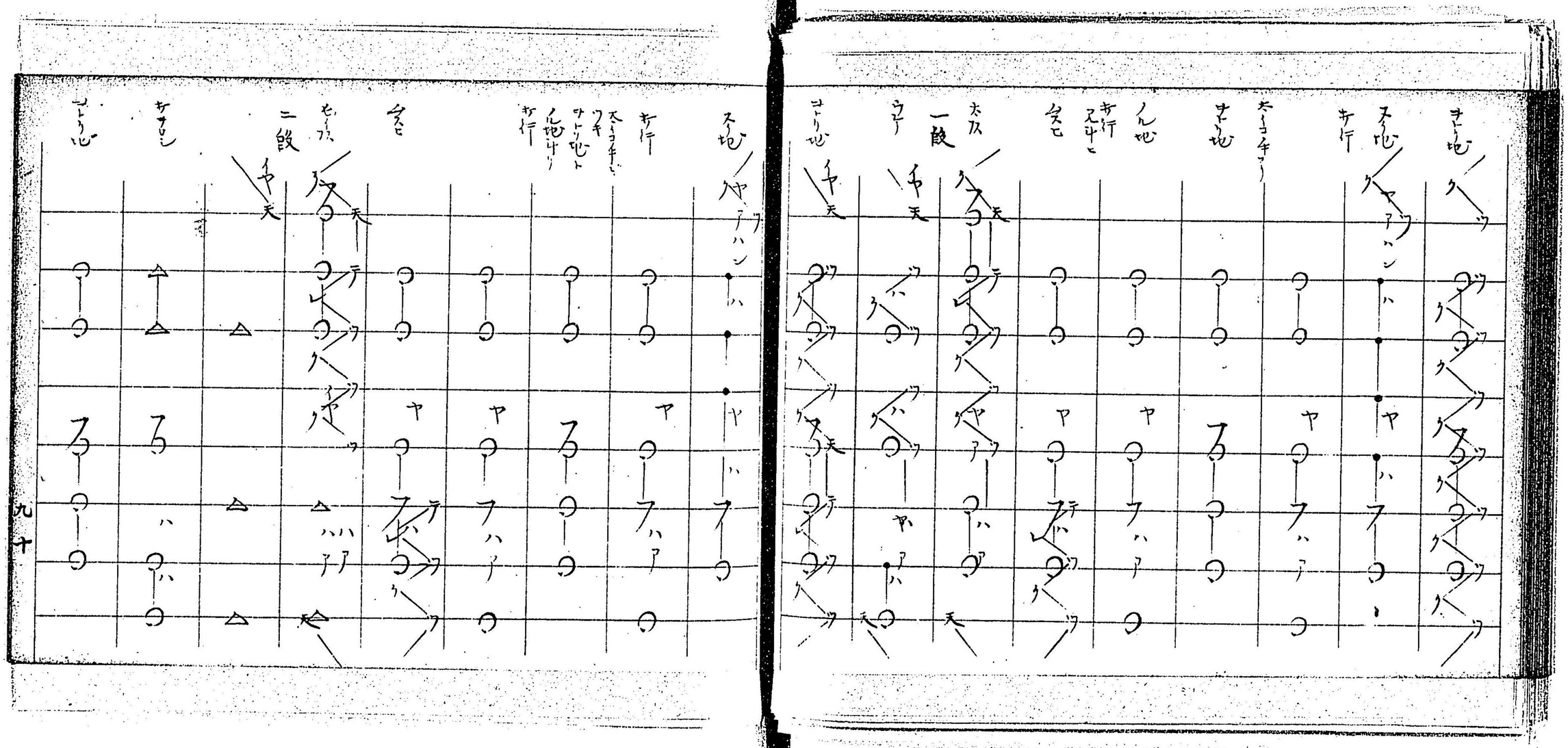
祈り

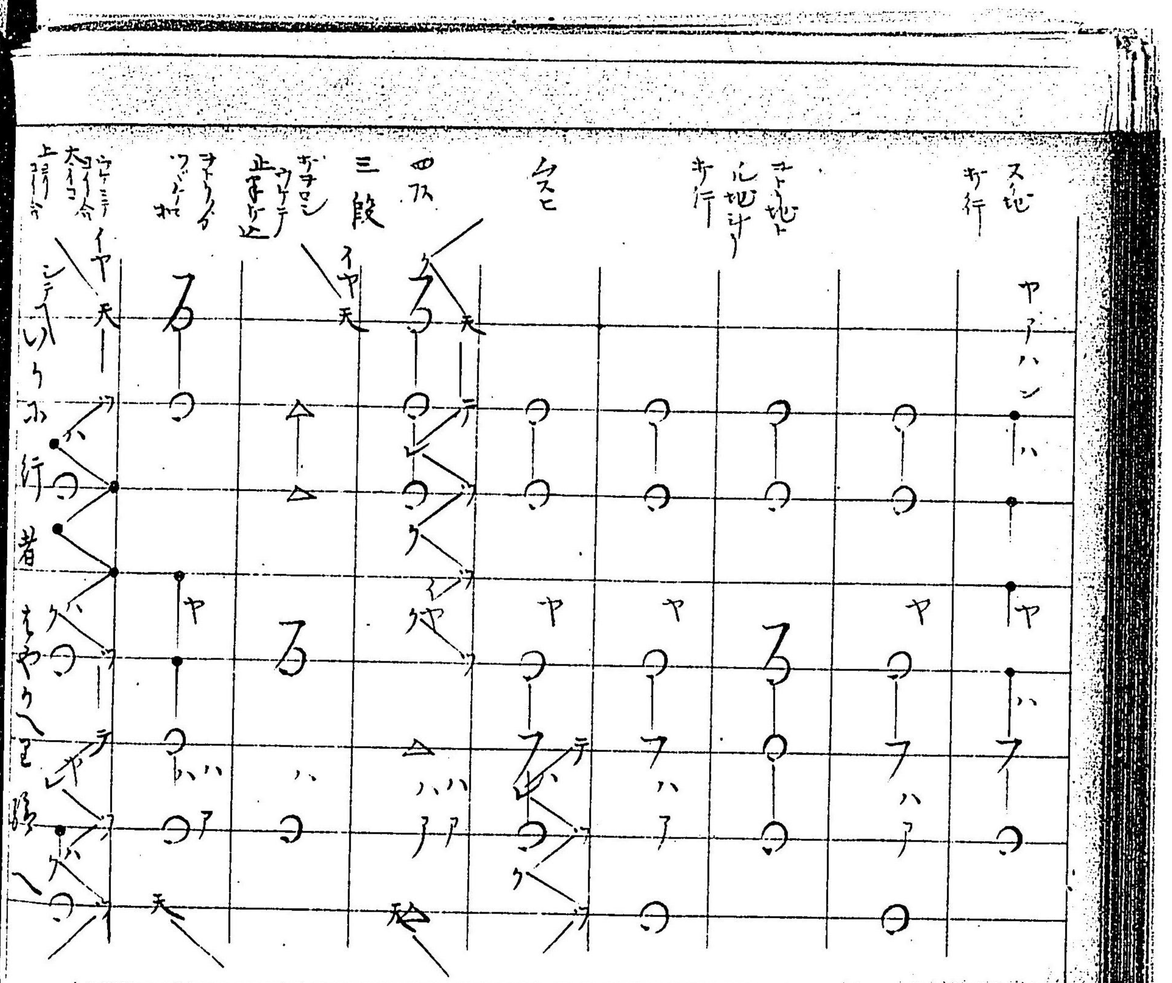
三段カケリトキ云

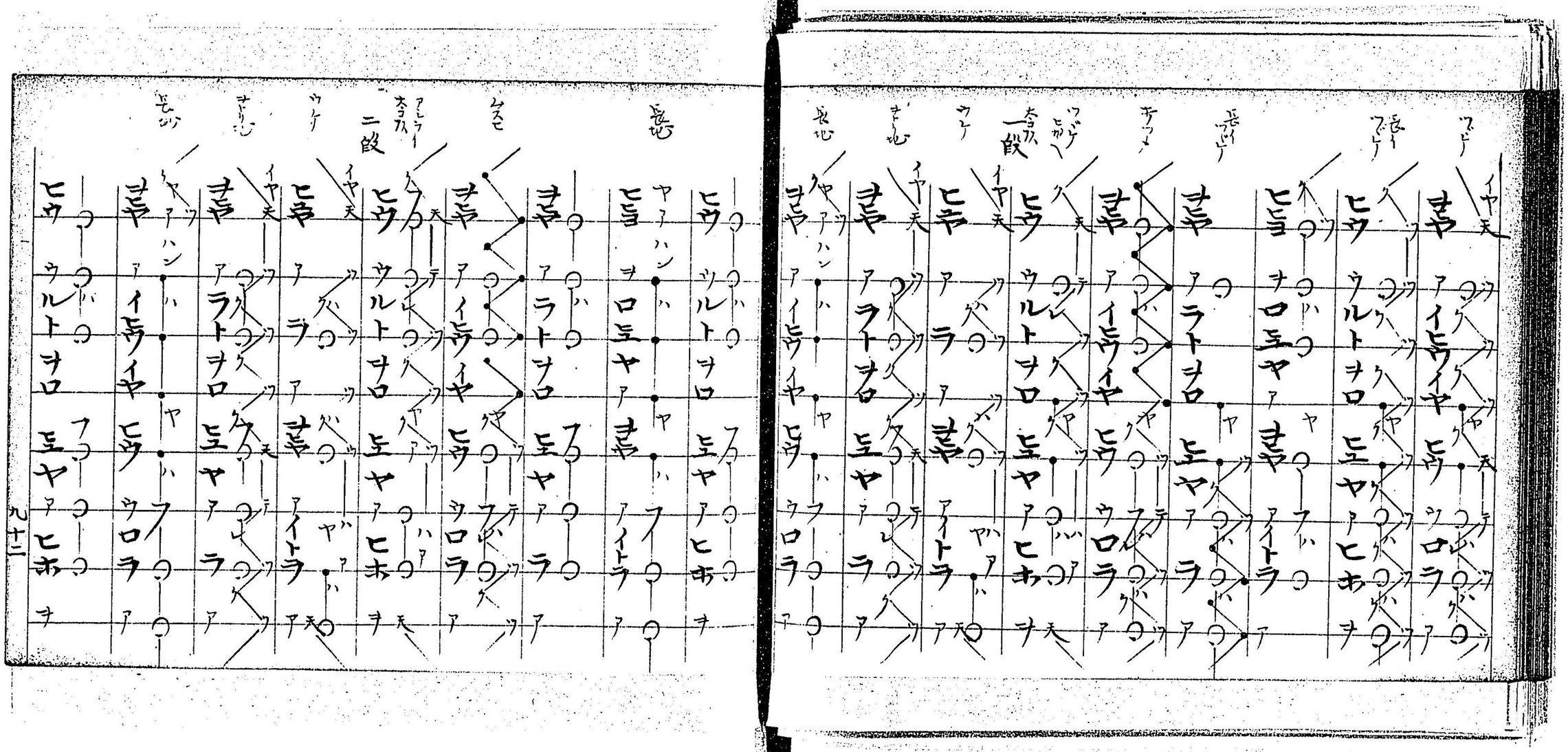
古手行 大敷コイ今ヨリ謡ヒス

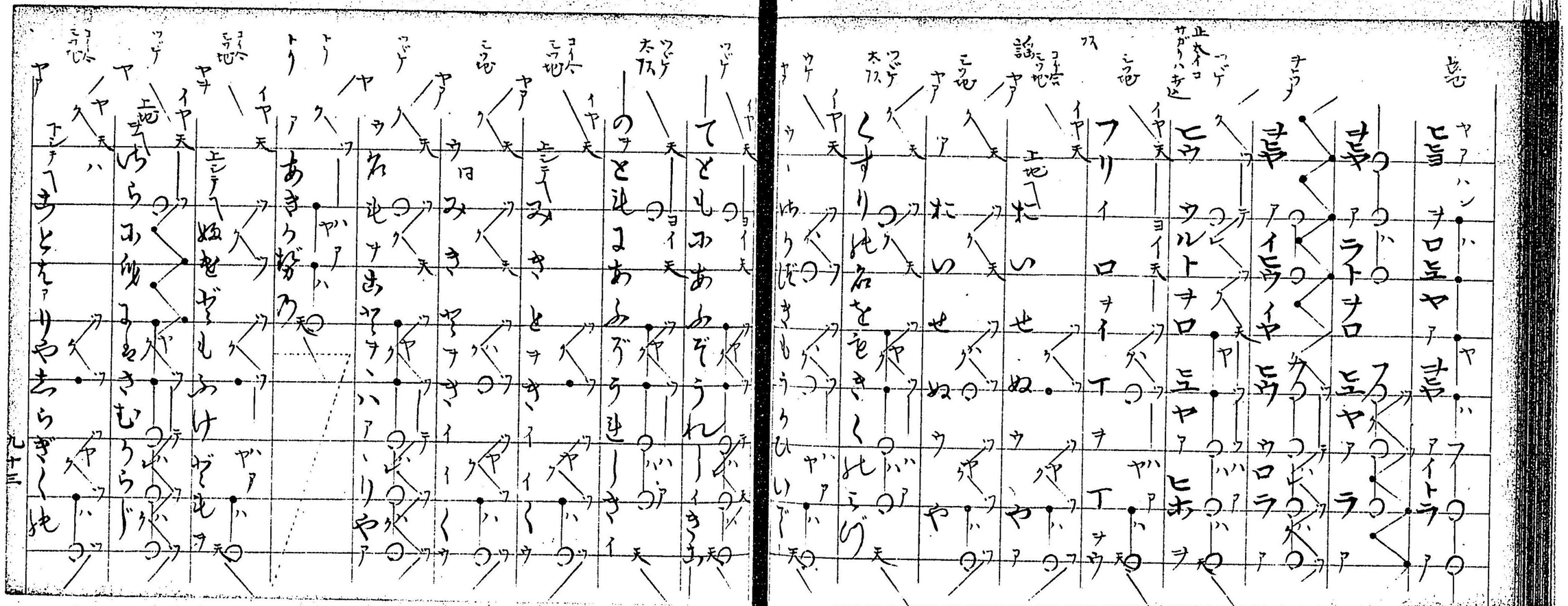





キトリ地
ヌ地
キ行
タ行コキ
ん地
キ行スヤと
タヒ
太ス
一段
ウ
コトリ地
ヌ地
キ行
タ行コキ
ツキ
ヤトリ地ト
ハ行
タヒ
モイス
二段
ケナロシ
ヨトリ地


スイ地サ行
ヤアハン
ヤ
フハア
ヤ
フハア
ヤ
フハア


一段
二段


ヒヨ
ナロヒヤ
ヨヤ
ヨヤ
ラトナロ
ヒヤ
ラ
ヒウ
ウルトナロ
ヒヤ
ヒホ
ヲ
フリ
イロ
ヲイ
ヲ
ヲ
ナウ
たい
せ
ぬ
や
くすり
ぬ
を
を
せ
ぬ
や
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
ぬ
てとも
あ
あ
ぞ
う
れ
のと
ま
あ
ふ
ぞ
ち
ま
し
き
み
と
き
き
み
き
き
ろ
き
き
き

ことハアリやさ〜ぎくの
ヨーきせわ〜をあしら先て
さけをいぎやくまうよ
エシテ〜まきびやもごらんぎら
ん上地つきはしらくはもおき
ヤこころハしんやうろ
ヒ地ちのちらもり
ヒ地ちのちらもり
猩猩うまひをまそうよ
あしの葉ふえをふき

ヤイおらの法ゞみどうやうう
ちイ上シテこゝろ
ちきゝもゝまる
うらかゝ
ぜヒ地
あきらゝ、ちらべや
ヨリマイ元
ヲ込
のこゝまるうん
ヲヒヤ
ヲヒヤイ旨
ヲヒヤアリウヒ
ヲヒヤラ
ヲヒヤイホヲヒウヒ
ヲヒヤイ旨
ヲヒヤアリウヒ
ヲヒヤラ

初段